まごころ ふれ愛
日高信用金庫

日高信用金庫 創立一〇〇周年記念誌 1921-2021

日高信用金庫

# Hidaka Shinkin Bank




# HISTORY

日高信用金庫 創立100周年記念誌

*1921–2021*

Hidaka Shinkin Bank

# 100th HISTORY

日高信用金庫 創立100周年記念誌

*1921–2021*



二十間道路桜並木［新ひだか町・2002年撮影］

# Messages

日高信用金庫の拠点地区 振興局長・各自治体首長の皆さまから、メッセージをいただきました。



日高振興局長
生田　泰さま

## 地域に親しまれ頼りになる金融機関として

日高信用金庫は、大正10年「浦河信用組合」として設立されて以来、永きにわたり地域の金融機関として、地域経済の発展にご尽力されるとともに、社会福祉や環境整備、青少年育成などの活動に取り組むなど、地域に大きく貢献してこられたことに、深く敬意を表します。

新型コロナウイルス感染症の影響の長期化に加え、原油・原材料価格の高騰など、厳しい状況が続いている一方、軽種馬市場やホッカイドウ競馬が好調となるなど、明るい話題もある中で、日高地域がその魅力を一層高め、持続的に発展していくためには、地域に寄り添い、地域経済を支える貴金庫の果たす役割はますます重要となるものと考えます。

貴金庫におかれましては、100周年を契機として、これまで以上に地域に根ざし、事業者の良きパートナーとして、また、地域に親しまれ頼りになる金融機関として、ますますご活躍されますことを心からご期待申し上げます。



新冠町長
鳴海 修司さま

## 地域の発展・成長に大きく貢献

日高信用金庫が創立100周年という大きな節目を迎えることを心よりお慶び申し上げます。創立100周年記念事業として、「ひだかしんきん文庫」による児童図書のご寄贈、社会福祉事業としてポータブル緊急電源のご寄贈、及び「記念植樹・桜」をご寄贈いただきましたことに心から感謝申し上げます。

日高信用金庫は創立以来、高度成長期からオイルショック、バブル景気とその崩壊、様々な社会の変容の中、地域の企業や住民生活を手厚くサポートされ、地域社会の繁栄に尽力されてまいりました。また、様々な地域貢献活動を実施され、文化・環境・教育など広く地域社会の活性化に積極的に取り組まれ、地域の発展・成長に大きく貢献されておりますことに深く敬意を表します。

創立100周年を機として、今後とも地域発展のためにご協力賜りますようお願い申し上げますとともに、日高信用金庫の益々のご繁栄を念願し、お祝いの言葉といたします。



新ひだか町長
大野 克之さま

## 地域にとってなくてはならない存在

この度、日高信用金庫が創立100周年の節目を迎えられ、心からお祝いを申し上げます。

このような節目を迎えられましたのも、地域の企業や住民のための金融機関として、相互扶助の基本理念を基に日々邁進してこられた皆さまのご努力の賜物と存じます。

この日高において、設立時から永きにわたり地域社会の持続的な発展のため様々なお力添えをいただき、地域にとってなくてはならない存在となりました。

また、今日まで当町への地域振興資金や児童遊具などの寄贈、地域イベントへの積極的な参加、奉仕活動などに献身的に取り組まれ、令和3年には包括連携協定の締結もいただくなど、地域社会へのご貢献に対し、心から感謝を申し上げる次第であります。

今後とも町政の伸展にご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、日高信用金庫の一層のご発展と皆さま方のご健勝、ご多幸を祈念申し上げましてお祝いの言葉といたします。

浦河町長
池田　拓さま



## 地域経済の牽引役として

日高信用金庫の創立100周年、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

日高信用金庫は、大正10年に地域の経済を支える金融機関として設立され、以来100年もの永きにわたり、当町の発展、成長に大きく貢献されておりますことに深く敬意を表しますとともに、厚くお礼を申し上げます。

これまで日高信用金庫は大正、昭和、平成と激動の時代の中を逞しく歩んでこられ、令和に入ってからも、新型コロナウイルス感染症という地域経済の根幹を揺るがす事態が続く中にあっても、地域のために様々な事業に取り組まれ、ご尽力いただいております。

このたびの100周年にあたり、あらためて歴代の役職員の皆さまのご尽力に、心から敬意と感謝を申し上げます。

結びとなりますが、日高信用金庫が地域経済の牽引役として、ますますご活躍されますことと、皆さまのご健勝を心から祈念申し上げ、お祝いのご挨拶といたします。

様似町長
荒木 輝明さま



## 今後もなお一層の相互協力を

「地域にとってなくてはならない信用金庫」の経営理念のもと、大正10年4月創立から今日に至るまでの100年、4つの年号を歩んで来られたその道のりは、貴金庫の並々ならぬ経営努力、経営戦略があったものと拝察いたします。

これまでの永きにわたり、地域特有の第一次産業をはじめ、地域企業や地域住民と密接に関わりながら、日高地域の経済の礎を築くとともに、今も持続的な地域の発展に一翼を担っていただいていることに対しまして深く敬意を表すものです。さらに、本業務以外においても、地域を住みよい環境とするため、積極的なボランティア活動を実践されるなど、社会の見本となり地域に多大なる貢献をされていることと存じます。

結びに、本町といたしましても、今後もなお一層の相互協力をしながら、地域経済の持続的な発展を図るとともに、貴金庫の益々のご繁栄と職員皆さまのご健勝をご祈念申し上げ、創立100周年にあたってのお祝いの言葉といたします。



えりも町長
大西 正紀さま



## 地域に根差した金融機関として

この度、日高信用金庫が記念すべき創立100周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

戦後間もない昭和27年7月に幌泉支店を開設され、また、昭和39年4月からは、えりも町指定金融機関として公金収納なども取り扱いを開始し、経営理念である「地域にとってなくてはならない信用金庫」のとおり、事業者をはじめ、町民にとって不可欠な存在として発展してこられました。

この間、植樹祭への協賛や放課後児童クラブへ遊具を寄贈されるなど、地域の振興、地方自治の進展のために様々な形で御貢献いただいており、感謝の念に堪えません。

日本経済、世界経済の状況は目まぐるしく変化していますが、今後も、大沼理事長を中心に、役職員の皆さま方が一丸となって、地域に根差した金融機関として事業に取り組まれますよう御期待申し上げますと共に、貴金庫が今後益々発展されますことを祈念いたしまして、記念誌発行へ寄せる挨拶といたします。

広尾町長
村瀬　優さま



## さらなる先導的な役割を

日高信用金庫の創立100周年を心よりお祝い申し上げます。

大正10年に有限責任浦河信用組合として設立し、組織変更、営業地区拡大を経て創立100年という大きな節目を迎えられました。

これまで、地域に密着した地域企業・産業への経営支援はもとより、「まちづくり」に関しましても包括連携協定など様々な活動を展開し、大きく地域へ貢献してきたところであり、改めて貴信用金庫のこれまでのご尽力に対し、深く敬意を表する次第であります。

先達が築き上げた地域の経済・社会を次の世代へ引き継いでいくためにも、さらなる先導的な役割を果たしていただき、事業展開されることを、切にご期待申し上げます。

結びになりますが、貴信用金庫におかれましては、地域とともにますます発展されますことを祈念し、お祝いの言葉といたします。




# ごあいさつ

平素より、日高信用金庫に格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、創立１００周年記念誌を刊行するにあたり、ご挨拶を申し上げます。

おかげさまで、当金庫は令和３年４月１３日に創立１００周年を迎えることができました。

これもひとえに、会員、お取引先をはじめとする地域の皆さまの永年に亘るご支援とご愛顧の賜物と深く感謝申し上げます。また、今日に至るまで幾多の困難を乗り越え、金庫の発展にご尽力いただきました先輩役職員各氏に対し、心から敬意を表したいと存じます。

さて、これまでの歩みを顧みますと、大正１０年４月１３日に「浦河信用組合」として歩みを始めた当金庫は、組合員数が１５０名程度でした。その後、昭和初期の金融恐慌の混乱や浦河大火を経験し、やがて高度経済成長を迎えました。平成に入り日本経済のバブル崩壊や金融の自由化、ペイオフ全面解禁など経済環境の変化にさらされましたが、地域の皆さまと共に堅実に歩みを進め乗り越えて参りました。その間、営業地区の拡張とともに、平成１９年には札幌支店を開設、その結果、現在の会員数は1万名を超える規模となりました。

このところ、「新型コロナウイルス感染症」の影響も徐々に和らいで参りましたが、当金庫が創立１００周年を迎えた令和３年は、まさに「新型コロナウイルス感染症」が世界中で猛威を振るい、これまでに経験したことのない状況に直面いたしました。当金庫においても、予定していた創立１００周年記念式典をはじめいくつかの記念事業が、中止や延期を迫られたことは誠に残念でなりません。これから先、皆さまが以前のような生活を取り戻すことができることを切に願うところであります。

創立１００周年で掲げたスローガン『これまでも、これからも、このまちで』を実践すべく、日高信用金庫は、これまでと変わらず、協同組織金融機関の特性と独自性を発揮して、地域社会の持続的な発展に尽力するとともに、役職員一同新たな１００年に向け、地域の皆さまと共に歩んでいきたいと存じますので、今後ともより一層のご支援ご愛顧を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和５年８月

CONTENTS

目 次




皆さまからのメッセージ …… 002〜005

ありがとう100周年／理事長ごあいさつ …… 006・007


## 駆け抜けて一世紀
## 日高信金History


［巻頭グラビア］
ふるさと 四季の情景 …… 012〜015

第六代理事長　奥田惣兵衛の哲学 …… 016〜021

あの日あの時…日高信金の100年 …… 022〜053

永きにわたるご愛顧に感謝を込めて
日高信用金庫 創立100周年記念事業 …… 054〜061






## 日高信金のつながり
## Relationship


［日高信金OBクロストーク］
思い出す、あの日あの時。
～私たちの金庫時代～ …… 064〜075

わがまち自慢

本店営業部・堺町支店／浦河町 …… 076〜081

静内支店・三石支店／新ひだか町・新冠町 …… 082〜087

様似支店・えりも支店／様似町・えりも町 …… 088〜093

広尾支店・札幌支店／広尾町・札幌市 …… 094〜099

理事長を囲む座談会 …… 100〜109

職員の課外活動 …… 110〜113

経営理念 …… 114

CONTENTS

目次


資料編

現役員 …… 116・117
歴代組合長・理事長 …… 118・119
役員任期一覧 …… 120〜123
歴代総代任期一覧 …… 124〜126
地区別総代 …… 127
組織図 …… 128
地区・店舗 …… 129
店舗・職員紹介
　本店営業部 …… 130
　静内支店 …… 131
　三石支店 …… 132
　様似支店 …… 133
　えりも支店 …… 134
　広尾支店 …… 135
　堺町支店 …… 136
　札幌支店 …… 137
本部紹介
　経理管理部／総務部 …… 138
　融資部／業務部 …… 139
　事務部／監査部 …… 140
廃止店舗 …… 141
カレンダーの変遷 …… 142〜151
商品の変遷 …… 152・153
商品広告の変遷 …… 154・155
システム導入変遷 …… 156〜159
業況の推移 …… 160〜162

年表 …… 163〜187

編集後記 …… 188


- 本書は日高信用金庫のみならず、より広く地域の歴史を後世に残そうという趣旨のもと「記念誌」として企画した。
- 内容は「駆け抜けて一世紀〜日高信金History」「日高信金のつながり〜Relationship」「資料編」「年表」の4部構成とした。
- 「あの日あの時…日高信金の100年」では、地域の出来事と当金庫のあゆみを並列して記述し、写真とともに歴史を振り返ることのできる誌面とした。
- 用字用語は原則として「常用漢字」「現代仮名遣い」を用いたが、固有名詞など一部例外としたものもある。
- 年号は西暦を基本とし、分かりやすいよう元号を付記したが、座談会など一部のコンテンツには適用せず柔軟に運用した。
- 原則として2022（令和4）年末までの記述とした。
- 巻末の年表「社会・地域に動き」では個人名の敬称を省略し、法人名についても株式会社等の企業形態を省略して慣用的な略称を使用した。
- 役職員の部署および肩書きは2022（令和4）年3月31日現在のものとした。





ふるさと
四季の
情景

From our hometown

春になるたび思う、
やっぱり、このまちの桜が一番。



祭りで受け継がれてきたのは、
わがまちを愛する心と
奉仕の精神。

―新ひだか町―

## 桜並木

2000本を超える桜並木が7kmにわたって続く静内二十間道路。近くの山々のエゾヤマザクラなどを1916（大正5）年から3年かけて移植したものだそうです。「日本の道100選」や「日本さくら名所100選」にも選ばれ、いまや全国に知られる観光スポットになりました。100数年前、こんなに美しい並木に生長すると想像できた人はいたでしょうか。未来のために、今できることを。日高信用金庫も新冠町から広尾町までの6町で植樹活動を続けています。

―広尾町―

## 十勝港まつり

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、3年ぶりに開催された2022年の十勝港まつり。商工会が主催する「仮装盆踊り大会」も2年遅れて50回目を迎えました。みんなで夏を楽しもう、まちをもっと面白くしようと、この企画を始めた先輩たちは、まさか半世紀も続くとは思っていなかったかもしれません。
親から子へ、子から孫へ、受け継がれていく夏の楽しい思い出。まちを愛する心と奉仕の精神も、祭りを通じて伝えられていきます。



# 港は早朝からにぎやか。鮭が帰ってくると、まちもにわかに活気づく。

## ふるさと 四季の情景

From our hometown

―様似町―

### 秋鮭漁

9月から11月は秋鮭定置網漁のシーズン。港では夜明け前から張りのある声が飛び交います。漁場に仕掛けた定置網はずっしりとした重さ。乗組員は揺れる船の上で網をぐいぐいと引き上げます。ベーリング海やアラスカまで旅をしてふるさとへ帰ってくる秋鮭。その中でも日高ブランド「銀聖」として出荷されるのは、3.5kg以上の銀毛鮭だけ。漁師と一緒に船に乗って網を引き、水揚げした鮭をちゃんちゃん焼きで味わう「漁師体験ツアー」も話題を呼んでいます。





# 人を乗せず、競争もせず、自由に駆ける馬を見たい。

―浦河町―

### サラブレッド

競走馬として走ることを運命づけられて育つサラブレッド。日高の牧場では鞍も鐙（あぶみ）もつけず、自由気ままに駆ける馬の姿を見ることができます。母馬に甘える子馬の仕草や、風をきって気持ちよさそうに走る様子は、いくら眺めていても飽きることはありません。「サラブレッド観光と乗馬のまち」浦河町は、日本競馬初の五冠馬シンザンをはじめ、ミスターシービー、テイエムオペラオーなど、歴史に名を刻んだ名馬たちのふるさとでもあります。

# 第六代理事長 奥田惣兵衛の哲学



1960（昭和35）年に日高信用金庫の理事長に就任した奥田惣兵衛は、
1997（平成9）年まで37年間、金庫経営の指揮を執りました。
高度経済成長期からバブル経済破綻まで激動のさなか、
常に時代の先を読み、いち早く「企業情報室」を創設して
情報の活用の重要性を訴えるなど、
優れた洞察力で強いリーダーシップを発揮しました。
奥田理事長の訓示や挨拶はいつも示唆に富んでおり、
ひとことも聞き漏らすまいと熱心にメモを取る役職員も
少なくありませんでした。
そうして記録された「奥田語録」の中から、
今も色褪せることのない金言を紹介します。



## 奥田惣兵衛の残した言葉

**日高の産業を守り、日高の産業を興して**
**地域社会の活性化を図ることが金庫の本来の使命である。**
各人、各店、それぞれの考えや立場があるが、
基本は地域の皆さまといろいろな立場を通して話し合い、
さまざまな機会をとらえて相談し合っていく体制を作らなくてはならない。
そして金庫は「日高信金らしい風格と風味」を出していってほしい。
**忘れてならないのは、常に世界の動向や政治の推移から**
**目を離さないことである。**
そして、それらの情報を収集するために、
また、情報を正しく分析するために、一生懸命に勉強してほしい。

〈1987（昭和62）年1月5日　新年訓示〉

経営の健全化のためには、経費の節減、合理化を図ることは
もちろんであるが、
**先ず考えるべきなのは「金庫にとって何が必要であり、**
**何が不必要であるか」**を知らなければならない、ということである。

〈1987（昭和62）年4月　地区総代懇談会挨拶〉

男性社会であった金庫の体質を男女平等の体質に変え、
人材の育成に心掛けていくべきである。
**行動力に富んだ勇気と気迫をもった「積極果敢な人材」が必要である。**

〈1987（昭和62）年4月　地区総代懇談会挨拶〉

「人をつくる」ということは、指導者や管理職が職員一人ひとりに気を配り、
その職員一人ひとりが与えられた職務を使命感と責任を持って
成し遂げていく職場づくりをすることである。
**優良企業はしっかりとした企業哲学を持っており、**
**その企業にはゆとりと明るさがある。**

〈1987（昭和62）年8月14日　定例役員会での挨拶〉

**同じ信金といっても、都市部の信金と地方の信金は自ずと違う。**
もちろん銀行とは体質が違うのだから、
**自金庫の置かれている環境を十分認識して、**
**金庫らしさを生かした経営**をしなければならない。

〈1988（昭和63）年2月　役員室での談話〉

**支店長は保守的であってはならない。**
革新的にアクションをすべきである。
全てに万能であれ、とは言わないが、視点を広げる努力をするべきである。

〈1988（昭和63）年3月11日　財務局検査講評後に開催した支店長会議での訓示〉

**手間ひまを掛けないと人は育たない。**
労を惜しんでいてはいけない。
忙しいからできないという、後ろ向きの考えでは進歩はあり得ない。

〈1988（昭和63）年3月11日　財務局検査講評後に開催した支店長会議での訓示〉

時代を予測したり、予見したりすることは、人間の力では到底あり得ない、
神以外にはできないことである。
しかし、神には意志はない。ビジョンもない。
**人間には創造力があり、信念と強い意志を持って行動できる**し、
ビジョンを描いて活動することができる。
それが「英知」であり、「勇気」であり、「決断」であると思う。

〈1988（昭和63）年10月　役員室での談話〉

地域開発、リゾート開発がブームになっているが、
ブームは熱しやすく冷めやすいので、出来上がったものは画一的で個性がない。
これは典型的な日本型の行動パターンを示すものである。
**まちづくり、地域興しとは、長い時間をかけて**
**歴史や伝統をつくりあげていくものであろう。**

〈1988（昭和63）年10月　役員室での談話〉



**情報は集めることに意義があるのではなく、**
**いかに早く活用するかに意義がある**ことを忘れてはならない。
日本は国際オンチだというが、
これは国際情報の不足と活用の拙さからきている。

〈1988（昭和63）年10月　役員室での談話〉

最近、金融機関は「預金」という負債を背負っていることを忘れて
「融資」をしているようだ。
**金融機関の使命、基本を忘れた営業が社会を混乱させ、**
**何か浮き足立っているとしか思えない。**

〈1988（昭和63）年11月8日　定例役員会挨拶〉

**金融機関は情報産業**としての性格を強め、
良質で多量の情報を提供できる金融機関ほど、競争上優位に立つことになる。

〈1989（平成元）年4月　役員室での談話〉

この地域には、この地域なりの進め方、この地域なりの哲学を、
この地域に根付いた考え方を、役職員一人ひとりが持っていなければならない。
**この地域で東京の真似をしてみても、また札幌の真似をしてみても、**
**どうにもならない。**

〈1990（平成2）年1月4日　新年訓示〉

地域密着とは**地域の皆さんの中に飛び込んで、**
**地域の皆さんと一緒になって、血の通った温もりのあるお付き合い、**
経営をすることである。
金庫がこの地域で果たしていくべき役割があるはずである。
それは地域振興はもとより、地域文化、教育、福祉、スポーツなど
あらゆる分野を通じて、金庫が地域に溶け込み、金庫を知ってもらう、
ご愛顧をいただく、ということである。

〈1990（平成2）年4月17日　定例役員会挨拶〉

金庫の歴史を振り返る機会を持つことは、とても意義がある。
なぜかというと、歴史を振り返り、**歴史を謙虚に学ぶということは、ただ過去を見るだけではなく、これから先行きを読むのにとても役立つ**からである。

〈1991（平成3）年4月13日　創立記念日内祝いのメッセージ〉

信用組合としての設立は全道で**8番目という早い創立**であり、
今にして思うと**創立にかかわった先人の勇気と英断に頭の下がる思い**がする。
金庫70年の歩みは、とりもなおさず、地域の皆さまの心からのご支援と
歴代の経営に携わった方々の地域経済と金庫の発展へのあくなき情熱、
そして、それを支えた職員のひたむきな努力のたまものであると言える。

〈1991（平成3）年4月13日　創立記念日内祝いのメッセージ〉

金庫は70年間をかけて「地域に誇れる企業」に成長した。
これからは**「地域が誇れる企業」になる**ことを目指さなければならない。

〈1991（平成3）年4月13日　創立記念日内祝いのメッセージ〉

信用金庫はギブアンドテイク。
自分たちの体力にあった範囲で行動を起こすべきで、
資金量が多いとか少ないとかということではなく、
**資金量に見合った経営に徹すること。**
これからの金庫経営は足元を良く見つめ、世界、日本の情勢を見て、
産業、地域経済をどうしていくかである。

〈1995（平成7）年10月24日　定例役員会挨拶〉

攻めることは抵抗なく行えるが、守りに入ると、
下手、気落ち、うまくいかないということが起きる。
**人生でも攻めるときよりも守るときに、その真価が問われる。**

〈1997（平成9）年2月18日　定例役員会挨拶〉





## 第六代理事長　奥田惣兵衛（1918〜2003）

1918（大正7）年生まれ。浦河町で古くから食料品や雑貨、石炭などの卸小売業と定置漁業を経営する家の四代目当主。早稲田大学商学部卒業後、三菱商事（株）を経て、1943（昭和18）年から奥田商店に勤務。浦河商工会議所の設立を呼びかけ、1967（昭和42）年からは会頭として港まつり、さくらまつりなどの地域振興に取り組んだ。
また、1955（昭和30）〜1991（平成3）年まで浦河町議を9期36年のあいだ務め、このうち21年間は議長を担い、日高町村議会議長会の会長、北海道町村議会議長会の副会長も任された。
一方、1958（昭和33）年からは浦河漁協の組合長としても活動。北海道漁業共済組合長、全国漁業共済組合連合会副会長として水産業の振興に尽力。1978（昭和53）年には日ソ漁業協力協定締結のための日本政府顧問としてソ連を訪問するなど、日本の水産業振興に貢献した。
こうした八面六臂の活躍が高く評価され、1959（昭和34）年と1975（昭和50）年には紺綬褒章、1979（昭和54）年には藍綬褒章、1991（平成3）年には勲四等旭日小綬章と数々の褒章・勲章を受章。
2003（平成15）年8月9日、84歳で逝去の際には日高信金や浦河漁協など6者合同での葬儀が営まれ、故人に浦河町から名誉町民の称号が、内閣総理大臣からは従五位が授与された。



# あの日あの時…日高信金の100年

日高信用金庫の前身である浦河信用組合は、第一次大戦後、
経済大恐慌さなかの1921（大正10）年、地元中小企業金融の
円滑化と地域の経済・産業振興の希望を担い設立されました。
この100年、戦争、高度経済成長、競馬ブーム、
バブル経済の発生と崩壊、町村合併、自然災害など、
大きな変化の波が幾度となく押し寄せたものの、
それらを乗り越え今日に至りました。
地域密着の金融機関として歩んできた一世紀にわたる足跡を、
地域の歴史とともに振り返ります。

日高信金の出来事

## 1921（大正10）年4月13日
### 有限責任浦河信用組合 設立



1917年「産業組合法」の改正で市街地信用組合制度が設けられ、道内でも支庁所在地に信用組合を設立する政策が進められました。浦河町でも浦河支庁（後の日高支庁）産業課の指導のもと設立機運が高まり、地元商工業者の協同で金融の便を図ろうと「有限責任浦河信用組合」が設立されました。初代組合長は呉服商・北川貞七、組合員は150名余。道内では7番目の信用組合でした。創立総会は市街地のみどり湯を会場とし、二合瓶を片手に話し合う和やかな雰囲気だったそうです。当初は事務所も借家で、50円や100円など小口の貸出が多かったといいます。

▼大正期の浦河大通三丁目から二丁目を望む



社会の出来事

## 浦河町のなりたち

江戸時代、松前藩によって浦川場所が設けられ、主に漁業による交易が行われていました。1871年には開拓使による入植が始まり、翌年に浦河支庁が置かれてからは、郵便局、裁判所、警察署などの官庁が相次いで設置され、日高地方の行政・経済の中心として発展。1915年4月1日に浦河町、西舎（にしちゃ）村、杵臼（きねうす）村の3町村が合併し、一級町村制の「浦河町」となりました。





## 1926（大正15）年4月20日
### 奥田惣兵衛（二代目）、第二代組合長に就任



初代組合長の北川貞七がふるさと四国へ帰ることとなり、奥田惣兵衛（二代目）が第二代組合長に就任しました。奥田惣兵衛は漁業のほか、米穀・海陸物産・雑貨・煙草の元売りなど、事業を手広く営んでいた実業家でした。

## 1927（昭和2）年2月13日
### 高木徳治、第三代組合長に就任



戦前の記録がなく理由は明らかではありませんが、高木徳治が第三代組合長に就任しました。高木徳治は1917年創立の「日高電気株式会社」の出資者の一人で、この会社の創業により火力発電の電気がひかれ、浦河町の一部に電灯が灯されるようになりました。

## 1929（昭和4）年
### 自前の組合事務所に

創業以来、組合事務所は借家でしたが、1929年に浦河町大通４丁目に事務所1棟を購入。自前の建物で業務ができるようになりました。






## 1927（昭和2）年8月1日
### 静内までの鉄道が国有化され日高線に

1924年、日高拓殖鉄道が王子製紙（苫小牧）にパルプの原材料を運ぶ目的で佐瑠太（現在の富川）から静内まで軌道を敷設。これを1927年に鉄道省が苫小牧軽便鉄道とともに買収し国有化。苫小牧―静内間は国鉄「日高線」になりました。

## 1930（昭和5）年
### 念願の浦河港が完成



1921年に始まった浦河港の建設は、1930年に完成。9月の竣工祝賀会では旗行列や提灯行列などが華やかに行われました。マグロ、イカ、イワシなどが好漁で造材業も好調、港は農林水産物の移出に大きな力を発揮しました。

# 満州事変から日中戦争と、暮らしは徐々に戦時体制へ

日高信金の出来事

## 1931（昭和6）年9月8日

### 浦河信用組合 創立10周年

創立10周年を記念した祝賀活動写真会を開催しました。上映作品などは不明です。
ちなみに現存する道内の映画館として最も古い映画館「大黒座」は1918年の創業。現在、日高エリアに唯一残る映画館です。



▲昭和初期のころの大黒座

## 1935（昭和10）年4月15日

### 保証責任浦河信用組合に組織変更

有限責任浦河信用組合から、保証責任浦河信用組合へ組織変更。さらに1944年3月31日には「市街地信用組合法」に基づく「浦河信用組合」に組織変更しています。

## 1937（昭和12）年

### 戦時インフレに呼応して貯蓄を奨励

1937年に始まった日中戦争が長期化し、生活に必要な物資や食糧が欠乏するようになりました。1937年制定の「国家総動員法」に従って当金庫は「国防愛国護国貯金」の取り扱いを開始。貯蓄を奨励したものの、資金運用の道が狭まり経営基盤が脆弱化していきました。政府は1939年に「価格等統制令」を公布。値上げを禁止する物価統制が行われましたが、闇市場の横行、買いだめなどでインフレが激化しました。



▲愛国婦人会 浦河町分会（昭和12年10月）

1930 | 1931 昭和6年 | 1932 | 1933 | 1934 | 1935 | 1936 | 1937 | 1938 | 1939 | 1940 昭和15年 | 1941

社会の出来事

## 1932（昭和7）年8月13日

### 浦河支庁を日高支庁に改称

1922年8月、札幌、函館、小樽、旭川、室蘭、釧路に市制を施行、これにともない支庁が再編され、14支庁に。その後、1932年に浦河支庁が日高支庁へ、河西支庁が十勝支庁へ改称されました。



## 1934（昭和9）年11月3日

### 幌泉（現えりも町）－広尾間に「黄金道路」が開通

断崖を切り拓く難工事で着工から竣工までに8年の歳月を要した日勝海岸道路が完成。多額の費用がかかったことから「黄金道路」と呼ばれるようになりました。現在は浦河町から浦幌町を経て釧路市に至る国道336号の一部となっています。



▲写真は昭和40年代の黄金道路

## 1935（昭和10）年10月24日

### 国鉄日高線浦河駅が開業



日高線が日高三石駅から延伸となり、浦河駅が開業しました。1937年にはさらに様似駅まで延伸して日高線が全線開通。1943年には富内線が開業しました。

## 1939（昭和14）年12月3日

### 日本赤十字社北海道支部浦河療院が開院

内科、外科、小児科、産婦人科、耳鼻咽喉科の5診療科で開院。ベッド数は42床、職員13人という小さな病院でした。1952年に十勝沖地震で病院が大きく損壊し、復旧対策のため一時的に浦河町立病院となりましたが、その後「浦河赤十字病院」に戻り、現在は日高エリアの地域センター病院として地域医療の中核を担っています。



# 太平洋戦争を経て、平和で民主的な新しい日本へ

日高信金の出来事

## 1941（昭和16）年3月

### 創立20周年

創立20周年を迎えた1941年、当金庫の期末預金残高は34万4,023円、貸出金残高は9万4,301円、出資金は6万5,118円、組合員数は530名。事業は順調に推移していたものの、この年12月8日には太平洋戦争が勃発、世の中は急速に戦時体制に移行しました。

## 1942（昭和17）年5月3日

### 奥田惣兵衛（三代目）、第四代組合長に就任



第四代組合長に奥田惣兵衛（三代目）が就任しました。

## 1943（昭和18）年1月15日

### 浦河大火

浦河町では明治から昭和初期にかけて浦河大火と呼ばれる大規模な火災が数回発生しましたが、当時は戦時中であり、国防上、報道の規制がされ資料が少なく、詳細は分かっていません。



▲ 浜町大火（大正13年7月）



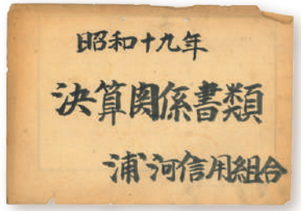
▲ 浦河大火（明治41年2月）



◀ 旅館大火（昭和20年3月）

## 1944（昭和19）年3月31日

### 浦河信用組合に組織変更




「市街地信用組合法」により浦河信用組合に組織変更しました。北海道拓殖銀行が1937年に開設した浦河支店が店舗を移転したため、大通2丁目の旧拓銀浦河支店の建物を購入。1945年5月1日に当金庫の本店を移転し、開店しました。

## 1945（昭和20）年7月14日～15日

### 北海道太平洋沿岸一帯に空襲

北海道太平洋沿岸一帯に米軍艦載機が来襲、幌泉（現えりも町）市街地を中心に2日間空襲を受けました。浦河市街も空襲で20棟24戸が焼失。当金庫裏の北電社宅に爆弾が直撃しました。
8月1日には、浦河・様似間沖合に米潜水艦が出現。8月6日に広島、9日に長崎に原子爆弾が投下され日本はポツダム宣言を受諾。
終戦の詔勅がラジオで放送され、国民に敗戦が知らされました。

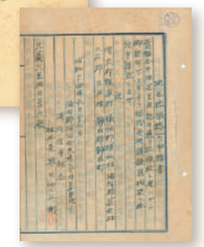
## 1946（昭和21）年2月17日

### 生活資金の貸付

終戦後「金融緊急措置令」が公布され預貯金は封鎖、新円切り換えが行われました。浦河町では戦災者や引揚者に対する生活資金の貸し付けを行い、当金庫がその役割を担いました。預金封鎖は1948年7月21日に解除され、新円に一本化されました。

▼認可書





▲ 拡張申請書

## 1949（昭和24）年11月25日

### 営業地区の拡張

浦河町内に加え、幌泉（現えりも町）、様似、荻伏（現浦河町）、三石と静内（現新ひだか町）の各町村に営業地区を拡張しました。1950年4月1日には「中小企業等協同組合法」に基づいた浦河信用組合へ組織を変更しました。

## 1950（昭和25）年7月21日

### 田中清三、第五代理事長に就任

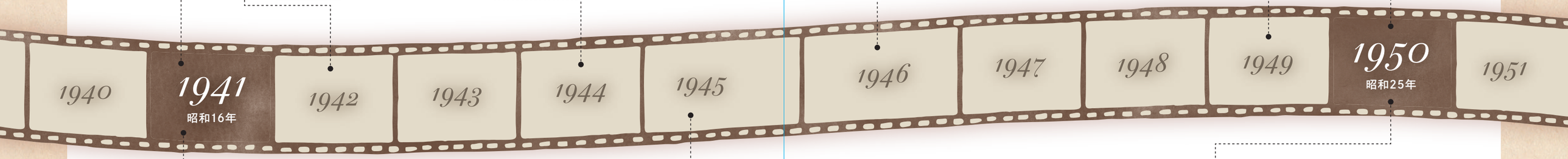


奥田惣兵衛（三代目）退任により、田中清三が理事長に就任。
9月には様似支所を設置しました。

## 1950（昭和25）年12月8日

### 戦後、地方銀行が浦河に出店

戦争中、大蔵省の一県一行主義により道内の銀行は北海道拓殖銀行に集約されましたが、戦後は、また新たな金融機関が次々と誕生しました。1950年12月には北海道無尽株式会社が本店営業部浦河会場を開設、翌年、北海道相互銀行と名称を変更し、1952年には浦河会場が浦河支店に昇格しました。その後1989年に札幌銀行となり、2008年10月には北洋銀行と合併しました。




社会の出来事

# 「信用金庫」として新たにスタート、支店を続々オープン

日高信金の出来事

### 1952（昭和27）年2月1日
**「日高信用金庫」に組織変更**

前年の6月15日に公布された「信用金庫法」により組織変更、名称を「日高信用金庫」に変更しました。

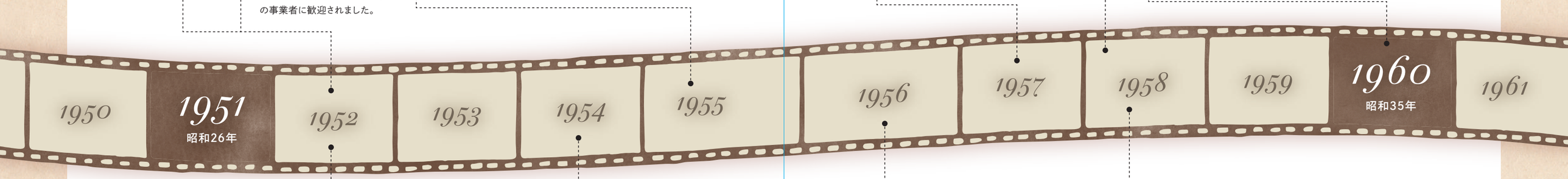
### 1952（昭和27）年5月24日
**新冠村に営業地区拡張**

営業地区を新冠村まで広げたほか、新たに幌泉支店（7月5日）、静内支店（8月22日）をオープン。さらに翌年4月20日には三石支店もオープン。地域の事業者に歓迎されました。

### 1955（昭和30）年10月24日
**初めてのシンジケートローン**

浦河町の軽種馬生産者が英国から種牡馬を輸入するため資金づくりに苦労していたことから、当金庫を含む金融機関が協力して日高で最初のシンジケートを組織。種牡馬ヒンドスタン号を輸入したところ、その産駒シンザンが日本競馬史上初の五冠を達成しました。これをきっかけに優秀な競走馬の輸入が増え、日高の軽種馬の資質向上と軽種馬産業の発展に大きく寄与できました。


▲馬事資料館で展示されるヒンドスタン号の剥製




社会の出来事

### 1952（昭和27）年3月4日
**十勝沖地震発生**

マグニチュード8.2の十勝沖地震が発生し、浦河では震度5の揺れを観測。津波による被害も発生しました。浦河町内の家屋全壊は57戸、浦河高校校舎が全壊したほか浦河赤十字病院も被災。津波警報発令により当金庫も臨時休業になりました。



### 1954（昭和29）年7月30日
**浦河町役場庁舎が完成**



日高支庁長の旧公宅敷地に浦河町役場の新庁舎が完成しました。9月に落成記念と町制40周年記念式典が行われました。

### 1957（昭和32）年7月
**観光旅行積立による旅行を催行**



観光旅行積立による第1回「洞爺湖湖水祭観光旅行」を催行しました。このころ日本は神武景気のピーク。白黒テレビ、洗濯機、冷蔵庫が豊かさの象徴となり「三種の神器」と呼ばれました。

### 1958（昭和33）年4月
**広尾町に営業地区拡張**

広尾郡広尾町に営業地区を広げ、5月1日に広尾支店をオープンしました。当初、本通6丁目に仮店舗を設けて営業を開始し、翌年9月に本通8丁目に店舗を新築移転しました。

### 1960（昭和35）年9月24日
**奥田惣兵衛（四代目）、第六代理事長に就任**



第五代理事長田中清三が急逝し、第六代理事長に奥田惣兵衛（四代目）が就任しました。奥田新理事長は戦前から食料品や雑貨、石炭などの卸売・小売業に加えて定置網漁業を経営。1958年からは浦河漁協組合長も務める町の名士。当金庫は新しい理事長のもと、この年度末に預金残高10億円を達成しました。

### 1956（昭和31）年9月30日
**浦河町と荻伏村が合併**



「町村合併促進法」に基づき浦河町が荻伏村を編入しました。この年北海道は冷害凶作に見舞われ、漁業も凶漁で地域経済は厳しい一年となりました。

### 1958（昭和33）年6月
**浦河町奥様貯金協力店会が誕生**

現金で買い物をすると50円に対して1円、または100円に対して2円のシールを配る奥様貯金会が発足しました。シール台紙に一定の枚数を集めて当金庫の窓口に持参すると同額の貯金になります。全道で初めて浦河町で誕生し、近隣にも拡大。浦河・様似では「奥様預金」、静内は「さくらシール」、えりもは「スマッピースタンプ」、三石は「はまなすシール」、広尾は「サンタシール」などの名称で好評を得ました。浦河では50年ほど続いたものの、加盟店の減少により2009年に終了しています。



# 高度経済成長期、地域は活気にあふれ信金の業績も右肩上がりに

日高信金の出来事

## 1961（昭和36）年7月9日
### 創立40周年祝賀記念式を挙行

日高支庁長や全信連札幌支店長ほか来賓を招き創立40周年の祝賀記念式を行いました。歴代代表者や物故役員のご遺族、支店開設功労者、永年勤続総代に感謝状を贈呈したほか、10年以上勤務する永年勤続職員の表彰も実施。浦河町労働会館で行った園遊会ではアトラクションとしてHBCオーケストラを招き、演奏を楽しんでもらいました。
この年は3月末に預金10億円を達成。三石町に歌笛出張所を開設し地域の方に歓迎されたほか、金庫の歩みを記した40周年記念誌も作成しました。



## 1962（昭和37）年10月
### 6町に消防車を寄贈



40周年を記念して、本支店所在6町に消防車購入費用を寄付しました。まず1962年10月に静内町、翌年3月に浦河町と広尾町、5月には三石町と様似町、1965年3月には幌泉町（現・えりも町）に消防車「信金号」を寄贈。公益に尽くしたことで内閣総理大臣より褒状をいただきました。

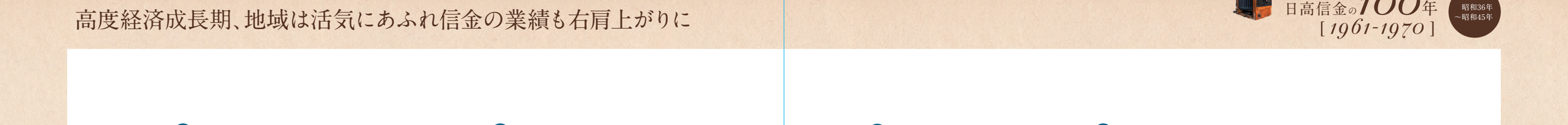
## 1964（昭和39）年4月1日
### 幌泉町、浦河町、三石町の指定金融機関に

指定金融機関とは公金の事故をなくすとともに出納係の業務の合理化を図るために設けられた制度です。当金庫では1964年に幌泉町（現・えりも町）から指定金融機関の指定を受けたのが最初。4月1日から指定金融機関として職員一名を町役場出納室に派遣しました。1969年9月に北洋相互銀行が支店を廃止して撤退したため、同年10月、当金庫が店舗跡を買収して移転しました。1967年3月1日には浦河町から、6月1日には三石町からも指定金融機関として指定されました。

## 1969（昭和44）年11月19日
### 本店新築落成並びに創立50周年記念式典を挙行

本店の新築のため3月に着工し、工事中は仮設店舗で営業し11月中旬に新しいビルが落成しました。地下1階に社員食堂、1階に営業室と金庫、2階に理事長室、役員室、事務室、電話交換室、3階に会議室、研修室、事務機械室、4階に大会議室と和室をしつらえた瀟洒な建物です。11月19日には北海道財務局長や日高支庁長などを招いて、本店落成式並びに創立50周年式典を盛大に執り行いました。






社会の出来事

## 1962（昭和37）年6月15日
### 地域への貢献

1962年には浦河町スポーツセンターの完成を記念して、オルゴール付きステージ引幕を寄贈しました。また1970年6月には広尾町商工会館の建設資金として50万円を寄付。地域のニーズに応じて、できる限りの支援を心掛けてきました。



## 1963（昭和38）年8月14～16日
### 第1回浦河港まつり開催

地域のイベントとして定着している浦河港まつりが、この年スタート。当金庫でもお祭りを盛り上げようとカウンターの女子職員が浴衣姿で接客をした年もありました。



## 1965（昭和40）年12月26日
### 神馬シンザン、五冠馬達成



浦河町で生まれたシンザン号。皐月賞、東京優駿、菊花賞を制し、天皇賞（秋）、有馬記念でも優勝して、日本競馬史上初めて五冠馬の称号を勝ち取りました。

## 1970（昭和45）年10月1日
### 幌泉町、町名を「えりも町」に変更

幌泉町が町名を「えりも町」に変更したのにあわせ、当金庫幌泉支店も「えりも支店」に改称しました。



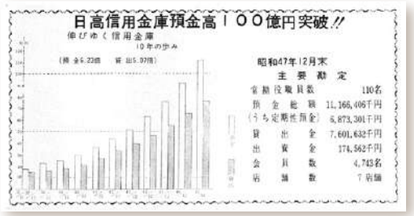
# コンピュータが導入され、業務効率が飛躍的に向上

日高信金の出来事

## 1972（昭和47）年12月25日

### 預金残高100億円達成

1968年10月に預金残高50億円を突破してから4年、いざなぎ景気の背景もあって1972年12月には100億円に達しました。
その後、オイルショックを経て1976年11月には210億円、1978年12月には300億円と、預金残高は右肩上がりに増えました。




▲ 昭和48年1月20日発行「日信だより 第27号」

## 1973（昭和48）年5月19日

### 大樹町、忠類村に営業地区拡張

広尾町と同じ広尾郡である大樹町と忠類村を営業地区に加える申請を出し、北海道財務局より認可されました。なお、忠類村は2006年に中川郡幕別町に編入されたため、営業地区から除外となりました。

## 1974（昭和49）年4月1日

### 様似町の指定金融機関に

北海道拓殖銀行が様似支店を廃止し派出所に変更したため、様似町が拓銀の指定金融機関の指定を解除。代わって当金庫が指定を受け役場内での派出窓口事務を担当することになりました。拓銀は様似支店の店舗と敷地を町に寄付したため、当金庫様似支店との評価差額を払って取得、店舗を移転しました。

## 1975（昭和50）年10月20日

### 普通預金オンラインが稼働



北海道信金共同事務センターに加盟して本店営業部で普通預金オンラインを稼働しました。翌年10月18日には全国信用金庫為替オンラインも稼働、全国470信金が従来のテレックスからデータ通信に切り替わりました。さらに1979年２月には全銀為替システムとドッキング。都市銀行、地方銀行など全国708金融機関がひとつのネットワークで結ばれました。

## 1976（昭和51）年3月1日

### 電子計算機導入によるオフラインスタート

日立8150型の電子計算機を導入し、ネットワークを介さずコンピュータで集中処理を行う、いわゆる「バッチ処理」をスタート。業務の効率が格段に向上しました。

## 1979（昭和54）年12月20日

### 日本銀行の歳入代理店に

1978年12月より日銀札幌支店と当座預金の取り引きを開始、1年後に歳入代理店の指定を受けました。当初は本店営業部のみの指定でしたが、その後、様似支店、えりも支店、三石支店と広がり、1984年には全支店が歳入代理店として指定。法人税・所得税などの国税も窓口で払い込みができ、サービス機能がより充実しました。

## 1980（昭和55）年6月2日

### 「招運だるま積金」を発売

60周年に向けて開発した「じっくり千金 しあわせ開眼『招運だるま積金』」は、当金庫初のネーミング預金。貯蓄に対する意識が高まるなか、定期積金で地域の住民の方々の財産形成のお手伝いをすることを目的としました。




社会の出来事

## 1971（昭和46）年

### 消防組合が発足

えりも、様似、浦河の3町による日高東部消防組合、三石、静内、新冠の３町による日高中部消防組合が発足しました。

## 1974（昭和49）年12月

### 森進一さん「襟裳岬」が日本レコード大賞

森進一さんが「襟裳岬」で日本歌謡大賞と日本レコード大賞をダブル受賞。えりも町の知名度が全国的に大きく向上しました。




## 1977（昭和52）年3月1日

### 200カイリ漁業水域設定

ソ連が200カイリ漁業専管水域を設定。北洋漁業が大きな打撃を受けました。

## 1977（昭和52）年8月7日

### 有珠山が32年ぶりに噴火

有珠山山頂で大噴火が起こり、成層圏にまで達する噴煙が発生。日高地方にも火山灰が降り注ぎました。有珠山は23年後の2000年3月31日にも今度は西山山麓で噴火しています。



写真提供／有珠山ロープウェイ

# 時代は昭和から平成へ。地価や株価が急騰し、バブル景気に

日高信金の出来事

## 1981（昭和56）年10月24日
### 創立60周年記念式典を挙行

「ありがとう感謝の60年」をキャッチフレーズに記念事業を実施しました。4月には創立60周年を記念した定期預金「黄金」を新発売したほか、10月24日には北海道財務局長、日本銀行札幌支店長、日高支庁長、管内町長ほか多くの来賓を招き、創立60周年記念式典を本店大会議室で実施。引き続き浦河町堺町基幹集落センターで祝賀会も行いました。
また、職員からシンボルマークのデザインを募集。円の中に襟裳岬を含む日高地方の扇状地形をデザインしたマークを決定、コスモスをシンボルフラワーに制定しました。この年、本店にATMを管内で初めて導入し、キャッシュサービスがスタートしています。




## 1982（昭和57）年9月
### 浦河町、静内町、様似町に新しい支店を開設

当金庫9番目の店舗として浦河町堺町支店がオープンしました。2年前の1980年11月には静内町に山手支店、2年後の1984年10月には様似町に大通支店と、この時期、新しい支店の開設が相次ぎました。

## 1984（昭和59）年7月14日
### 日高しんきん年金友の会発足

お客さまの親睦の場として各支店ごとに「日高しんきん年金友の会」を発足させました。年金振込の指定または指定を予定している人は誰でも入会ができ、ゲートボールや旅行などの行事に参加できます。また、ゴルフ同好会などサークル活動もスタートしました。

## 1984（昭和59）年12月
### 預金残高500億円を達成

1984年12月に預金残高500億円を達成したあと、1988年12月には600億円、1989年9月には700億円と、この時期、短期間に預金残高が積み上がりました。

## 1986（昭和61）年10月4日
### 江差信用金庫と姉妹金庫提携



国の主導で金融自由化が進められるなか、情報交換を通じて互いの繁栄を目指そうと江差信用金庫と姉妹金庫提携を締結しました。ともに古くから開かれた港町を基盤としており、経営規模も同程度。年金やカードローンなど合同の推進キャンペーンを実施して切磋琢磨し、相互訪問の協議会は1992年まで続きました。なお、江差信用金庫は2017年に函館信用金庫と合併し「道南うみ街信用金庫」として再スタートしています。

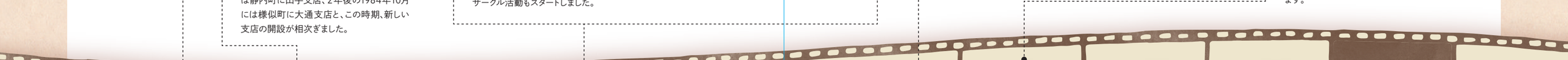
## 1986（昭和61）年
### 支店所在地の全町にATMを設置

支店所在地の全町にATMの設置が完了。さらに店舗外ATMとして浦河町の役場庁舎、翌年には浦河赤十字病院内にも設置して利便性を高めました。



## 1987（昭和62）年5月20日
### 地区内景況動向の発表スタート

顧客に対する情報サービスの一環として、地区内の景況動向を業種別にまとめ、毎月20日、報道機関や町、商工会、農協漁協などに提供することにしました。現在は地区内経済概況へ名を変え、広く活用されています。



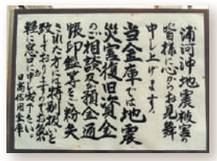

社会の出来事

## 1981（昭和56）年7月〜
### 日高エリアで豪雨災害

7月に日高東部、8月に日高西部に豪雨があり水害が発生したほか、台風による被害も続きました。当金庫では被災した新冠町、静内町、三石町、浦河町、様似町に見舞金を贈りました。

## 1982（昭和57）年3月21日
### 浦河沖地震発生

マグニチュード7.1の浦河沖地震が発生。当金庫では被災した商工業者に対し国民金融公庫や町の災害資金などを紹介したほか、当金庫独自の低利の災害復旧資金制度を用意。経営安定化を支援しました。また、この地震を教訓に対策の整備に着手、1991年に「地震対策要綱」を制定。地震発生時の対応などをマニュアル化しました。




## 1985（昭和60）年
### 一村一品にアイデア提供

特産の日高昆布を若い世代にアピールするために当金庫の若手職員がアイデアをしぼり、漁組および支庁の一村一品推進関係者に提案。規格外の昆布でミニサイズ商品を開発し、話題を集めました。

## 1985（昭和60）年
### 浦河映画サークル誕生

大黒座の応援団として結成された浦河映画サークル。1986年から毎年秋に映画祭を主催するほか、短編の自主制作映画にも取り組み、当金庫職員も会員として活動に参画しました。1995年には北海道の地域文化選奨特別賞を受賞しています。



## 1987（昭和62）年6月
### 浦河アカデミー発足

地域活性化を目指す民間有志が「浦河アカデミー」を発足しました。会員から年1万円の会費を集め、著名人を招いて地域文化を盛り上げようという趣旨に賛同し、当金庫が事務局を引き受けました。当初集まった会員は480人。第一回講演会には映画評論家の水野晴郎さん、第二回にはフジテレビニュースキャスターの山川千秋さん。以降13年にわたって続け、作家の立松和平さんや元サッカー日本代表の釜本邦茂さん、女優の沢田亜矢子さんら多くの著名人を浦河に迎え、地域の文化振興に寄与しました。

## 1989（平成元）年9月18日
### はまなす国体

はまなす国体の馬術競技会が浦河町で開催され、浦河町から3選手が出場しました。



# バブル経済が崩壊、日本経済は平成不況へ

日高信金の出来事

## 1991（平成3）年10月5日

### 創立70周年記念式典挙行

70周年に向け女子職員によるプロジェクトチームが中心となってうさぎのキャラクター「ラン」を開発、この新キャラクターで総合口座通帳やキャッシュカードを発行しました。
このほか9月には記念ゴルフ大会、10月に記念式典、11月には株式会社オリエンタルランド常務取締役・北村和久さんの記念文化講演会など、さまざまな催しを主催。この間、5月13日には奥田理事長が勲四等旭日小綬章を受章。70周年に叙勲という当金庫にとって喜ばしい一年となりました。



◀70周年の記念行事

1992年1～2月には全役職員を5班に分け、2泊3日での東京視察旅行に出かけたほか、勤続10年の職員には腕時計を贈呈、勤続25年の職員には夫婦同伴の国内旅行をプレゼントしました。

70周年大運動会 ▶（10月27日）

職員間の親睦のため3年に1回実施していた運動会。70周年は職員150人と家族100人が参加して盛大に開催。綱引きや年代別リレーなど12種目で盛り上がりました。



## 1992（平成4）年3月

### 感謝の地域還元寄付を実施

創立以来、地域に支えられてきたことへの謝意として、営業エリア7町（新冠、静内、三石、浦河、様似、えりも、広尾）に対し各500万円ずつ、総額3,500万円の地域還元寄付を行いました。また会員の皆さまへ創立70周年記念配当として2分増配の1割配当を実施。創立70周年記念誌「いい人、いい街」も発行しました。

## 1993（平成5）年10月

### 全道信金卓球大会で3年連続準優勝

第40回全道信用金庫卓球大会（団体戦）で、日高信用金庫チームが3年連続準優勝と健闘しました。チーム編成は男子6人女子2人。大会はトーナメント戦で行われ、北見信金と名寄信金チームに勝った当金庫が決勝で北海信金チームと対戦して敗れ、惜しくも準優勝となりました。




社会の出来事

## 1993（平成5）年

### 平成の米騒動

記録的な冷夏による凶作で米不足が発生。
買い占めで価格が高騰し、タイ米を輸入するなど混乱が生じました。

## 1993（平成5）年7月14日

### 若駒用トレセン完成

浦河町にサラブレッドの若駒を調教する日高育成総合施設軽種馬育成調教場（トレセン）が完成しました。外国産馬の出走枠拡大など競馬界の国際化に対応し、優秀な競走馬を育成しようと日本中央競馬会（JRA）が建設したもの。直線で1,800メートルのグラス馬場や冬季用の屋内馬場などが揃っています。




## 1994（平成6）年6月21日

### 日高しんきん友の会の創立10周年

日高しんきん友の会の創立10周年記念式典を、様似町の中央公民館ホールで開催しました。設立時386名だった友の会の会員は9支部1,143名と大きな組織に成長。記念式には約450名が参加して、これまで勤続10年の支部長を表彰。会員による民謡や踊りなど、にぎやかな余興のステージを楽しみました。

## 1994（平成6）年8月20日

### 全道信用金庫野球大会で準優勝

全道32金庫の野球大会は4地区で地区予選が行われます。道央地区は当金庫と札幌信金、苫小牧信金、石狩中央信金、空知信金、道央信金、信金共同事務センター、全信連札幌支店の8チームで行われ、当金庫が優勝。全道大会では道東代表の紋別信金を破り、決勝で道北代表の富良野信金と対決。5対8のスコアで敗れ、準優勝しました。ちなみに1992年、1999年にも準優勝をしています。

## 1995（平成7）年2月

### 懸賞金付き定期預金を発売




低金利時代の新商品として最高5万円が当たる懸賞金付きの定期預金「スーパーチャンス」をリリースしました。大きな話題を集め、期日前に20億円を完売。不況で低迷する地元企業を支援するため「地域活性化特別融資」および「地域活性年末ふれあい融資」も開発しました。

## 1995（平成7）年7月3日

### 本店にコスモス館を増築



国道拡幅工事で店舗前の駐車場の一部が買収されたこともあり、本店の裏手駐車場側（旧日高支庁跡地）にコスモス館を増築し、会議室、電算室、駐車場、食堂、図書館を整備しました。さらに11月16日には従来の店舗「しんきん館」を改装してリニューアルオープン。軽種馬関連業に増えた外国人従業員が使いやすいよう、日英両語で画面操作できるバイリンガル機能搭載のATMも導入しました。
1996 年 2 月には新館完成と本店改修を記念して、浦河赤十字病院へ在宅介護巡回車および介護機器を寄贈しました。

# 銀行や証券会社が破綻する金融危機。経済はデフレスパイラルへ

日高信金の出来事

## 1996（平成8）年4月

### 不良債権を積極開示

預金量1,000億円以上の信用金庫には破綻先債権の開示が義務づけられましたが、当金庫は1,000億円以下であり開示は任意でした。しかし、ガラス張りの経営を目指そうと1996年3月期は破綻先債権に延滞債権、金利減免債権を含めて不良債権を積極的に公開。破綻先債権のみの開示に絞る信金が多いなか、すべて開示したのは道内では4金庫だけでした。

## 1997（平成9）年4月28日

### 金子洋一、第七代理事長に就任



奥田惣兵衛（四代目）理事長が会長に就任し、代わって金子洋一が第七代理事長に就任しました。このとき奥田理事長は77歳で、理事長としての在任期間が37年。道内信金の理事長では最年長でした。

## 1997（平成9）年～

### 地域の消防組合に消防車両を寄贈



地域の防災に寄与したいと6年計画で消防関係車両の寄贈を行いました。1997年3月に日高東部消防組合えりも支署、1998年1月に南十勝消防事務組合広尾消防署、7月に日高中部消防組合静内消防署、1999年10月には同組合三石支署、2000年12月には同組合新冠支署、2001年10月には日高東部消防組合浦河消防署、2002年10月には同組合様似支署と、合計7カ所に無線機やサーチライトを備えた指令車や団員輸送用マイクロバスなど消防関係車両を届けることができました。

社会の出来事

## 1997（平成9）年9月25日

### 日高と十勝を結ぶ「天馬街道」開通







浦河町と十勝管内広尾町を結ぶ国道236号、通称「天馬街道」が開通しました。かつては、えりも町を経由する海沿いの国道336号しかなく、悪天候による通行止めもしばしばでしたが、天馬街道の開通で浦河一帯広間が31.2kmも短くなりました。当金庫では開通を記念した定期預金を発売。3年間にわたり抽選で236名の契約者に観光施設の入場券をプレゼントしました。

## 1997（平成9）年11月17日

### 北海道拓殖銀行が経営破綻

バブル経済破綻の影響を受け、北海道唯一の都市銀行だった北海道拓殖銀行が経営破綻しました。翌年11月、北海道内の営業を北洋銀行に譲渡し、11月13日に98年の歴史に幕を下ろしました。取り引き金融機関を変更する事業者のため当金庫でも中小企業への融資の円滑化を優先、経営個別相談などに注力しました。

## 1999（平成11）年4月4日

### ATMの休日稼働

本店と静内支店のATMを日曜・祝日も稼働させることにしました。日高管内では一部の郵便局で実施していましたが、民間金融機関では初めての取り組み。午後2時までだった土曜日の稼働時間も、本店、静内、堺町、三石、大通（様似）、えりも、広尾の各支店で午後5時まで延長しました。

## 1999（平成11）年7月19日

### 地域活性化のための「ふれ愛融資」

不振が続く地場企業のお役に立てるよう「地域活性化ふれ愛融資」を創設しました。使途は設備投資、運転資金など事業用に限り、返済期間など条件を緩和、金利も通常より有利に設定し、融資総額は20億円にのぼりました。
この年3月末の当金庫の自己資本比率は27.86％で、全国395金庫の中では稚内信用金庫に次いで第2位。高い健全性が示されました。

## 2000（平成12）年7月12～13日

### 全道信用金庫理事長会議を浦河町で開催

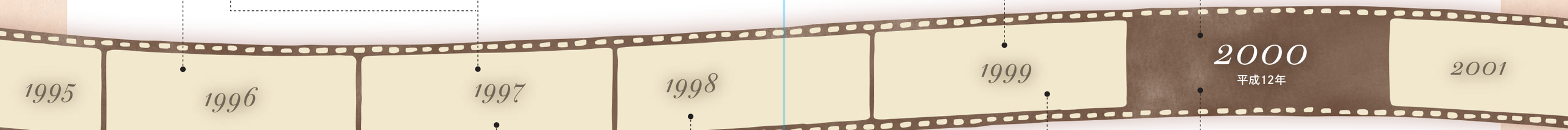



全道各地から31金庫の理事長が集まる会議を浦河町総合文化会館で開催しました。主なテーマは、拓銀の破綻以来、増大している信金の役割について。当金庫が幹事となり周到に準備した結果、2日間にわたる会議を成功裏に終えることができ、役職員一同安堵しました。

## 2000（平成12）年7月24日

### 納税準備預金の取り扱い開始

消費税滞納の急増に頭を悩ませている日高地区納税貯蓄組合連合会などの要請を受け、納税資金を積み立てる納税準備預金「納太郎（おさめたろう）」の取り扱いを始めました。預金利息が非課税で、金利は当時、普通預金の3倍と優遇されていました。




## 1998（平成10）年4月25日

### うらかわ優駿ビレッジAERUグランドオープン

宿泊して乗馬が楽しめるほか、レストランや入浴施設を備えた保養施設「うらかわ優駿ビレッジAERU」がオープンしました。馬に関する情報ライブラリーのほか、宿泊できる優駿ロッジ、団体向けの宿泊室、クラフト体験ができる「アエル工房」、パークゴルフ場などを備えた乗馬体験観光施設です。

## 1999（平成11）年12月31日

### 2000年問題の対策

1999年12月31日から2000年1月1日にかけてコンピュータの誤作動を警戒する2000年問題。当金庫でも年末に27人が宿直して待機。元日早朝から各店舗を含めオンラインの作動テストを行って無事を確認しました。

## 2000（平成12）年

### 町民参加ミュージカル

この年、町民参加のミュージカル「ルピナスの丘」が上演されました。町民参加のミュージカル5作品と日高エリアで初めてのオペラ「夕鶴」の公演をプロデュースしたのは浦河芸術文化事業協会。当時、当金庫の専務理事・澤谷英勝が会長を務めていましたが、地域の文化活動への貢献が評価され、2005年、全国信用金庫協会（全信協）が主催する信用金庫社会貢献賞の個人賞に選ばれました。個人賞を受けるのは道内では初めてのことでした。



# 21世紀、インターネットの普及で世界は急速にグローバル化

日高信金の出来事

## 2001（平成13）年4月13日
### 創立80周年記念事業

80周年のキャッチフレーズは「もっと、ず〜っと、おつきあい」。創立記念日の4月13日は来店感謝デーとして本支店で先着計1,000人にサラダオイルをプレゼントしました。
11月10日には創立80周年記念式典を挙行したほか、地域の皆さまに喜んでもらえるよう、しんきん講演会、ゴルフ大会、パークゴルフ大会、ゲートボール大会なども随時開催。このほか、えりも支店では町特養老人ホームでの花壇整備、広尾支店では本通りの清掃など、支店ごとのボランティア奉仕も実施しました。




## 2001（平成13）年6月16日
### 塩出諭、第八代理事長に就任



21世紀の始まりの年、金子洋一理事長が退任し、新たに塩出諭が理事長に就任しました。この年9月には預金残高が初めて1,000億円の大台に乗りました。

## 2002（平成14）年9月7日
### ミュージカル映画の上映会

全国信用金庫協会が協賛しているミュージカル映画「走れ！ケッタマシン〜ウエディング狂騒曲〜」の上映会を浦河町総合文化会館で開催しました。人通りの少ない商店街で育った子どもたちが自転車競走を始め、それがイベントとなって街の活性化につながるストーリーです。小中学生を招待し、大人には本支店で整理券を配布しました。




## 2003（平成15）年3月18日
### 日高信金 ホームページ開設

業務内容や商品・サービス内容、景況リポートなどを掲載した公式ホームページを開設しました。

## 2003（平成15）年8月9日
### 奥田惣兵衛会長、死去

奥田会長が84歳で逝去し、当金庫ほか6団体で合同葬儀を執り行いました。奥田会長は浦河町の町議会議長を21年務めたほか、浦河漁協組合長、浦河商工会議所会頭など要職を歴任。日本政府顧問として日ソや日韓の漁業交渉に立ち会うなどして活躍。1991年春の叙勲で勲四等旭日小授賞、1959年と1975年に紺綬褒章、1979年に藍綬褒章を受章しています。浦河町の名誉町民として歴史に名前を刻まれました。

## 2003（平成15）年10月
### 地震で被災の事業者に融資

9月26日に十勝沖で発生した地震では、新冠町、静内町、浦河町などで震度6弱の強い揺れを観測。えりも町百人浜などで4mの津波が観測されました。当金庫では山手支店（静内町）、歌笛支店（三石町）、大通支店（様似町）が停電。ATMなどが使用できなかったため、職員は顧客を僚店に誘導し対応しました。また、被災した事業者を対象に無担保ローンの取り扱いをいち早くスタート。道内の金融機関で初めて災害復興のための特別融資を行いました。

## 2003（平成15）年11月
### 「オレオレ詐欺」防止で感謝状



様似町大通支店のATMで100万円を振り込もうとしていた女性からくわしく事情を聞くと「孫が友人の借金の保証人になった」とのこと。浦河署に通報して真偽を確認し、詐欺被害を未然に防止できました。2004年7月にも広尾支店で同様の詐欺を見抜いて広尾署に連絡。職員の機転でいずれも感謝状をいただきました。

2000 | **2001** 平成13年 | 2002 | 2003 | 2004

社会の出来事

## 2001（平成13）年9月
### 日高ブランド鮭「銀聖」デビュー

日高沖で獲れる銀毛鮭のおいしさを多くの人に知ってもらおうと、日高定置漁業者組合がPRのためのネーミングとキャラクターを公募し「銀聖」に決定。2001年から厳選した大型の鮭に認証ラベルを貼付して出荷をスタート。今では日高のブランド鮭としてすっかり定着しています。

## 2001（平成13）年10月1日
### 町営乗馬施設「ライディングヒルズ静内」オープン

馬とのふれあいや乗馬を通しての情操教育や機能回復訓練、健康づくりや生涯学習、後継者育成など、教育・保健・福祉の向上に貢献する社会教育施設としてオープンしました。

## 2002（平成14）年6月23日
### YOSAKOIソーラン祭りで「三石なるこ会」が大賞

毎年6月に札幌市で行われるYOSAKOIソーラン祭り。第11回となる2002年には三石なるこ会が大賞を獲得しました。



# 地域のリーダーを育てる「ひだかしんきん未来塾」がスタート

日高信金の出来事

### 2004（平成16）年1月5日

## 格付けで最高評価三つ星を獲得

国際格付け会社のフィッチ・レーティングスは、国内すべての信用金庫の財務力格付けを発表しました。全国314信金のうち最高の三つ星を獲得したのは32信金あり、そのうち道内は8信金。当金庫は、網走信金、帯広信金、士別信金、大地みらい信金、苫小牧信金、室蘭信金、稚内信金とともに財務の健全性が総合的に高い三つ星の評価を得ました。

### 2004（平成16）年4月

## 政府系2金融機関と業務連携

国民生活金融公庫、中小企業金融公庫との業務協力の覚書に調印。公庫の融資制度が利用しやすくなり、ベンチャー起業の育成や企業再生の分野で協調融資も可能になりました。

### 2004（平成16）年6月

## 2004年版カレンダーが優秀賞に




第23回信用金庫PRコンクールで全国213金庫から集まった約600点の作品のうち、日高信金の2004年のカレンダーが1枚もの部門の優秀賞に選ばれました。営業地区の季節の風景を描いた水彩画に、地域の祭りや行事の紹介をあわせて紹介した内容で、4分の1に折りたたんで使える工夫も評価されました。

### 2005（平成17）年6月14日

## 「ひだかしんきん未来塾」開講

未来塾は若手経営者を対象にした会員制の勉強会です。経営相談のノウハウを持つ大阪のコンサルタント会社と提携し、大学教授など多彩な講師による研修会を定期的に開催。「企業経営の原則」「魅力あるリーダーの条件」などを2年間で学びます。日高管内の若手経営者や会社後継者のほか当金庫の若手職員も一緒に受講し、異業種交流の場としても機能しました。全5期にわたって開催し、2016年6月の終了までに1,276名が参加しました。




### 2005（平成17）年7月11日

## 商工会員など対象にVIPローン

商工会議所と商工会の会員を対象にした「VIPローン」の取り扱いを始めました。原則無担保で第三者保証を必要としないのが特徴。当信金支店のある町の商工会議所や商工会で受け付け、事業者から好評を得ました。

### 2005（平成17）年11月5日

## 「信金経営力総合ランキング」で全国4位

日経金融新聞が全国の信用金庫を収益力、成長力、財務力の3分野で調査して発表した「信金経営力総合ランキング」。1位は高知信金、2位が稚内信金、3位が中栄信金（神奈川）、4位が日高信金と、当金庫が全国上位にランクインしました。

2003 2004 2005 2006

社会の出来事



### 2005（平成17）年1月15日

## 静内が舞台の映画「北の零年」が公開

明治初期、淡路島から静内へ移住を命じられた稲田家と家臣の運命を描いた映画「北の零年」。吉永小百合主演で2004年に静内町や浦河町、新冠町でロケが行われました。




### 2005（平成17）年4月

## ペイオフ全面解禁

金融機関が破たんした場合、預金の払戻保証額を元本1,000万円とその利子までとするペイオフ制。普通預金などを対象に加え全面解禁されました。当金庫では2002年より経営内容を公開するディスクロージャー誌「日高信用金庫の現況」を作成し、決算状況やリスク管理の手法も掲載し、信頼獲得に努めました。

# 地元と道都を結ぶべく、激戦の札幌圏へ進出

日高信金の出来事

## 2007（平成19）年7月6日

### 新ひだか町の歌笛支店を廃止

1961年、三石支店の出張所として開設され、1992年に支店となった歌笛支店。人口が減少したため取り引き業務をすべて三石支店に移管し、営業を終了しました。
店舗跡には不便のないようATMを設置したほか、住民の長年の利用に感謝して歌笛総合住民センターに大型液晶テレビ2台を寄贈しました。

## 2007（平成19）年9月10日

### 札幌に支店をオープン



預金者の札幌移住が増えていることから取り引きの維持には札幌進出が欠かせないと判断し、札幌圏への出店を決めました。札幌支店は札幌市中央区北4条西5丁目の三井生命札幌共同ビル（現・大樹生命札幌共同ビル）4階。路面店ではない空中店舗で、立ち上げ時は職員8人体制。新たに日高西部の日高町と平取町、胆振東部のむかわ町と厚真町、札幌圏7市（札幌、石狩、江別、北広島、恵庭、千歳、苫小牧）が営業地区に加わりました。

## 2008（平成20）年6月17日

### 髙田豊則、第九代理事長に就任



2001年より3期7年間務めた塩出諭理事長が定年により退任し、後任に髙田豊則が就任しました。塩出前理事長は翌年11月、長年の金融業功労が認められ旭日双光章を受章。髙田新理事長も2010年11月に浦河商工会議所の副会頭に選任され幅広く活躍しました。

## 2008（平成20）年9月

### 振り込め詐欺の未然防止で感謝状

様似支店では「息子に100万円を振り込むよう頼まれた」という女性客の話を聞いた職員が、息子へ電話をかけて真偽を確認。詐欺の被害を未然に防止しました。また2010年6月には大通支店の窓口で多額な現金を引き出そうとした女性に、職員が使い道を尋ねて駐在所に相談、被害を免れました。どちらも浦河署から感謝状が贈られています。

## 2008（平成20）年12月26日

### 堺町信金同友会が地元小学校へ図書費を寄贈

当金庫と取り引きのある堺町地区の企業で結成された堺町信金同友会。校舎を建て直し新しくなった堺町小学校の役に立ちたいと、図書242冊の購入費用、約30万円を負担しました。自分たちの暮らす地域を自分たちの手で良くしようという理念は当金庫のお客さまにも共有されています。

## 2009（平成21）年7月8日

### 日高支庁との包括連携協定

日高支庁（現・日高振興局）と当金庫は地方経済の活性化に向けて緊密に情報交換を行うため、包括連携協定を締結しました。民間の金融機関と日高支庁との連携協定締結は初めてのこと。8月には支庁と金庫の主催で「地域資源を活用した食品加工技術の普及セミナー」を開催しました。互いのネットワークで得た地域情報を掛け合わせ、販路の拡大やビジネスマッチング等に役立てています。




## 2010（平成22）年8月6日

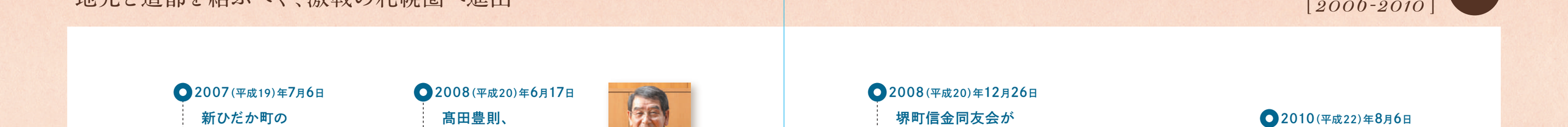
### 様似町と新ひだか町で店舗の統廃合

様似町では大通支店を廃止し、様似支店（本町）と統合しました。ただし町の中心が本町から大通に移っていることから様似支店を大通支店の店舗に移し、実質的に廃止になったのは様似支店。支店に「様似」の名称を残すための措置でした。
一方、新ひだか町では山手地区内の人口や事業所が減っていることから山手支店を廃止、静内支店と統合しました。

## 2010（平成22）年8月9日

### 1室2本部制から6部制へ組織変更

本部の組織機構を1室2本部制から6部制（経営管理部、総務部、融資部、業務部、事務部、監査部）に改めました。リスク統括、人事研修、地域貢献などの担当課も新設。指揮系統を明確化し、業務運営の効率化を図りました。




社会の出来事

## 2006（平成18）年3月31日

### 新ひだか町が誕生

静内町、三石町が合併し「新ひだか町」が誕生。町名は一般からの公募で決まりました。




## 2009（平成21）年

### 「アイヌ古式舞踊」がユネスコの無形文化遺産に

2008年に国会で「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」が採択され、翌年には「アイヌ古式舞踊」がユネスコの無形文化遺産に登録されました。

## 2010（平成22）年4月1日

### 日高支庁が日高振興局に

北海道の14支庁が9地域に再編されることになり、日高支庁は胆振支庁と統合され、2010年4月1日より日高振興局となりました。

## 2010（平成22）年9月28日

### 農商工の連携を目指しセミナー開催




管内の農水産品を活用した新商品開発を進めようと、日高振興局と協力し「農商工連携セミナーin日高」を開催しました。「依存から自立へ」をテーマにした経営コンサルタントによる講演会や、道立総合研究機構食品加工研究センター（江別市）研究員による食品加工技術の紹介など、盛りだくさんの内容。約90名がセミナーに参加し個別相談会も実施しました。

# 大震災の衝撃と、90周年の祝賀と。悲喜こもごもの一年

日高信金の出来事

## 2011（平成23）年

### 日高信金90周年事業

創立記念日の4月13日はご来店感謝デーとして先着1,000名に記念グッズを贈呈しました。6月22日には浦河町や浦河商工会議所との共催で日本政策投資銀行の藻谷浩介さんを招いた講演会を開催。10月22日には創立90周年記念式典を挙行するとともに、日本ユニセフ協会大使を務める歌手アグネス・チャンさんの講演会も主催しました。
このほか「認知症サポーター養成講座」の受講を記念事業に位置づけ、全職員がサポーターの認定を受けました。スポーツ振興にも力を入れ日高しんきん杯少年軟式野球大会を新設したほか、サッカーフェスティバル、ゲートボール大会、パークゴルフ大会、チャリティーゴルフ大会など幅広く実施しました。
11月25日には創立90周年記念旅行を催行し、101名が神戸、大阪、京都、奈良などを巡りました。



◀ 日高しんきん杯少年軟式野球大会の第1回は雨で中止となったものの、2回目以降、日高管内と十勝管内広尾から少年野球チームが参加。毎年トーナメント式で熱戦が繰り広げられています。



「地域の人に目に見える形で恩返しをしたい」と、新ひだか町、浦河町、様似町、えりも町、広尾町の5町に記念植樹と車いすの寄贈を行いました。浦河町ではうらかわ優駿ビレッジAERUの中庭にシダレザクラ、新ひだか町では静内川緑地公園に町花のエゾヤマツツジと、地域にあわせた樹木を選定したほか、各町の特別養護老人ホームなどへ車いすを贈りました。この地域貢献は100周年までの10年間毎年継続して喜ばれています。 ▶

2010

2011
平成23年

2012

社会の出来事

## 2011（平成23）年3月11日

### 東日本大震災が発生

三陸沖を震源に国内観測史上最大の地震が発生。日高管内でも港の倉庫や冷凍冷蔵施設、漁船などが津波による被害を受けました。当金庫では被災した個人を対象に「災害復旧ローン」を、事業者を対象に「復興特別融資」を実施。また窓口振込手数料を無料として義援金を受け付けました。



▲ 津波が押し寄せた浦河港のようす



## 2011（平成23）年3月18日

### 日高信用金庫学生モニター制度創設

創立90周年記念事業の一環として始めた道内信金初の「学生モニター制度」。地元を離れて学ぶ大学生に、外から見た故郷の改善点などを定期的に報告してもらう代わりに奨学金月1万円を支給します。5年間で22人を支援し、そのうち男子学生2人が当金庫へ就職しました。



## 2011（平成23）年9月21日

### 日高産品取引商談会「2011ビジネスマッチングin日高」




北海道日高振興局との包括連携協定の「地元企業の販路開拓や取引機会の拡大」に係る事業です。販路拡大と商品企画力の向上を目的に、管内17企業および道内外のバイヤー5社による商談会を開催。即日の商談成約もあり盛況でした。

## 2011（平成23）年7月17日

### FIFA女子W杯で「なでしこジャパン」が優勝

なでしこジャパンの優勝を機に女性サッカー人口は増加。2015年に札幌を拠点として誕生した「北海道リラ・コンサドーレ」の監督を務めた宗像訓子さんは浦河町の出身。同年9月には浦河町西舎にある軽種馬育成調教センターで合宿を行いました。1993年の開場以来、競走馬以外が調教場をトレーニングで使用したのは初めてのことです。

# 地方創生のため、地域活性化の取り組みに注力

日高信金の出来事

社会の出来事

2011

2012

2013

2014

2015
平成27年

2016

### 2012（平成24）年5月
**ひだかしんきん金融教室開催**

子どものころから正しい金銭感覚を身に付けてもらおうと、えりも町東洋小学校で出前講座を開催。5年生を対象に必要なものと欲しいものの違いや、上手なお金の使い方などを説明しました。



### 2012（平成24）年6月
**2012年版カレンダーが優秀賞を受賞**

当金庫の2012年版カレンダーが、第31回信用金庫PRコンクールのA部門と、第63回全国カレンダー展で優秀賞に選ばれました。カレンダーは各町の港を中心に航空写真を撮影、「空から見たふるさと」をテーマに作成しました。




### 2013（平成25）年6月18日
**岡本豊、第十代理事長に就任**



高田豊則理事長が退任し、後任として岡本豊が理事長に就任しました。

### 2013（平成25）年5月5～6日
**桜舞（オーマイ）サッカーフェスティバル開催**

青少年の健全な育成を目的に、静内ロータリークラブとの共催で少年サッカー大会を開催しました。

### 2014（平成26）年2月
**浦河町初のオリンピック選手**

ソチ五輪スピードスケート代表ウイリアムソン師円選手は、浦河町出身者では初めてのオリンピック選手。池田拓町長を会長に「ソチオリンピック協賛会」が組織され、応援部隊を派遣するための協賛金を集めました。




### 2014（平成26）年3月4日
**日高観光セミナー開催**

食と観光の連携を充実させ、管内の魅力を高めて地域活性化を図るためのセミナーを開催。留萌の「エフエムもえる」から講師を招き、コミュニティ放送局を中心とした地域コミュニティ再生への取り組みについて講演していただいたほか、日高地域パエリア協議会で開発したオリジナルのパエリア試食会も実施。味や提供価格など試食会アンケートも行いました。




### 2014（平成26）年8月1日
**メタボ検診で金利上乗せ**

特定健康診査を含む各種健診の受診者を対象に金利を0.3%上乗せする新型定期預金「ひだかしんきん健康サポート預金」を新発売。受診率向上を目指し浦河町が発案し、当金庫とのコラボレーションで実現しました。




### 2015（平成27）年8月3日
**空き家サポートローンの取り扱い開始**

自治体の空き家対策を後押しするため、解体や改修費用を低金利で融資するローンを開発。リフォームして移住促進につなげる「空き家リノベーションローン」と、解体のみを対象とした「空き家サポートローン」で地方創生を側面から支援しました。

### 2015（平成27）年1月
**土砂流失のためJR鵡川－様似間が不通に**

猛烈に発達した低気圧による高波の影響で、線路下の土砂が流出し、JR日高本線、鵡川駅から様似駅間が不通に。並走する国道235号を代行バスが運行されました。

### 2015（平成27）年9月19日
**アポイ岳が世界ジオパークに認定**

様似町のアポイ岳がユネスコ世界ジオパークに認定されました。ジオパークとは科学的に重要な地質や地形を持つ自然公園。アポイ岳は珍しいかんらん岩の山々と固有の高山植物群が評価されました。当金庫では関連事業への支援として様似町へ50万円を寄付したほか、環境保全活動を応援する定期預金を発売。収益の中から5年間、様似町に寄付を続けました。



# 地域課題の解決に向け、自治体とタッグを組んで

日高信金の出来事

## 2016（平成28）年4月1日

### 梶川仁、第十一代理事長に就任

岡本豊理事長が常勤理事相談役に退き、後任として梶川仁が理事長に就任しました。



## 2016（平成28）年6月21日

### 大沼孝司、第十二代理事長に就任

梶川仁理事長が退任し、後任に常務理事の大沼孝司が理事長に就任しました。



## 2016（平成28）年7月～

### 6町と包括連携協定を締結

2016年7月に様似町と、2018年9月に浦河町と、まちづくりに関する包括連携協定を締結。人口が減るなか、地方創生の推進、観光振興、人材育成、災害対応などで協力を約束しました。同様に2020年4月には広尾町、6月にはえりも町、2021年1月には新ひだか町、2021年2月には新冠町とも締結しています。



社会の出来事

## 2016（平成28）年8月

### 立て続けに三つの台風が上陸

観測史上初めて北海道に1年で三つの台風が上陸し、道東を中心に過去最大規模の水害が発生。同年11月に当金庫広尾支店を新築した際、これを教訓として広尾町に毛布やアルミ製折りたたみ式マットなど防災用品を寄贈しました。

## 2018（平成30）年2月

### 浦河出身選手が平昌オリンピックに出場

浦河町出身のウイリアムソン師円選手と小田卓朗選手がスピードスケート日本代表として平昌五輪に出場。町民有志による「平昌オリンピック浦河協賛会」が協賛金を募集して応援しました。




## 2018（平成30）年

### 新規創業セミナー開催

浦河商工会議所との共催で「新規創業セミナー」を開催しました。新規創業に向けて準備している方や創業して間もない方を対象に、資金調達、販路拡大、社会保険の仕組みなど、必要分野の講師を当金庫が手配し、セミナーを5回開催しました。




## 2018（平成30）年1月

### 様似町出身の画家の作品でカレンダーを制作

様似町出身の画家・久野志乃さん（札幌在住）に原画を依頼し2018年カレンダーを制作。様似支店で原画となった油彩「島の総体、海辺の調律」の展示会をして好評を得ました。



## 2018（平成30）年9月1日

### 道内最古の映画館・大黒座が創業100周年

道内最古の映画館・大黒座が創業100周年を迎えました。人口減で来館者が減る大黒座を支えているのは、2008年、地元有志や映画ファンらで結成された「大黒座サポーターズクラブ」。初代会長は元専務理事の澤谷英勝、三代目会長には常務理事新保雄司が就任し、上映作品の宣伝やカンパ集めなどの活動を通して運営を支援しています。新保常務理事は2020年5月12日、映画祭の開催などに尽力したことが評価され信用金庫社会貢献賞の個人賞を受賞しています。




2015 2016 2017 2018 2019

# 平成から令和へ。一世紀にわたる歴史の重みを胸に刻んで

日高信金の出来事

## 2018（平成30）年11月13日

### いぶり・ひだか 食のステップアップ相談会

地元食材を活用した加工食品を中心に、商品の磨き上げや販路拡大に向けた取り組みを支援する相談会です。日高振興局との包括連携協定事業の一環で、消費者ニーズや料理人の視点による改良アドバイスを実施。地元企業の販路拡大や取引機会の拡大につなげます。




## 2019（平成31）年4月1日

### 岡三証券と業務提携




投資信託や少額投資非課税制度（NISA）など資産運用の希望者を岡三証券（東京）に紹介する業務提携を締結しました。
当金庫にとって証券会社との提携は初。岡三証券も道内の信金との提携は初めてです。

## 2021（令和3）年4月13日

### 日高信用金庫100周年

新型コロナウイルス感染拡大のため2020年から緊急事態宣言が断続的に繰り返され、記念式典は残念ながら中止の判断に至りました。
感染対策として密閉・密集・密接の3密を避けることが推奨されたため、そうした環境下でも可能な事業を検討。地域での消費を活性化する「なないろチケット」の発行や、フォトコンテストの開催、桜の記念植樹、図書館への児童書の寄贈など、100周年を地域の皆さまと一緒にお祝いできるよう多彩な取り組みを行いました。
この記念誌の取材も延期が続き、刊行が遅れましたが、皆さまのご協力のお陰でなんとか完成することができました。




◀ 地域振興に役立ててもらうため、新冠町、新ひだか町、浦河町、様似町、えりも町、広尾町にそれぞれ1,000万円を寄付しました。



店舗では窓口に飛沫防止のアクリル板を設置、職員はマスクを着用。感染防止に努めつつ、エッセンシャルワーカーとして業務を続けました。 ▶

2018 | 2019 | 2020 令和2年 | 2021

社会の出来事

## 2018（平成30）年9月

### 北海道命名150年記念のミュージカルに小中高校生を招待

幕末の探検家・松浦武四郎とアイヌ民族の交流を描いたミュージカル「松浦武四郎−カイ・大地との約束」が浦河町総合文化会館で上演されました。当金庫では管内の小中高校生200人を招待するための費用20万円を寄付しました。




## 2018（平成30）年9月6日

### 胆振東部地震で全道ブラックアウトが発生

厚真町で北海道では初めて震度7の揺れを観測。苫東厚真火力発電所が停止したことから連鎖的に他の発電所も停止し、全道全域でブラックアウトが発生。道路の信号機が消灯、鉄道やバス、航空便も運休し、交通網が麻痺しました。

## 2020（令和2）年2月

### 新型コロナウイルス感染拡大

1月下旬に道内1例目の感染者が確認されて以降、札幌を中心に感染が拡大。2月末には鈴木直道知事が緊急事態を宣言し、学校が一斉に休校となりました。感染症の拡大は、暮らしや世界経済に大きな影響を及ぼしました。

## 2020（令和2）年10月23日

### ＪＲ廃止で沿線7町が合意

日高本線の沿線7町は鵡川駅−様似駅間116kmを廃止することでJR北海道と最終合意。路線バスへの転換が決定し、2021年4月1日の廃止が決まりました。

## 2020（令和2）年7月15日

### 馳星周さんが直木賞を受賞

浦河町出身の作家・馳星周さんが「少年と犬」で第163回直木賞を受賞。夏を浦河町で過ごすことの多い馳さんは、町内の居酒屋で友人らと発表を待ち、受賞の吉報を受け取る様子が全国に報道されました。11月には浦河町初の町民栄誉賞を受賞しました。



写真提供／日高報知新聞

永きにわたるご愛顧に感謝を込めて

# 日高信用金庫 創立100周年記念事業

*100th anniversary project*

**「感謝」「元気」「挑戦」をコンセプトに計画した創立100周年記念行事は、
未曾有のコロナ禍により中止や延期を余儀なくされました。
感染拡大防止に努めながら、できる範囲で実施しようと役職員が心をひとつにして取り組み、
多彩な催しを成功させることができました。ご協力くださった皆さまに深く感謝申し上げます。**

## 01. キャッチフレーズの制定

創立100周年記念のキャッチフレーズを当金庫の役職員とその家族から募集し、総勢116名の応募の中から向井遼くん（職員）の作品「これまでも これからも このまちで」を最優秀作品として選びました。
たくさんの方々に支えられて迎えた100周年の感謝とともに、これからも新たな100年に向けて挑戦する強い思い、このまちで地域の発展のために尽くしていきたいという願いが込められています。



▲ 最優秀賞の向井くんを大沼理事長が表彰

## 02. ロゴマークの制定

創立100周年記念ロゴマークは日高信用金庫の頭文字「H」をメインにデザイン。「地域にとってなくてはならない信用金庫」の意味を込めました。
Hの上部の緑の3本ラインは日高・十勝エリアを表し、地域に根差し地域とともにまっすぐに突き進んでいく思いを表現。緑の大地を囲むように地域を優しく見守る姿勢を楕円の雲で表しました。
ロゴのカラーリングは当金庫シンボルマークの緑（日高山脈と農業・軽種馬関連産業）・白（市街地・商工業と地域住民）・青（太平洋と水産関連産業）の3色にリンクさせています。

これまでも
これからも
このまちで

## 03. 創立100周年記念のPR活動

当金庫の創立100周年を広くPRするため、キャッチフレーズやロゴマークを横断幕にして全店の店頭に掲示したほか、職員の名刺に印刷し100周年仕様にリニューアルしました。また、地域に広く100周年をお伝えするため地元新聞に特集記事として取り上げていただきました。




▲ 名刺にもプリントして
100周年を広く告知



▲ キャッチフレーズとロゴマークは横断幕で店内に掲示
（写真はえりも支店）

## 04. オリジナルグッズの製作

創立100周年を彩るオリジナルグッズを製作しました。デザインを手掛けたのは、浦河町のデザイン事務所「Komi desigN」の山口このみさん（浦河町出身）。安心・信頼・誠実を印象づける「青」を基調に、ピーマンやいちごなど新冠町から大樹町までの地域のイメージをパターン化して組み合わせています。現金封筒やサービスバッグなどのノベルティとして幅広く展開しました。



▲ サービスバッグ



▼ 現金封筒

## 05. おそろいのポロシャツを製作






▲ おそろいのポロシャツ姿でイベントに参加

職員の機運を醸成し奮起を促すため、全役職員の意見を反映させたオリジナルのポロシャツを製作しました。当金庫が古くから大切にしてきた地域の象徴として日高から十勝にまたがる山並みと太平洋をシンプルなラインで表現したデザインです。記念事業や各種イベント時には役員から本部職員、営業店職員までおそろいのポロシャツを着用して創立100周年をPR。これからもこのまちで挑戦し続けていきたいという思いを新たにしました。

## *06.* 自治体へ寄付金の贈呈

地域への感謝のひとつとして、地域振興に役立てていただくための資金1,000万円を、新冠町、新ひだか町、浦河町、様似町、えりも町、広尾町それぞれに寄付しました。寄付金は各町において有効にまちづくりに活用されています。





▲浦河町での贈呈式



◀▲
寄付金の使い道は各町がそれぞれ決定。公園の遊具の新設（新ひだか町）や電気自動車の購入（広尾町）などに活用されました

## *07.* 地域イベントへの「おまつり出店」

地域の皆さまへ感謝の気持ちを込めて、みついし蓬莱山まつり（新ひだか町三石）、十勝港まつり（広尾町）、静内川花火大会（新ひだか町静内）、浦河港まつり（浦河町）に、当金庫職員が射的ブースの「おまつり出店」を実施しました。売上金はイベント開催地の各町へ寄付しました。



▲ 地域のおまつりに射的ブースを出店




▲ イベントの盛り上げに一役買いました

## *08.* 教育施設への本の寄贈

当金庫と「まちづくりに関する包括連携協定」を締結している6町（新冠町、新ひだか町、浦河町、様似町、えりも町、広尾町）の図書館などへ児童図書を寄贈しました。「ひだかしんきん文庫」が子供たちの考える力や想像力を高める一助となれば幸いです。



新冠町レ・コード館の図書プラザに児童図書を贈りました ▶

## *09.* 記念植樹・桜

創立90周年から継続して実施している植樹事業を記念事業として規模拡大し、当金庫と「まちづくりに関する包括連携協定」を締結している6町（新冠町、新ひだか町、浦河町、様似町、えりも町、広尾町）に桜の木を植えました。植樹した樹木のそばには「記念植樹・桜」の看板を設置しています。




▲ うらかわ優駿ビレッジAERU中庭に桜を植樹

## *10.* 新規創業者向け助成金

当金庫の基盤地区である7町（新冠町、新ひだか町、浦河町、様似町、えりも町、広尾町、大樹町）で、新規創業希望者の挑戦をサポートする助成金事業を実施しました。単に助成金を交付して終わりではなく、創業後の経営課題についても支援できるよう各営業店で相談体制を構築。地域の廃業予定先や事業承継課題を抱える事業者の受け皿としての役割も担えるよう努めています。



▲ 計20件の認定事業者に助成金を支給しました




▲ 新規創業者募集のリーフレット

## *11.* クリーンアップデー

当金庫の創立100周年は2021（令和３）年4月13日。その直前である4月10日の土曜日に、全店一斉で清掃活動を実施しました。役職員全員で各営業エリアの道路沿いや河川敷のゴミ拾いを行い、地域の皆さまが気持ちよく過ごせるよう環境整備に汗を流しました。



▲ えりも支店の清掃活動。役職員も各町に分散して清掃活動に参加しました

## *12.* 北海道農民管弦楽団定期演奏会

北海道農民管弦楽団の第28回定期演奏会「浦河公演」に協賛し、創立100周年記念コンサートとして開催しました。当日は新型コロナウイルス感染対策のため収容人数を制限したものの、多くの皆さまにご来場いただきました。公演には浦河町出身のピアニスト上埜マユミさんも出演、ピアノ独奏には会場から大きな拍手が上がりました。



▲ 2022（令和4）年1月30日に浦河町総合文化会館4階文化ホールで開催

## *13.* 少年野球大会の開催

創立90周年から開催している「日高しんきん杯少年軟式野球大会」の優勝旗を新調しました。金色のフリンジのついた旗は中央にワシがデザインされ、大会名と金庫名が刺繍されています。創立100周年記念大会でお披露目の予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったため、翌年の第12回大会で優勝チームに初めて授与しました。



▲ 2021年の野球大会は中止、2022年に披露されました




▲ 中央に勇猛なワシを描いた優勝旗

## *14.* しんきん友の会に対する事業

日高しんきん友の会の会員の皆さまへ年に一度お贈りしている誕生日プレゼントを拡充し、災害に備える「防災11点セット」を贈呈しました。なお、予定していた「創立100周年記念全店パークゴルフ大会」は新型コロナウイルス感染症のため、残念ながら中止となりました。




▲ いざという時に役に立つ防災11点セットを贈呈

## *15.* 特別奨学金《カムバック・JIMOTO》

地域の未来に欠かせないのは「人材」という資源であり、「地域づくりは、まず人づくりから」とも言われます。地元高校から管外へ進学する若者に将来、地域発展の担い手となってもらいたいとの思いから、特別奨学金《カムバック・JIMOTO》を創設。Uターン希望の学生に奨学金を給付し、地元企業や団体への就職をバックアップします。




応募のあった16名に奨学金を交付しました ▶

## *16.* ひだかしんきん金融学校

地域の子供たちに金融の仕組みやお金の大切さを学んでもらうとともに、職員とのふれあいを通じて当金庫に親しみを感じてほしいとの思いから「ひだかしんきん金融学校」を企画。2022（令和4）年1月11～14日の期間、札幌支店を除く6店舗（本店営業部・本部、静内支店、三石支店、様似支店、えりも支店、広尾支店）で実施しました。子供たちは実際に貨幣・紙幣に触れて重さや偽造防止技術を体感したり、店舗の金庫室やATMの裏側などを見学したりしながら、お金についての知識を深めました。



▲ 硬貨の重さを実際に体感




▲ 対象は小学３～６年生

## *17.* お父さんお母さん参観日

2021（令和3）年8月11～12日、職員の家族を職場に招く「お父さんお母さん参観日」を実施しました。家庭では見ることのできないお父さんお母さんの働く姿をお子さんに見てもらい、「働く」ことについて考え、家族とのコミュニケーションを深める体験になればと企画しました。当日は店舗内の見学や金融にまつわるクイズなどレクリエーションを実施、父母への尊敬や感謝につながってほしいと願っています。



▲店舗の仕事を体験（札幌支店）



▲本店にもたくさんのお子さんが参加してくれました

## *18.* 元役職員の皆さまへ記念品贈呈

創立１００周年に際し、当金庫の礎を築き金庫の発展に多大な貢献をされた元役職員の皆さまに対し、深甚なる感謝と敬意を表して記念品を贈呈しました。
記念品は、全国の信用金庫の取引先が取り扱う商品のみを掲載したギフトカタログ「旬彩カタログ しんきんのつなぐ力」をお送りし、皆さまからは現役職員に向けて温かいお言葉を頂きました。




旬彩カタログ しんきんのつなぐ力 ▶

## 19. 創立100周年記念旅行

創立100周年記念の主要事業として「日高信用金庫創立100周年記念旅行in沖縄～ひゃくたび～」を企画し、ご旅行の準備として旅行預金の募集を行いましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて延期に。苦渋の決断でしたが、当初の予定から2年後の2023（令和5）年6月に実施の運びとなりました。参加者の皆さまにとって安心・安全かつ最高の思い出となるよう準備を進めています。




コロナ禍で催行を２年延期した
「100周年記念旅行in沖縄～ひゃくたび～」▶

## 20. 創立100周年記念定期預金 ＆地域応援企画「なないろチケット」

第33回および第34回懸賞金付定期預金の懸賞品として、当企画にご賛同いただいた7町（新冠町・新ひだか町・浦河町・様似町・えりも町・広尾町・大樹町）の飲食店や宿泊施設などで利用できる「なないろチケット」を抽選で進呈する「地域応援企画」を実施しました。
新型コロナウイルス感染症により疲弊した地域の消費活性化の一助となるよう、チケットはフォトコンテストの参加賞としても採用したほか、職員親睦会で購入して全役職員へ配布しました。




▲7町の店舗や施設で利用できる「なないろチケット」で地域を応援

## 21. 記念粗品の配布 お客さま感謝デーを実施

創立１００周年の記念日である2021（令和3）年4月13日の火曜日、全店一斉に「お客さま感謝デー」を実施しました。当日来店されたお客さまを常勤役員および店舗長がお出迎えし、記念品の紅白まんじゅうなどを先着100名さまに配布。お客さまに直接、感謝の思いをお伝えすることができました。



▲本店営業部では理事長がお客さまをお出迎え



▲ご愛顧に感謝を込めて記念品をお渡ししました（広尾支店）

## 22. 文化コンクールの開催

記念事業のひとつとして、新冠町から大樹町まで地域の魅力を伝える写真作品を募集する「フォトコンテスト」を実施しました。厳正な審査の結果、応募総数125作品の中から18作品が入賞し、最優秀賞にはチョン ティ トゥ チャンさん（大樹町）の作品「光までの道しるべ」が選ばれました。入賞作品の一部は2022年カレンダーにも使用し、多くの方に見ていただくことができました。



◀フォトコンテスト最優秀賞
「光までの道しるべ」



▲入賞作品は本支店で展示しました

## 23. 記念カレンダーの製作

記念すべき創立100周年を記憶や形に残るものにしようと、オリジナルカレンダーを企画し、本支店ロビーなどで配布しました。
2021年カレンダーは「空から見たふるさと」をテーマにした基盤地区営業エリアの航空写真を上部に、当金庫若手職員の写真を下部にレイアウトし、これからも地域とともに歩んでいく姿勢を表現しました。
2022年カレンダーは創立100周年記念フォトコンテストの入賞作品の中から11点を掲載し、地域の魅力が存分に詰まったカレンダーとなりました。

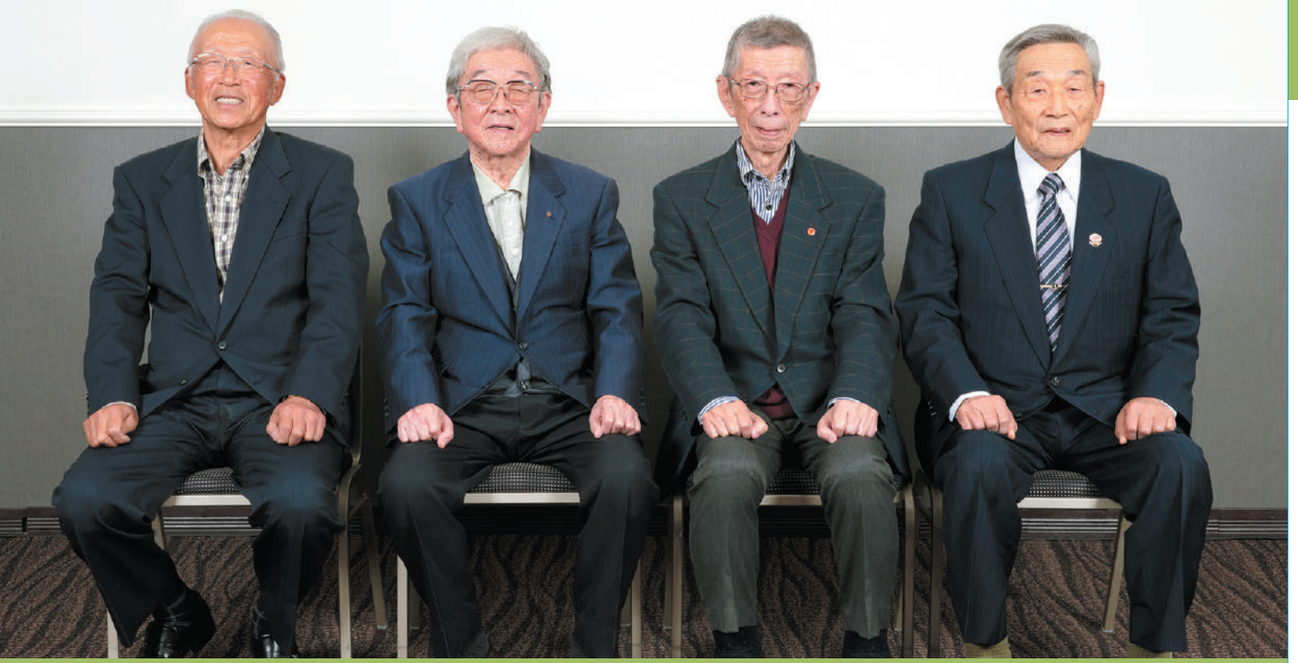



▲2021年カレンダーのテーマは
「空から見たふるさと」




▲2022年カレンダーには
フォトコンテストの入賞作品を掲載

# 日高信金の
# つながり
# Relationship



日高信金OB × クロストーク

# 思い出す、あの日あの時。
# ～私たちの金庫時代～

**一日一日の仕事が積み重なって一年の業績になり、**
**その一年が繰り返されて百年の歴史となる――。**
**日高信用金庫の一世紀をかたちづくったのは、役職員一人ひとりの熱意と挑戦でした。**
**職員数わずか十数名の時代から、金庫が歩んできた長い道のりを知る**
**大先輩の皆さんにお集まりいただき、懐かしい思い出をたっぷりお聞きしました。**





## 雨の日も、雪の日も、自転車やバイクで外回り。

**皆さんの新人時代の思い出からお聞かせください。**

**高田**　昭和26（1951）年、日高信用金庫の前身である浦河信用組合に入りました。本俸（基本給）1,200円、諸手当2,300円、合わせて3,500円の初任給でした。職員数は十数名。入職3カ月で三石連絡所に異動になり、三石支店の開設に携わりました。戦後まだ6年ですから、服もみんなお下がりで、袖が傷まないようおふくろが作ってくれた腕抜き（アームカバー）をして仕事をしました。

**花谷**　「信用金庫法」が制定された2年後の、昭和28（1953）年の入庫です。高校の担任から、信用金庫は地域経済のための金融機関で、これから絶対に大きくなると薦められました。初任給は4,300円。最初はそろばんと札を数える練習から。硬貨は穴の開いた箱で分別し、10円玉、1円玉と50枚ずつ手で巻いて整理しました。

**澤谷**　昭和35（1960）年に入庫して三石支店に配属されました。支店長と支店長代理、男性職員2名と女性職員2名の6名体制でした。初任給は6,000円だったと記憶しています。入庫間もなく渉外係として外勤に出されましたが、まだ車はなく、自転車とオートバイでした。雨の日にはずぶ濡れで、雪の日にはオートバイで滑って転倒し怪我をしたことが何度もありました。

**高田**　信用金庫になったばかりのころは自転車だけでした。新しい組織の金融機関ですからお客さんからの信用もなく、足で稼ぐしかない。自転車で日掛け月掛け預金を開拓して歩きました。砂利道を走って蓬莱山を抜け本桐や歌笛、富沢へも行きました。帰る途中に吹雪で動けず、通りかかったトラックに助けられ、自転車ごと荷台に乗せてもらい帰ってきたこともあります。いま思えば命がけでしたね。

**澤谷**　往復だと15キロ以上ありますかね。昔の三石支店は銭湯を改装した店舗で、おばあちゃんがたらい桶にタオルを入れてやってきたこともありました。まあ、のどかな時代でしたね。

**花谷**　あのころはお客さん一人ひとりの預金額や融資額が頭に入っていたもんです。職場も家族みたいな雰囲気で、上司もよく面倒を見てくれました。

**澤谷**　三石支店の支店長代理が西部劇の映画を見に札幌まで連れていってくれたこともありました。当時シネマスコープという大きな画面は札幌にしかなかったんです。うれしかったですね。

**花谷**　入庫して2年目だったか、静内の水害の記憶は強烈です。支店も浸水して、当時はまだ水洗トイレじゃないから下水が浮いて…。

**高田**　私も後片づけの手伝いに行ったよ。カウンターの上に書類を上げてね。あれは忘れられない。



**澤谷**　十勝沖地震もあったでしょ。

**高田**　昭和27（1952）年だね。昔は金庫室なんてないから、最初は必死で大きな金庫を押さえていたんだけど、揺れがひどくて逃げ出したよ。おっかなかったね。

**塩出**　私は皆さんより遅く昭和41（1966）年の入庫です。大学卒業後、東京の第一ホンダ販売（株）で4年間、オートバイのルートセールスをしていたんですが、もともと生まれが浦河だから「帰ってこい」と言われて、信金に入れてもらいました。入庫してすぐ、検査室長だった高田さんに連れられて幌泉支店（現えりも支店）の臨店検査に同行して、定期積金の元帳を渡され残高の照合を命じられました。ところが、いくら計算しても日計表残高と合わないんです。そろばんは2級だし、計算は間違いないと思ったので、そう申し出ると、「分かったか」と、あらかじめ抜いていた元帳2枚をさっと出してきて…。試されたんですね。これは油断できないと、いろんな意味で勉強になりました。

**高田**　昔は手取り足取りなんて教えてくれません。仕事の仕方は盗みとるんです。研修なんてなかったですからね。

## 職場の仲間とも、まちの人とも、一緒に楽しんだ時代。

**現役時代を振り返って、楽しかったことや思い出深いことを教えてください。**

**澤谷**　昔はオートバイの前方に集金カバンを載せて、お客さんのところを回りました。いつも人が集まって酒を飲んでいる総代さんのお宅に行くと「澤谷くん、いいところに来た」と、料理をさせられる。フライパンで何か炒めて皆さんに出すと「澤谷くんも食ってけ」「飲んでけ」と言われるわけ。農家でとうきびやかぼちゃをもらうこともあるし、「少し休んでけ」という言葉に甘えて一寝入りしてから店に戻ったこともあったね。

**高田**　遠くまで集金に行くと「よく来てくれた」ってね。「襟裳岬」の歌じゃないけれども「あったまっていきな」って、餅を焼いてくれたりして、お客さんにかわいがってもらいました。

**澤谷**　僕はお客さんのところに集金カバンを忘れたことがある。昔は農家全戸に入る農業放送があったから「信金の澤谷さん、集金カバンを忘れています」と伝わって。次のお宅で教えてもらってあわてて戻ったね。

**高田**　三石のまちは雑貨店、菓子屋、魚屋、呉服屋、旅館、鉄工所、製材工場など、家族で営む店舗がずらっと並んでいてにぎやかだったね。

**澤谷**　あのころは通帳に手書きで金額を書いて止め印を押すだけでしょ。1万円を10万円に改ざんしようと思えばできたのに、そういったトラブルや間違いは一件もない。お客さんと信頼関係で結ばれていたんだなと、つくづく感じますよ。

**花谷**　職場も大らかでしたね。昼休みには囲碁、仕事が終わったら麻雀。そのころ流行っていたカクテルバーにも上司が連れて行ってくれました。

**高田**　確かハイボールが1杯50円だった。

**澤谷**　三石支店の裏はすぐ海で、僕は釣りが好きだから、出勤のときに竿を投げておいて、しばらくしたら竿を上げに行って、仕事に戻ったこともありました。当時は宿直もあったので、役場の人やお客さんがよく宿直室に遊びに来てね。潮が引いたときに磯に魚を獲りに行こうという話になって、店舗に鍵かけて一緒に出かけて、獲ったタコを茹でて宿直室で一杯飲み。よくそんなことやれたなと思いますね。

**花谷**　大仕事だったのは月末の集金。特に12月31日は夜8～9時まで集金に回ったもんです。

**塩出**　私は渉外係の経験はないですが、大みそかの集金だけは行かせてもらっていました。

**澤谷**　12月31日は徹夜。朝まで仕事するのが当然と思っていたから「超過勤務代よこせ」という声もあがらなかったね。

**花谷**　年が明けて、職場から浦河神社に初詣に行くのが恒例だった。

**澤谷**　大みそかは大黒座が夜通し上映していたから、そのまま映画を見に行ったり、アポイ岳に初日の出を拝みに行ったりしたこともあったな。

**高田**　正月は女性職員が着物で新年の挨拶に来たね。昔はレクリエーションがさまざまあって、新年会、慰安旅行、ゴルフ大会、ソフトボー



ル大会、観楓会と、みんなで楽しみをともにしようという雰囲気がありました。

**澤谷**　職員親睦会が主催する運動会も面白かった。小学校のグラウンドを借りて、職員の家族も集まってね。支店対抗のリレーなんか夢中になって、アキレス腱を切る職員がいたりね。

**高田**　芸能発表会もやったね。寸劇なんか練習して。

**澤谷**　本店の忘年会は、各係対抗の芸能発表会が恒例。4階の会場でおでんの仕込みをしたりすると、1階の営業店まで匂いが漂うほど。あれはお客さんも気づいていたんじゃないかね。

**花谷**　地域のお祭りにも出たよ。様似支店のときは様似経済同友会を発足させて、アポイの火まつりの実行委員会を担って、イベントの成功は信金のおかげと喜ばれたものです。

**澤谷**　山手支店、静内支店勤務の６年間は、川下り、仮装盆踊り大会、駅伝競走、早朝ソフトボール大会などでまちの人たちとの交流を深めました。祭りの山車に乗ったり、青年団活動に参加したり、仕事してたんだか遊んでたんだか分からないくらい楽しかったね。



## お取引先のため、地域のため、できる限りのことを。

**皆さんが携わった業務で、印象深い仕事についてもお聞かせ願います。**

**高田**　昭和30（1955）年、本店での最初の仕事は精査業務でした。総勘定元帳と補助簿に不符号があり、原因究明のため山のような伝票と元帳の突き合わせを1人で延々とやりました。当時はすべて手作業ですから気が遠くなりましたが、金庫業務の原理を理解するきっかけになりました。

**塩出**　入庫８カ月で様似支店に転勤し、窓口を担当するうちに融資審査稟議書に添付する財務諸表が簡略すぎることに疑問を持ちました。確か国民金融公庫の形式をそのまま使っていて、大ざっぱなんです。大学は一応経済学部で、簿記とそろばんは転職前に村田簿記学校の夜学で習ったんですが、まだまだ知識不足。そこで、宿直の晩を利用して、きんざい（金融財政事情研究会）の財務諸表に関する通信教育を受講しました。その後、流動資産まで分析できる資金繰り表を作成して稟議書に添付したところ、審査部との意思疎通がスムーズになり、金庫独自の貸出先資金繰り表の制定につながりました。

**花谷**　静内支店長に任命されたのは昭和41（1966）年。町内の金融機関４店で一番若い支店長だといわれ、なにかにつけて比較されました。まちの人に早く名前を覚えてもらいたくて、日用品の買い物は全て自宅へ届けてもらうように妻に指示。配達時に現金で支払うようにしました。当時は掛け売りの時代ですから現金収入が貴重だったこと、我が家に2歳の双子と1歳にならない赤ん坊がいたこともあって、すぐに覚えてもらえました。ライオンズクラブに加入して地元の名士とも知り合うことができ、顧客獲得の一助となりました。

**塩出**　本部経理係に異動した昭和46（1971）年、未決済の為替勘定を登録する消し込みに半月くらいかかっているのが気になりました。そのころ未達勘定を利用して銀行職員が巨額の横領をした事件もあったからです。北信協で勉強会があり、新保孝平さんと２人で参加したところ、よその金庫が本支店勘定を電話でやりとりしているのを知り、常務に相談したら「電話代がかかる」と突き返されたんです。諦めるわけにはいかないので、しばらくして専務に進言したら「電話代分を稼げばいいから、やってみろ」と許可が出た。支店長たちからも反発があって、ずいぶんケンカもしましたが、未達を出さない即日決済が実現できました。



**澤谷**　昭和50（1975）年に北海道信金共同事務センターに加盟する際は、電算業務を自営にするか、加盟にするかで意見が分かれ、全店の男性職員が本店に集合して議論。センター加盟に決まったときの安堵感は忘れられないね。

**塩出**　私は自営のシステムを立ち上げた側だから反対だったんですが、結局は共同事務センターに入って正解だった。加盟にあたってはオンライン化に伴う事務取扱規定の改編が大変で…。手作業で何の問題もなかった事務を機械化して面倒にする必要はないという、営業店の拒否反応に手を焼きました。

**澤谷**　僕はそのころ職員親睦会の副会長だったのですが、会長と2人、奥田理事長から日曜日に呼び出されたことがあります。何事かと思ったら「北海道銀行から職員を招聘したいが、君たちはどう思うか」と意見を求められた。即座に反対して「金庫は自賄いで守っていくから、外部から人を入れないでほしい」と訴えました。そのあと役員会でどんな話し合いがあったか分

かりませんが、いずれにしても招聘はなかった。そして、このときに理事長に直訴した宿直の廃止は実現した。「宿直は本来の仕事ではないから外部委託にしてほしい」という声が届いたことで、職員に喜ばれました。

**高田**　軽種馬生産業の方のためのシンジケートローンも思い出深いね。血統のいい種馬（たねうま）は何億円もするので、みんなでシンジケートを組んで出資して英国やオーストラリアなどから購入します。牝馬との交配料を信用金庫に預金すると種付け書が発行されて種馬と交配でき、種付け料を返済財源にできる独自の融資方法を編み出したんです。NHKから取材が来て、僕が代表して答えた記憶があります。

**花谷**　農業者は農協に金融部門があるので、なかなか接点を持てなかったけれど、馬体保険の証券を預かって融資するようになると、それをきっかけに取り引きをしてくれるようになりましたよね。

**塩出**　その仕組みを考えたのは当金庫だからね、たいしたもんなんだよ。パテントとっておけばどうなったか…。その後、うちのシステムをまねて他の銀行が参入してきて混乱が生じて、金庫はもう手を引くことになったんです。

**澤谷**　地場産業の支援といえば、200カイリ以前は広尾支店の職員が漁業者の手伝いに行ってましたよね。

**花谷**　広尾支店長だった昭和47（1972）年ごろは、太平洋小型サケマス漁の最盛期。漁業者



とのお取り引きが金庫の預金量を左右するくらい影響力がありました。とにかく船主と親しくなろうと、花咲港や釧路港から出漁する際は、現地へ手伝いに行く奥さんたちを信金職員が車で送迎しました。新造船に大漁旗をつくって贈ると、出港のときにその旗を揚げて「信金丸だ」と喜んでくれたこともありました。漁業者はみんな明るくて裏表がなくて鷹揚でね。ありがたいことに、すぐに仲良くなれましたね。

**澤谷**　僕は本部の総務にいたとき、朝一番によく広尾支店からの電話を受けましたよ。「今日は何人、花咲にやるから」って。町外出張は本部から命令を出さなきゃならないから。本当にみんなよくやってたと思う。

**花谷**　広尾町では1月11日には船玉様（ふなだまさま）といって船の安全を祈る行事があるんです。船主が乗り子（船員）を集め神主を呼んでお払いしてもらって宴会する。そこへ支店長として顔を出すんですが、一杯飲んで一曲歌って、次の船主、またその次と順繰り回るうちに酔っ払ってね。今ではそういう行事もほとんどなくなりました。

## 新しい挑戦に反発や失敗はつきもの。諦めずに、粘り強く。

**澤谷**　僕が山手支店長と静内支店長を総括していた6年間はバブル経済の始まりで、激動の時代でした。世の中がものすごく荒れて、倒産も多かった。取引先を訪ねると「支店長殿」と書かれた封筒に印鑑と金庫の鍵が入っていて夜逃げされたこともありました。

**花谷**　朝に取引先に行ったら従業員は働いているのに、裏に回ってみると経営者の家族は誰もいなくなっていたこともあった。「僕たちどうしたらいいんですか」って聞かれても、答えようがなかったね。

**塩出**　昭和50年代は変化の激しい時代でありましたが、清水専務の存在は大きかった。金庫の近代化に貢献していただきました。そういえば、私が業務の課長をやっていた若いころ、奥田理事長に「そろそろ札幌進出どうですか」と言ったら、「うちの金庫にそれができる人間がいるか！」と頭ごなしに怒られたことがあります。「私が行きます」と言ったら「とんでもない」と一喝されて、そのときはそれで終わりでした。

**澤谷**　平成4（1992）年、新設の「企画情報室」に異動になりました。室長といっても職員は僕1人。若いころ、当時の専務理事から「今やらないで、何時できる！お前がやらないで誰がやる！」と言われたことを思い出しました。各地区を車で走り回って、役場の人や町の有志、総代や取引先と面談を重ねました。疲労で体調を崩しましたが、このときに築いた人脈は後日「日高しんきん未来塾」の創設に非常に役に立ちました。

**塩出**　顧客の家族構成や親族関係も含めて管理できる顧客カードを作ろうとした時期もありました。結局、うまく活用できず尻すぼみで終わったけれど、個人情報保護法で今ではもう無理。うまくやれば、データベースになったはずですが、新しいことを先取りするのは難しいと、つくづく思いました。

**澤谷**　当金庫が主管した平成12（2000）年の全道信用金庫理事長会議も印象に残っています。各金庫のシンボルマークを入れた凧を作っ





て懇親会場に飾り、帰りにお土産として持ち帰ってもらいました。産業視察ではＪＲＡ日高育成牧場施設や襟裳岬を案内して、翌日は日高国際カントリークラブで信友会ゴルフ大会。この会議はこの年で取りやめとなったため、これが最後の開催でした。

**塩出**　私が理事長に就任した平成13（2001）年前後、根室信金と厚岸信金が一緒になって大地みらい信金になり、旭川信金と富良野信金、札幌信金と石狩中央信金、北海信金と古平信金など、信用金庫の合併が続きました。一方で苫小牧信金は日高管内の支店を次々と閉鎖。この先、日高の先っぽだけを営業エリアにしていては取り残されてしまうのでは、という危機感がありました。やっぱり札幌に支店を設けて地区を拡張したいと。当初は役員にも反対されましたが、背中を押してくれる課長もいて、とにかく筋道を立てて説得。地区の総代懇談会でも承諾をもらい、財務局になんとか受理していただき、平成19（2007）年に札幌支店の開設にこぎ着けました。財務局長のヒアリングも一苦労でしたけど、それ以上に大変だったのが金庫内部の調整でした。

**澤谷**　僕の最後の仕事は、地元企業の後継者育成のための「ひだかしんきん未来塾」の創設です。いつか機会があったら実現したいと10年以上温めていた企画でした。札幌の経営コンサルタント会社に何回も足を運んで相談し、やっとスタートできたのは、定年退職の平成17（2005）年。置き土産になりました。その後10年ほど続いたようです。

**塩出**　延べにしたら千人以上の方が参加したでしょうね。

**澤谷**　今は皆さん、立派な経営者になっていますけど「とても勉強になった」と言ってくれますし、それなりにお役に立てたのなら光栄です。信用金庫にとって大切なのは何といっても人材の育成。これからも職員の教育はもちろん経営者の育成に力を注いでほしいと思います。



## 地域の役に立つ仕事。これからも誇りと自信と責任をもって。

**これからの日高信金に期待すること、OBとしてのメッセージをお願いします。**

**高田**　63歳の役員定年まで45年間勤務させてもらい、信用金庫に対しては感謝の念でいっぱいです。来年90歳を迎えますが、今でも忘れられないのは若いころ上司に言われた「中途半端な仕事は誰でもできる」という言葉。営業店においても、本部においてもきっちりとした仕事を貫いてほしい。そして、これからも協同組織の理念に徹し、地域社会の繁栄のために働き、地域の皆さんから愛され信頼される日高信用金庫であってほしいと願っています。

**花谷**　地域の過疎化が進み、産業が縮小していく現状に悩みもあると思いますが、地域で暮らす住民のための支援の方策を考えることが信用金庫の存在意義。今後とも地域になくては

### 入庫は70年前。忘れられない思い出ばかり。



金子　洋一　さん（89歳）
［在職期間］1952～2001年
1997年　理事長就任

昭和27（1952）年に入庫し、店舗に併置されていた田中久雄さん宅の2階に下宿をして、事務の修得に専念しました。最初の仕事は十勝沖地震の見舞いに対する御礼状を謄写版で刷る作業。初めてのことで手や顔にインクがついて大変だったことを思い出します。その後、幌泉支店開設時に転入。サケマス流し網漁の船団が本州からも集結し、出漁時は盛大で賑やかでした。夏はイカ漁を目当てに加工業者が本州から も集まり、送金業務が忙しかったことを覚えています。お客さまのほとんどが漁業者で、店舗内での酒盛りも茶飯事でした。

創立40周年の式典を浦河労働会館で行った後、まちの名士や総代の方々を招いて管内初の野外園遊会を実施した記憶も鮮明です。70周年の記念行事では全職員が3班に分かれ、信金の中央機関を視察したほか、東京ディズニーランドで接客のマナー講習を受けたこと、第40回全道信金野球大会では当金庫が初優勝し、みんなで祝福したことも忘れることのできない思い出です。

ならない金融機関として発展することを期待します。

**塩出**　コロナ禍が世の中の変化を加速化しています。取引先の考えもどんどん変わっていくでしょう。そうした変化を見極めて、ニーズを先取りしていかなければなりません。たとえ長いお取り引きがあったとしても、世代交代で簡単に切り替えられる可能性もありますから、事業承継時のフォローアップに留意してほしいと思います。

**澤谷**　退職しても、いつまでも「信金の澤谷さん」と呼ばれることが多いんです。月日が経てば経つほど、いい職場で働かせてもらったと、金庫に対する感謝の念が強くなります。役職員の皆さんにはどうか、この仕事に誇りと自信と責任をもち、地縁・人縁を大切にして地域と社会への貢献に努めてほしい。創立100年を新たなスタートとして、過去を振り返るのではなく、新しい金庫づくりに果敢にチャレンジしてほしいと願っています。何事もデジタル化され高速化している時代だからこそ、過ちが見逃される危険性もあります。命取りになるようなミスがないよう「確認！確認！確認！」を徳目にしてください。

**現役世代には想像もつかない貴重なエピソードばかりでした。日高信用金庫の長い歴史は諸先輩方お一人おひとりのご尽力のたまものだと実感した次第です。本日はお集まりいただき、ありがとうございました。**

（2022年10月18日収録）



## 日高信金OBプロフィール



### 高田　弘之さん（89歳）
［在職期間：1951～1996年］

1933（昭和8）年、浦河町生まれ。
1951（昭和26）年に前身の浦河信用組合に入職。日高信用金庫に改組後、検査室長、営業部営業課長、総務部長を経て1985（昭和60）年より常務理事。総務企画推進部長、審査管理部長なども兼任、1991（平成3）年より専務理事。



### 花谷　實さん（88歳）
［在職期間：1953～1994年］

1934（昭和9）年、苫小牧市生まれ。
1953（昭和28）年に入庫。1966（昭和41）年の静内支店長を皮切りに、広尾支店長、様似支店長、大通支店長を歴任。営業部長、審査部長、融資管理部長を経て1989（平成元）年より常勤理事。



### 塩出　諭さん（85歳）
［在職期間：1966～2008年］

1937（昭和12）年、浦河町生まれ。
1966（昭和41）年1月に入庫。静内支店長を経験後、本部にて勤務。業務推進課長、総務企画課長、事務管理部長、企画情報室長、事務部長、融資管理部長、専務理事などを経て、2001（平成13）年に理事長に就任。



### 澤谷　英勝さん（80歳）
［在職期間：1960～2005年］

1942（昭和17）年、三石町生まれ。
1960（昭和35）年に入庫。山手支店長、静内支店長を経て、総務企画部長、企画情報室長、本店営業部長を歴任。1994（平成6）年より常勤理事、2001（平成13）年より専務理事。信用金庫社会貢献賞「個人賞」全国表彰（2005年）。

わがまち自慢

# ［浦河町］本店営業部



浦河郡浦河町大通2丁目31番地の2
(0146)22-4111
【1921(大正10)年4月13日 開設】



本店営業部
預金担当
小野寺 未夢
【2018年4月入庫】

本店営業部は…
お客さまの夢をかなえる場所です

当部の色はカラフルです。全員で個性を生かすことができれば、どこの店にも負けない強みになります。目配りと感謝を忘れずに成長していきたいです。



本店営業部のチャレンジ

## 地域を盛り上げる活動に積極的に参加しています

本店営業部 融資担当
大下 弘晃【2019年4月入庫】



**なまらうまいっしょ！グランプリオールスター手伝い**
札幌ドームで開催されたイベントで販売手伝いを行い、地元産「夏いちご」のPRの他、町内事業者のサポートにも努めました。

**1 北海道暮らしフェアへの参加**
「うらかわ暮らし案内人」に登録し、町外の方や移住を考えている方に、浦河町での暮らしを説明、紹介する活動や、移住者の方と交流するイベントに参加しています。






**2 夏いちごの日イベントへの参加**
毎年7月15日「うらかわ夏いちごの日」に開催されるイベントに参加しています。





**3 4 金融教育・職場見学**
町内小学校が実施している社会科見学の児童の受け入れや、出前授業として「お金の授業」を実施しています。

部長からひと言

### 「おかげさまで」を忘れずに、これからも共に歩む

部長 川村 学



私たち営業部に勤務する職員全員は、それぞれの豊かな個性を十分に発揮してこれからの業務に全力で取り組み、新たな歴史を築いていきます。また、地域における各種イベント等にも積極的に参画し地域を盛り上げていきます。



わがまち自慢

# ［浦河町］堺町支店



浦河郡浦河町堺町西1丁目83番59号
(0146)22-5611
【1982(昭和57)年9月20日 開設】



堺町支店は…
常に「元気よく」を心がけています

堺町支店
営業担当
村上 博紀
【2017年4月入庫】

お客さまが困った時、真っ先に頼っていただける職員を目指します。浦河町の自慢は、醤油ダレがかかったご飯にカツが乗った、まちのソウルフード「かつめし」です。




**特殊詐欺抑止活動**
店舗前で特殊詐欺の啓発活動を実施し、詐欺被害の未然防止に努めています。お客さまの大切な資産を守ることも、私たち金融機関の使命です。

堺町支店のチャレンジ

## お客さまから頼られる店舗を目指しています



堺町支店 営業担当
高倉 玲奈【2017年4月入庫】

**1 浦河町内の清掃活動**
花壇の整備や、公園の草取りを定期的に実施し、地域の美化に取り組んでいます。





**2 北海道暮らしフェアへの参加**
「うらかわ暮らし案内人」に登録し、町外の方や移住を考えている方に、浦河町での暮らしを説明、紹介する活動や、移住者の方と交流するイベントに参加しています。

**3 交通安全啓発活動**
浦河町交通安全推進協議会が主催する、町内一斉街頭啓発に参加し、交通安全の呼びかけを行っています。





**4 社会福祉事業「福祉サポート」の実施**
町内の保育施設や養護施設等に、ウォーキングマシンや子供向け遊具等の寄贈を行っています。

支店長からひと言

### 相手の立場に立って「考動」し、感動を与えていこう！

支店長 齊藤 裕一



私たちはなぜ生き、なぜ働いているのか。当たり前のことですが、それは皆が「幸せ」になることを目指しているからに他なりません。仕事や地域貢献活動等を通して職員はもとより、地域全体が「幸せ」になれば、これ以上の喜びはありません。



浦河町で活躍する
素敵なひとをご紹介します

# やっぱり、「このまちが好き」！

## 大勢のファンに支えられた道内最古の映画館

**大黒座　館長**
**三上　雅弘 さん**
**（三上興行株式会社　代表取締役）**



現役の映画館では道内最古。創業100周年を迎えた2018（平成30）年には北海道新聞文化賞の社会部門を受賞しました。



ステージと緞帳のあるスクリーンは旧大黒座を踏襲。旧館は1993（平成5）年に名取裕子さん主演の映画「結婚」（恩地日出夫監督）の舞台にもなりました。

大黒座は1918（大正7）年、大工をしていた初代の辰蔵が創業し、当初は旅芸人の興行などを行っていたようです。映画の全盛期だった昭和30年代には220席の大きな劇場でしたが、テレビの普及とともに客足が鈍り、前の道路が拡幅された1994（平成6）年に48席のミニシアターに衣替えして現在に至ります。

父の政義は副業で始めたクリーニング店で映画館の赤字を埋め合わせ、営業を続けてきました。そのスタイルは今も変わりません。昔から「よい映画を見る会」や「映画サークル」など、支えてくれるファンの団体が常にあったようですが、今は「大黒座サポーターズクラブ」が組織され、日高信金の新保雄司さんが三代目の会長として、ホームページでの作品PRやイベントの企画、寄付集めなどで助けてくれています。

コロナ禍では2カ月近く休業を余儀なくされるなど、経営は相変わらず厳しいですが、「この映画を上映したいな」と思う作品が決まるとうれしくて、それが終わるまでは頑張ろうと、その繰り返しで続けています。今はインターネットで簡単に映画が見られる時代ですが、やはり映画館の大きなスクリーンで没入する体験をしてほしい。今年から浦河町が小・中学生に映画鑑賞の機会を提供する事業が始まるようで期待しています。私も71歳ですから、いつまでできるか分かりませんが、大黒座は日高管内唯一の映画館。このまちに映画館がなくなったら一番困るのは自分だと、そんな思いでやっています。



## 雨の日も雪の日も子どもたちを見守り続けて16年

**浦河まちおこしの会　代表**
**三島　信男 さん**
**（株式会社三島組　代表取締役）**



1915（大正4）年創業の建設会社の3代目。肩にたすき、手に交通安全旗がトレードマーク。仕事の合間を見て下校時刻に街頭に立つことも。

ある晩、自宅前で不審者に襲われそうになった女の子を助けたことがきっかけでした。みんなが安心・安全に暮らせるまちにしたいと、2006（平成18）年1月から朝の通学路に立ち、子供たちを見守る活動を始めました。交通量の激しい国道の交差点など危険な場所に立って子供たちに声をかけ、時には学校まで一緒に歩きます。翌年には町民有志で「まちおこしの会」を組織し、災害に備えて防災士の資格も取得しました。「おじさん、おなかが痛い」という子を民家のトイレに案内することもあれば、認知症のお年寄りや熱中症の人を保護したこともあります。

正月だけは活動を休むので、代わりに国道沿いに雪だるまを制作して、ドライバーに交通安全を呼びかけます。受験の日には「頑張れ！」、成人式や卒業式には「おめでとう」と書いたメッセージを道路沿いに掲示し、子供たちに見守っている大人がいることを伝えます。これまで街頭に立った回数は通算5194回（2022年4月19日時点）。うれしいのは、毎朝「おはようございます」と声をかけても反応のなかった子が、挨拶してくれるようになったとき。小さかった子が成長して就職先で声をかけてくれたり、年賀状をもらったりすることもあります。暮らしやすいまちをつくるには、一人ひとりが自分のできることをするのが大事。日高信金が桜の木の寄贈や朝の清掃活動を続けてくれているように、私も無理せず「歩く交通安全運動」を続けていきたいと思っています。






毎日一人ひとりの通学時間や経路も把握。コロナ禍になる前は子供たちを集めて化石採りや清掃活動もしていました。



浦河町で活躍する
素敵なひとをご紹介します

# やっぱり、「このまちが好き」！



北海道で農業をしたいと、会社員を辞めて2015(平成27)年に家族で浦河町に移住。2年間の研修を経て2017(平成29)年に「かとう農園」として独立しました。

## 生産量日本一の夏いちごで アイスクリームを商品開発

北海道ストロベリー
プロモーション株式会社
加藤　純 さん

あまり知られていませんが、浦河町と様似町で栽培される夏いちご「すずあかね」は日本一の生産量です。6～11月まで関東圏に出荷され、銀座コージーコーナーのショートケーキなどに使われます。私は神奈川県の出身で、浦河町に移住したのは、この夏いちごに惹かれたから。本州ではいちごの旬は冬なので、北海道では夏に栽培できることにびっくりしました。

実際にいちごの栽培に携わってさらに驚いたのは、規格外品の多さです。サイズが小さい、大きい、形が少しいびつ、色が赤すぎるなど、3割近くが規格外になってしまいます。この大量な規格外品をなんとかしたいといちご農家3軒で取り組んだのがアイスクリームの開発でした。あちこちの牧場にいちごを送ってサンプルをつくってもらい、何度もやりとりして商品化したのが「夏いちごアイス」です。ありがたいことにバイヤー向けの展示会で1位になり、優れた道産加工食品として「北のハイグレード食品」に認定されました。首都圏の百貨店や関西圏のスーパーでも販売されることになり、急きょ設立したのが「北海道ストロベリープロモーション」という会社です。



すずあかねは立ったままの姿勢で作業ができる高設栽培。水やりや施肥も自動化されています。

このほかにも、道の駅などにいちごワゴンの店を出し、お客さんに好きな量だけ買ってもらう量り売りも始めました。せっかく育てたいちごですから、ムダにせず食べてほしいというのが一番の思い。さらに今後、土地を広げたり、ハウスを増やしたり、農業の発展に結びつけられたらうれしいですね。



夏いちごアイスは55％が果肉と果汁。うらかわ優駿ビレッジAERUのほか、北海道どさんこプラザ、イオン北海道などで販売されています。



## 地域資源はたくさんある。 広域で連携して 情報発信を

ゲストハウスMASAGO オーナー
大久保　直幸 さん
（有限会社まさご　代表取締役）



アパレルの営業マンを辞め、1995(平成7)年に浦河町に帰郷。現在は町から移住相談業務を受託し、住まい探しのほか、渓流釣りや野鳥観察のガイドなども行っています。



祖父が1954(昭和29)年に銭湯「まさご湯」を開業して以来、親父がサウナ、私がラーメン屋を始め、さらに日高昆布を使った浦河餃子の製造・販売と事業を多角化してきました。

一方、ボランティアで続けてきたのが移住希望者のサポートです。浦河には年間70組以上の移住相談がありますが、生活体験のできる住居が少ないのが悩みでした。それで手軽に泊まれるゲストハウスをつくろうと、銭湯2階にあったサウナと家族風呂を改修して2018(平成30)年1月に開業しました。間もなくコロナ禍に見舞われましたが、それでも町が募集するワーキングホリデーは3日間で枠が埋まる人気ぶり。この春も東京の大学生がアルバイトをしながら2週間ほど滞在しました。学生をギョウジャニンニク採りや野鳥観察に連れていき、ゲストハウスの交流スペースでジンギスカンなんかをすると、みんな感激して「絶対また来る」と言ってくれます。

目の前に海があって、牧場には馬がいて、雪は少ないし夏は涼しいし、ちょっと散歩すればシマエナガやフクロウも見られる、イワナやヤマメも釣れる。本当は地域資源がいっぱいあるのにアピールが足りないですよね。だから浦河だけではなく日高や胆振の広域で連携して、行政も民間も一緒になって情報発信していかないと。若い人を引きつけて、移住に限らず交流人口を増やすことがなにより大切。コロナ禍が収束すれば海外からの旅行者を大勢呼び込むこともできると思っています。



仕事と観光をかねて長期滞在するワーケーションを意識したゲストハウス。2段ベッドのドミトリー(相部屋)のお部屋やテレワーク用スペースも用意。

わがまち自慢

［新ひだか町］

# 静内支店



日高郡新ひだか町静内本町1丁目1番15号
(0146)42-1531
【1952(昭和27)年8月22日 開設】



静内支店は…
お客さまに寄り添う、
皆さまの憩いの場です

静内支店
預金担当
佐藤 寿音
【2019年4月入庫】

入庫以来、融資や預金などたくさんの業務を経験してきました。生まれ育った地元新ひだか町で地域の皆さまと関わるお仕事ができてとても楽しいです。



静内支店のチャレンジ

## 日高信金と地域が一体となり、より良いまちへ

静内支店 営業担当
平野 颯【2020年4月入庫】



**植樹事業「緑化サポート」の実施**
創立90周年から毎年、町内の緑化を図るための植樹を実施しています。

**1 若手職員地域交流会の実施**
町内の若手と当金庫の若手が集い、情報交換等を通じて同年代同士が交流する会を実施しています。





**2 「高校生と働く大人の放課後トーク」への参加**
「高校生と働く大人の放課後トーク」(主催:日高中部通年雇用促進協議会)に参加し、地元高校生と交流を図っています。

**3 新ひだか町静内地区、新冠町内の清掃**
町内美化のため、花壇整備や、道路沿い・河川敷のゴミ拾い等を行っています。





**4 桜舞サッカーフェスティバルの共催**
静内ロータリークラブと共催で少年サッカー大会を開催。職員が炊き出し等を行い、イベントの運営をサポートしました。

支店長からひと言

### 何事にも明るく元気いっぱいで取り組んでいます!!

支店長
渡辺 亮



当店は若い職員も多く、明るく元気いっぱいの店舗です。新ひだか町静内地区・新冠町の皆さまに笑顔と元気を届けるため、地域のいろいろな行事や地域貢献活動にも積極的に参加しています。まちで見かけたら気軽に声を掛けてください!!



わがまち自慢

［新ひだか町］

# 三石支店



日高郡新ひだか町三石本町197番地23
(0146)33-2311
【1953(昭和28)年4月20日 開設】



三石支店は…
地域の皆さまの
気軽な相談窓口です

三石支店 預金担当
菅藤 琴
【2021年4月入庫】

相談しやすいと思ってもらえるよう、一人ひとりのお客さまに寄り添った対応を心がけています。困っている方に手を差し伸べられる職員でありたいです。



**新ひだか町三石地区の清掃活動**
「三石花遊会」の皆さまと一緒に、毎年、国道沿いの花壇整備を行い、地域の方々との交流を深めるとともに、三石市街地の沿道美化を図っています。

三石支店のチャレンジ

## 華やかなまちづくり活動に貢献します

三石支店 営業担当
松本 侑大【2016年4月入庫】







**1 2 新ひだか町三石地区のイベント手伝い**
「みついし蓬莱山まつり」や「歌笛神社祭り」などの、町内で開催されるイベントのお手伝いに参加しています。




**3 青葉保育園ハロウィンパレードへの参加**
青葉保育園が毎年10月に開催しているハロウィンパレードに参加し、お菓子の配布を行っています。園児たちの元気な姿を見るのが、毎年の楽しみです。

**4 若手職員地域交流会の実施**
町内の若手と当金庫の若手が集い、情報交換等を通じて同年代同士が交流する会を実施しています。



支店長からひと言

### 地域に根差した社会貢献活動に取り組んでいます

支店長
伊藤 寛広



地域密着をモットーに、さまざまなイベントのお手伝いや清掃活動を行い、地域の方々から受け入れていただきました。今後も、これまでの活動を継続し、地域を盛り上げるとともに、なくてはならない信用金庫として役割を果たしていきます。



新ひだか町・新冠町で活躍する
素敵なひとをご紹介します

# やっぱり、「このまちが好き」！

## 志を高く、目線を上に。
## 地域に貢献できる商売を

株式会社銀鱗　高槻商店
代表取締役社長
堀田　毅一 さん

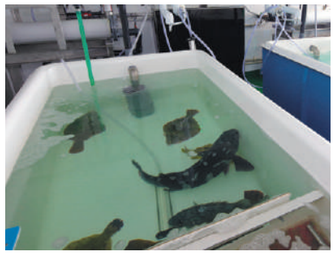


添加物を一切使わない丁寧な加工と、おいしく味わう調理法までくわしく説明する熱い語り口でファンを獲得。競馬関係者など全国に顧客を増やしています。



私はもともと寿司の職人です。寿司店を経営していた祖父に憧れ、一緒に板場に立ちたいと東京港区の寿司店で修業したものの、祖父が亡くなり一度店をたたんで魚の加工場で働くことにしました。いずれ寿司屋に戻る気でいましたが、加工業務を始めたら、これがまた面白い。のめり込んでいるうちに、後継者のない老舗の鮮魚店とのご縁に恵まれ、お店を引き継ぎました。

日高はブランド鮭「銀聖」で知られるサケ・マスの聖地ですから、素晴らしい魚をさらにおいしく仕立てて世に売り出したいと「銀鱗」の社名で2017（平成29）年に株式会社化。以来、九州で津本式といわれる新しい血抜きが考案されるといち早く教わって導入したり、品質の劣化を防ぐ電気締めを取り入れたり次々とチャレンジを続けてきました。2021（令和3）年12月には日高信金のお力添えを得て、静内漁港内に新しい加工場を開設。根室の松田商店とタイアップし、魚の活性をコントロールする水槽を日本で初めて導入しました。魚を冷凍せずに出荷の調整ができるだけではなく、うま味成分を高めることができる画期的な技術です。日高の水産業はいま赤潮の影響で大きな打撃を受けていますが、この技術を応用すれば今後、蓄養や養殖の可能性も広がるはず。食べることは命をいただくことですから、常に感謝の心を忘れず魚に向き合い、おいしく仕立ててムダなく世に送り出す。そうした仕事を通じて地域に貢献することが、私の使命だと思っています。



塩分濃度、水温、酸素供給量を段階的に調節した三つの水槽に魚を移し替えながら基礎代謝を低下させ、うま味成分を高める低活性活かし込み技術。特許出願中で視察も相次いでいます。



# 若い世代で力を合わせ まちのために 頑張りたい

ホロシリ牛乳&牛乳屋さんのチーズ
石山　翔 さん
（有限会社鈴の鳴る道 チーズ製造責任者）



酪農学園大学を卒業後、札幌の乳業会社で2年間経験を積んで帰郷。チーズ製造機器を扱う会社の技術指導を受けながらチーズ職人として腕を磨きました。



新冠で酪農を営んでいた両親が自分たちの搾った生乳を地域の人に飲んでもらいたいと、1989（平成元）年に赤井川村に一家で移住。山中牧場で4年ほど加工技術を学んで帰郷し、酪農ヘルパーをしながら資金を貯めて1996（平成8）年に始めたのがホロシリ牛乳です。

父の経営する石山牧場ではホルスタインだけではなくブラウンスイスを飼養していて、母のミルクプラントではそれらの混合乳を使い低温殺菌の牛乳に仕上げます。宅配のお客さまには900mlの大瓶で週に2回お届けしていますが、特にお年寄りや小さなお子さんのいるご家庭に好評で、生産から配達までがうちの仕事だと思ってやっています。

私は2014（平成26）年からチーズづくりを始め、少しずつラインナップを増やしてきました。今年インターネットでの販売も始めましたが、今後はヨーグルトやアイスクリームなども手掛けてみたいと思っています。コロナ禍以前は商談会にもよく参加していたのですが、日高信金の方が立ち合ってくれたこともあって大変ありがたかったです。

ここ2年さまざまなイベントが中止になっているものの、新冠町はふるさとまつりや盆踊りなどのときのチームワークが強いのが魅力。私は商工会青年部と新冠町青年団体協議会（町青協）の二つのグループに所属していて、この春から町青協の会長になりました。これからは私たち若い世代が中心となって、まちの活性化のために力を尽くしていきたいと思っています。



低温殺菌でコクのあるホロシリ牛乳。新冠町の道の駅や温泉などで販売されているほか、学校給食で毎月1回提供されています。モッツァレラからゴーダ、カマンベールまでチーズの種類も豊富。



新ひだか町で活躍する
素敵なひとをご紹介します

# やっぱり、「このまちが好き」！



長男が剣道スポーツ少年団に入ったのをきっかけに、自分も教室に通い始めてめきめき上達。現在、錬士六段。漁協を定年退職後、次男と「イレカネ野口水産」を経営しています。

## 子供たちの心を鍛え、三石を剣道人のふるさとに

三石翔武館　館長
野口　誠 さん



1999（平成11）年に開いた「三石翔武館」には、剣道を強くなりたいという子供たちが全道から通ってきます。斜里や天塩など遠方から週末ごとに稽古に来る子もいます。これまで輩出した全国大会の優勝者は4人、団体での全国優勝も2回あり、いまや剣道界で知らない人はいない道場になりました。

なぜ翔武館の子は強くなるのか。それは心を鍛えるからです。きつい稽古で泣いたとしても、強くなりたい子は必ず翌週もやって来ます。そうして力をつけた子は剣道の特待生として、東海大札幌、札幌日大、北海、第一などの高校へ進学。大学も同様に、関東なら明治、中央、法政、関西なら立命館、同志社などに推薦で入学。卒業後は剣道の腕をかわれて実業団に入ったり、警察官や刑務官になったり、剣道に一生懸命取り組むことで人生を切り開いていくことができるのです。

剣道はほかのスポーツとは違い、70歳や80歳であっても体力のある若い人に負けません。相手の心が読めるからです。私は30代で剣道を始めて夢中になり、そのうち中学校の部活動の指導を頼まれ、こうして道場を開くまでになりました。私にとって団員はみんな家族。本気で怒るし、頑張ったら心から褒める。だから子供たちを送り出す春の卒団式はみんなボロ泣きですよ。ここから巣立っても盆や正月にはみんな集まるし、指導者になって自分の教え子を出稽古に連れて来ることもある。三石が剣道人のふるさとのような場所になってきたのなら、これほどうれしいことはありません。



三石翔武館の指導者は野口さんを含めて4人。現在の団員は15人。これまでの教え子は80人を超えます。





112年続く八木菓子舗の四代目。これまで栗、粒あん、抹茶、桜と商品の幅を広げ、まちの合併時には三石羊羹と桜羊羹を二層にした「さくら咲く」も考案しました。

## 三石村の時代から続く伝統の味をこれからも

都風堂　元祖　三石羊羹
八木　一洋 さん
（有限会社八木菓子舗　代表取締役）

創業は1910（明治43）年、羊羹は二代目の民三が始めました。当時から自家製餡を続けており、今も朝4時半に小豆を洗うところから作業をスタートします。小豆は主に十勝産のエリモ小豆を使っており、加熱時間や温度は季節によって微妙に調整。皮を取り除き、水にさらして上澄みを捨てるさらし工程を数回繰り返して雑味を抜きます。こうしてこしらえた生餡を翌日に寒天と砂糖で煮詰めながら練ってつくるのがうちの羊羹。シンプルなのに奥が深い。もっとおいしくできると思うから、飽きずに続けられるのかもしれません。

先代も先々代も50代で亡くなったため、私は18歳で店を継ぐことになり、以来50年、いろいろなことがありました。冷害で小豆が手に入らず、母と二人で農家を回ったこともあります。支



「元祖三石羊羹」は2002（平成14）年の全国菓子大博覧会で農林水産大臣栄誉賞を受賞。明治神宮の全国特産物奉献品にも毎年選定されています。



えてくれた母や妻には感謝しないとなりませんね。人には「よく羊羹だけでもっているな」と言われますが、おいしいものがたくさんあるなかで、うちの羊羹を選んでくださるお客さまがいらっしゃることを本当にありがたく思っています。

日高信金にも長いことお世話になってきました。担当の方がうちで昼を食べたり、仕事終わりに飲みに来たり、ざっくばらんなつきあいをしていた時代が懐かしいですね。最近は漁業や農業にも若い人が戻ってきて、新しく飲食店を始める人もいて、三石は活気がありますよ。うちも背伸びせず身の丈にあった商売を続けていこうと思っています。

わがまち自慢

# ［様似町］

# 様似支店



様似郡様似町大通2丁目35番地2
(0146)36-2341
【1950(昭和25)年9月5日 開設】



様似支店は…
地域の皆さまの心に寄り添える店舗です

様似支店
預金担当
於本 涼音
【2016年4月入庫】

お客さまに気持ちよく利用していただける店舗を目指し、日々仕事に取り組んでいます。様似支店職員一同、これからも様似町の力になれるよう頑張ります。

## 様似支店のチャレンジ

地域貢献活動を通じ、親しみのある支店へ



様似支店 融資担当
梅津 悠斗【2020年4月入庫】



**様似町のPR活動への参加**
函館で開催されたイベントの手伝いとして参加し、様似町の絶品グルメの発信に貢献しました。

### 1 アポイドリームプロジェクトへの参加

アポイ岳の保全、活用のため、アポイ岳ファンクラブや様似町職員の方々、町内の中学生の皆さんと一緒に、草取りや畑起こし、植物の苗の移植等を行っています。





### 2 社会福祉への貢献活動

町内の養護老人ホームへ車椅子を、保育施設に遊具を寄贈する等、社会福祉の向上に取り組んでいます。

### 3 地域事業への参加

様似経済同友会が地域の景観の充実化を目的として実施している事業に参加し、合計5本の桜を植樹しました。





### 4 アポイの火まつり手伝い

職員がソフトドリンクやアルコール類の販売を行い、お祭りを盛り上げています。

## 支店長からひと言

### 地域の皆さまと共に行動し、頼られる存在に

支店長
楫川 正浩



例年、町内の清掃活動や植樹事業等を実施しています。今後は、町内各団体が実施する事業への協賛や職員の積極的な参加等により、子供からお年寄りまで、全ての人が住みやすいまちづくりのため、皆さまと一緒に行動していきます。



わがまち自慢

# ［えりも町］

# えりも支店



幌泉郡えりも町字本町170番地1
(01466)2-2311
【1952(昭和27)年7月5日 開設】



えりも支店は…
えりもの海の朝日のように明るく元気なお店です

えりも支店
営業担当
遠間 翔太
【2019年5月入庫】

お客さまの優しさを感じながら働いています。感謝の言葉が自分を成長させてくれたので、出会いを大切に、多くの「ありがとう」を言われる職員を目指します。



**福祉用品の寄贈**
新型コロナウイルス感染症によりマスクが不足した際、当金庫が備蓄していたサージカルマスクをえりも町へ寄贈しました。

## えりも支店のチャレンジ

まちに溶け込み、まちの発展を考え、まちを盛り上げます



えりも支店 営業担当
若泉 洸飛【2020年4月入庫】



### 1 えりもワクワク森林づくり体験事業植樹祭への参加

毎年、町内外から多くの方が参加する植樹祭。木を植えながら参加者の皆さまと交流し、緑化の大切さを学んでいます。

### 2 えりもの灯台まつり手伝い

8月に灯台公園で開催される「えりもの灯台まつり」で出店の運営手伝いに参加し、お祭りを盛り上げています。








### 3 4 地域の皆さまの作品を展示

地域の子供たちが書いた絵画や書道作品を展示し、来店いただいた皆さまに鑑賞の場を提供しています。

## 支店長からひと言

### 地域のコミュニケーションづくりをサポートします

支店長
扇谷 芳憲



今日まで、イベント参加を主体に地域の方と関わってきました。これからは地域の皆さまに「しんきんに行くと楽しいことがあるかも」と言われるような交流の場を提供し、皆さまと触れ合い、地域の活性化に貢献していきます。



様似町で活躍する
素敵なひとをご紹介します

# やっぱり、「このまちが好き」！

## アポイがいつまでも アポイであり続けるために

**アポイ岳ファンクラブ　会長**
**田中　正人 さん**



アポイに関わる仕事がしたい、と経営する鮮魚店をたたみ、アポイ岳調査指導員に転身。ビジターセンターの学芸員を定年まで務め、現在はアポイ岳ジオパークの認定ガイドとして活動しています。

　アポイ岳は日高山脈の南端にある標高810mの山です。地中のマントルがプレートの衝突で地表に押し出されてできたかんらん岩の山で、世界的にも珍しく、地球の成り立ちを調べる上で重要な場所。2015（平成27）年にはユネスコ世界ジオパークにも認定されました。またアポイ岳は希少な動植物の生息地としても知られています。本州であれば2000m級の山でしか見られない高山植物が気軽に行ける場所にあるので、大量に盗掘された時期もありました。こうした事態を受けて1997（平成9）年に結成したのがアポイ岳ファンクラブです。登山道の整備、盗掘パトロール、植生調査などの活動を続けてきました。希少な野生動植物の売買を規制する条例の制定以降、盗掘はなくなったものの、最近は温暖化の影響なのか、今も高山植物の減少は止まりません。



結成当初32人だったアポイ岳ファンクラブは道外にも広がり、現在150人ほど。田中さんは今も年間40回はアポイ岳に登ります。



　ファンクラブでは研究者を交えてアポイ岳再生委員会を組織。様似中学校と連携し、高山植物の苗を育ててエンルム岬などに移植する「ドリームプロジェクト」を2014（平成26）年から実施しています。日高信金の職員も毎回手伝いに駆けつけてくれて、ありがたいですね。私自身はビジターセンターの学芸員を2019（令和元）年に定年退職し、個人的に収集してきた古い生活用具を展示する私設資料館「三平皿・古民具の館」を開設。ここを拠点にこれからもアポイ岳と様似町の魅力を伝えていきたいと思っています。



## 母娘でのれんを守って60年 体の続く限り店を 続けたい

**中村おやき店**
**川崎　美枝子 さん　川崎　正春 さん**



「いらっしゃい」「また寄ってね」と、来店客に気さくに話しかける美枝子さんと正春さん。




　様似の人が愛してやまないソウルフードといえば、どらやきのような形をした中村のおやき。店主の川崎美枝子さんの母、中村富枝さんが1960（昭和35）年ごろに始めたお店です。「昔はラーメンなんかも出してたの。私は子供のころから手伝いをさせられて、友達と遊びに行くと怒られるから店が嫌でね」と美枝子さん。結婚後も町内で事務員として働きながら、休日は仕方なくお店を手伝う日々でした。「ある日、高校生の子が店でかき氷を食べながら、母に『ばあちゃん、この店辞めないでね』って話しているのを聞いたの。それからかな、店を継ごうと思ったのは」と美枝子さん。85歳まで店に立った母が2011年に亡くなったあとも、母の味を変えずにおやきをつくり続けています。

　小豆は幕別産のエリモ小豆、小麦粉も十勝産。銅製の型に生地を流し入れ、自家製あんを乗せて、焼き上がるまで約20分。3年前からは漁協で41年勤め、商工会を6年前に退職した夫の正春さんも一緒に店に立ち、夫婦で客を迎えます。「毎週のように買いに来る人や、十勝や札幌など遠方から来る人もいるよ」と正春さん。船の乗組員みんなで食べるからと大量注文の電話がくることも。「信金さんもよく来てくれますよ。昔、母が一人でやってたころは、信金さんがおつりの小銭を届けてくれたりしてね、お世話になりました」と美枝子さん。「この店がなくなったら困ると言ってくれる人がいるから、体の続く限りは続けたい」と、今日も店先に「おやき」ののれんを掲げます。



中村のおやきは、どらやきのようなフォルムが独特。まちでイベントがある日には1日500個売れることも。



えりも町で活躍する
素敵なひとをご紹介します

# やっぱり、「このまちが好き」！

## コンブボート・クルーズを新しい観光メニューに

**えりも観光協会　副会長**
**田中　照彦 さん**
**（お刺身旅館さんすいかく経営）**



町内で旅館とスナックを経営。地域の持続的発展に向け観光協会のあり方を研究する（公財）はまなす財団の「新観協研」のメンバー。



磯舟に乗ってみたいという観光客が多いと昆布漁師の知人から聞き、海岸の使用許可や航路の届け出をして2018（平成30）年に事業化したのが「コンブボート・クルーズ」です。SNSで発信するとテレビやメディアでの取材が相次ぎ、これまで3年間にモニターも含め600人以上が乗船しました。アザラシやオオワシが間近で見られると好評で、台湾や韓国から来た人も。コロナ禍でなければ、もっと大勢の人に体験してもらえたと思います。

えりも観光協会ではほかにも萌えキャラによる観光客誘致のプロジェクト「青春☆こんぶ」や、Vチューバーのライブ配信、トレーラーハウス体験、ワーケーションを意識した観光PR動画などに取り組んでいます。いずれも観光庁や環境省の事業に採択されたもの。資金は事業終了後の精算払いなので、それまでの運営費を用立ててもらうなど、日高信金さんにはいつもお世話になっています。

私が大事だと思うのは、既存のやり方をそのまま踏襲するのではなく、常に新しいことに取り組むこと。地域の課題を解決したくても、風が吹いているところで落ち葉を掃くのと同じで、どんどん積み重なってしまうので、とりあえず落ち葉で焼き芋でも焼くか、という感じ。これまでえりもと縁のなかった人を新しい発想で引っ張ってきたい。漁船を使って高校生と海洋マイクロプラスチックの調査をしたり、観光客向けにコンブ干し体験のメニューをつくったり、変化を恐れず挑戦していきたいと思っています。



実際のコンブ漁船で岬の先の岩礁近くを回ります。コンブ漁の最盛期や悪天候の日は出航できない場合も。乗船できなかった人がクルーズを疑似体験できるVR（仮想現実）動画も製作しました。





写真左から石川雄登くん、伊吹妃愛さん、山本凌己くん、野阪洸介くん。取材時は4人とも3年生で、卒業後は就職や進学でえりも町を離れる予定（2021年12月）。

# ボランティアを通して気づいたえりも町の素晴らしさ

**北海道えりも高等学校**
**風極プロジェクト同好会**

えりも高校の「風極プロジェクト」は2014（平成26）年に結成されたまちおこし同好会。現在は13人のメンバーが町内でさまざまなボランティア活動を行っています。「1年生の時は、うに祭りに出店したり、風の館で『高校生かふぇ』というイベントを開催したり、地域の方とふれあう機会がたくさんありました」と話すのは3年生の伊吹さん。ところが翌年以降はコロナ禍で、人の集まる活動がほとんど中止に。自分たちにできることはないかと話し合って取り組んだのが、布マスクとフェイスガードづくりでした。

メンバーが撮影したえりもの風景をプリントして、役場庁舎で写真展も開催。町民からは「えりもの美しさにあらためて気づいた」「これからも続けてほしい」という声が寄せられました。襟裳岬にひっそりと咲く高山植物を撮った石川くんの作品は、日高信金のフォトコンテストで理事長賞を受賞。信金のカレンダーにも採用されました。「自分がいいなと思った風景に共感してもらえたのがうれしい」と顔をほころばせます。






当時、入手が困難だったフェイスガードをメンバー全員で手づくり。町に寄贈し、町長から感謝と励ましの言葉をもらいました。

ほかにも町内や海岸でごみ拾いをしたり、放課後児童クラブで読み聞かせをしたり、小学生向けの自然体験教室を手伝ったり、幅広く活動した風極プロジェクト。3年生7人はもうすぐ卒業です。「海も山も緑もきれいなこのまちで育ってよかったと感じた」と野阪くん。「後輩たちには地域のための活動を続けてほしい」と山本くん。3年間の活動で地域を見つめ直し、まちの魅力を実感できたようです。

わがまち自慢

# ［広尾町］

# 広尾支店



広尾郡広尾町本通8丁目7番地の1
(01558)2-3161
【1958(昭和33)年5月1日 開設】



広尾支店は…

## お客さまに寄り添い共に歩んでいきます

広尾支店
預金担当
木戸 啓太
【2019年4月入庫】

先輩方のように、地域のお客さまから頼りにされる職員を目指し頑張ります。広尾町の自慢はサンタランドのイルミネーションと毛がにまつり。観光に来てください。

広尾支店のチャレンジ

## 町民と共に全力で広尾町を盛り上げていきます



広尾支店 営業担当
菊地 奨悟【2015年4月入庫】



**十勝神社秋季例大祭への参加**
力のある若手職員が中心となって神輿担ぎを行っています。



**1 ひろおサンタカード「子どもの夢を応援するプロジェクト」への参加**
ひろおサンタカードが実施している、児童養護施設の子供たちにプレゼントを贈るプロジェクトに、当金庫本部や他の支店と共同で参加しています。

**2 防犯・護身術訓練の実施**
広尾警察署との「地域の安心・安全に関する協定」に基づき、有事の際に対応できるよう、防犯・護身術訓練に参加しました。





**3 ルート336花壇づくり**
広尾町町内会連合会が推進している「サンタランド花いっぱい運動」の事業のひとつ「ルート336花壇づくり」に参加し、地域の美化に取り組んでいます。

**4 町民仮装盆踊大会への参加**
十勝港まつりで開催される「仮装盆踊り大会」に参加。職員各々が仮装をしますが、どれも力作(?)揃いです。




支店長からひと言

## 地域との「交流」、人との「ふれあい」を大切に

支店長
山村 浩樹



転勤のある私たち職員が大切にすべきことは、まちに溶け込むことだと思います。さまざまな地域貢献活動を通し、まちを好きになること、人を知ること、覚えてもらうこと、好まれること。これらが地域のため、金庫のため、自分のためになると感じています。



わがまち自慢

# ［札幌市］

# 札幌支店



札幌市中央区北4条西5丁目1番地4
大樹生命札幌共同ビル4F
(011)200-7070
【2007(平成19)年9月10日 開設】



札幌支店は…

## 日高や広尾の情報を札幌の皆さまに発信しています

札幌支店
預金担当
秋山 咲綺
【2017年4月入庫】

丁寧かつ迅速な窓口対応を心がけています。日高や広尾の良いところを広められるよう、「笑顔・明るい」窓口でお客さまをお迎えします。



**うらフェス街頭PR活動**
浦河町の催し「うらフェス」のPR活動として、ティッシュ配りを市内各所で行いました。

札幌支店のチャレンジ

## 店内ロビーにて基盤地区の魅力を発信!



札幌支店 営業・融資担当
川上 翔平【2014年4月入庫】





**1 2 札幌市内の清掃活動** 店舗前を中心に、市内のゴミ拾いを定期的に実施して、美化に貢献しています。






**3 4 基盤地区のPR活動** 各町の写真やパネル、北海道カメラ女子の会「チームとんがり」の皆さまの写真等を展示し、基盤地区等のPRに努めています。

支店長からひと言

## 気軽にお越しいただけるお店づくり

支店長
沖田 淳也



当店では、主に基盤地区(札幌支店以外の店舗がある地区)をPRする展示コーナーを設け、各町の観光イベント・特産品などの展示を行っています。地域の魅力発信のため、多くのお客さまに気軽にお越しいただけるお店を目指します。



広尾町で活躍する
素敵なひとをご紹介します

# やっぱり、「このまちが好き」！



亜希さんも夫の亮太さんも千葉県の出身。帯広畜産大学で知り合い、卒業後、それぞれ別の牧場で2年間の研修を経て、結婚後に新規就農しました。

## 農業、林業、水産業 広尾には一次産業の 魅力がいっぱい

**菊地ファーム**
**菊地　亜希 さん**
**（ピロロツーリズム推進協議会　代表）**



2009（平成21）年、広尾町に夫婦で新規就農しました。酪農にはいろいろなスタイルがありますが、私たちがこだわったのは牛がストレスなく過ごせる環境づくり。雪が積もるまでは放牧を主体にして約100頭の牛を飼養しています。

子供たちに酪農や牧場をもっと身近に感じてもらえるよう、酪農教育ファームに登録して地元の小学生の体験学習や都市部の修学旅行生を受け入れてきました。そこでもっと多くの人に気軽に足を運んでもらいたくて、2018（平成30）年には敷地内にカフェもオープンしました。搾りたての生乳を加工したジェラートやソフトクリーム、大切に飼ってきた牛のお肉で調理したハンバーガーなどのメニューを提供。牛乳やカップアイスの通信販売も始めました。

こうした菊地ファームの仕事とは別に力を入れているのが、まちづくりの取り組みです。きっかけは2013（平成25）年に町が主催する「ひろお未来塾」に参加したこと。同世代の異業種の人たちと知り合い、一緒に「ピロロフェス」という野外イベントを始めました。一次産業をテーマにした体験メニューと食、雑貨、音楽を融合させた内容です。広尾町には農林水産業、三つの一次産業が揃っていて、漁船のクルージングや伐採体験、木材を使ったものづくりなど、さまざまな体験が楽しめることに気づきました。これらを通年型の観光プログラムにしたいと立ち上げたのがピロロツーリズム推進協議会。地域おこし協力隊のメンバーも加わってくれたので、広尾町の魅力を広く発信していきたいと思っています。



ホルスタインだけではなくジャージーやブラウンスイスなど約100頭の牛を飼養。



搾りたての生乳でつくるソフトクリーム。牛が食べる草や季節によって味わいが変わります。



## クラフトサイダーで 広尾のまちを ＰＲしていきたい

**広尾町観光協会　会長**
**石山　拓 さん**
**（株式会社石山商店　代表取締役）**




北海道中小企業家同友会で池田町の経営者からぶどう果汁を使ったサイダーの商品化を聞いたのが始まりでした。我々も地元の素材でつくろうと仲間で資金を出しあい、海水塩でシャンパン風ドリンクを開発しましたが、これが「衝撃のしょっぱい作」。塩味が強すぎました。そこから54%減塩し、天然の着色料に変えるなど改良を重ねて完成したのが「広尾しおサイダー」です。

その後、十勝地サイダー研究会ができ、芽室コーンサイダー、帯広ビーツサイダーなど広域連携でラインナップが増加。帯広駅に自動販売機を設置したほか、十勝サウナ協議会とタイアップしたり、地サイダー＆地ラムネとして東京や大阪などの銭湯に置いてもらったりしています。このサイダーの目的は売り上げではなく、あくまで広尾町のPR。なぜサンタクロースがサーフィンしているのか、ラベルを見て興味を持つきっかけになれば、と思っています。

私は2019（令和元）年に広尾町観光協会の会長になりましたが、広尾毛がにまつりも、サンタランドの点灯式に合わせて行うチャリティのサンタランも、この2年間は中止。できることから始めようと観光協会のサイトをつくり、SNSでの発信も始めました。一人でも多くの人に広尾町を知ってもらい、訪ねてもらい、交流人口を増やすことから取り組むつもりです。進学などでまちを離れる子供たちが、戻ってきたくなるかどうかは我々次第。まず自分たちが日々楽しんでいる姿を見せることが大事だと思います。



祖父の代から続く燃料販売店の三代目。札幌のガス会社や暖房設備会社で経験を積んで1995年にUターン。日高信金の総代を務めてくださっています。




広尾しおサイダーはほんのり海の香り。農林水産省の「フード・アクション・ニッポンアワード2019」で特別賞を受賞しました。



札幌市で活躍する
素敵なひとをご紹介します

# やっぱり、「このまちが好き」！



2013(平成25)年に司法書士の国家試験に合格。研修時にお世話になった事務所に就職し、事業承継を前提に大先生から実務を任されています。

## 不動産登記から相続まで法律の知識でサポート

松下司法書士綜合事務所
司法書士
濱中　和大 さん



司法書士は法律の専門家で、不動産売買の立ち会いや登記、遺言の作成、認知症の人の財産を管理する成年後見、相続した財産の名義変更などを担当します。ときには相続人に行方不明の人がいるなど難しい案件もありますが、困難なケースほど片付いたときはお客さまから感謝されますし、お役に立てたと実感できる仕事です。

私は広尾町で生まれ育ち、札幌の大学に進学。在学中に宅地建物取引士の資格をとり、その過程で司法書士という仕事を知って勉強を始めました。卒業後は実家に戻って、ほとんど外出せず2年間ひたすら独学。合格したのは25歳のときです。



司法書士の国家試験は合格率3～5%と最難関資格のひとつ。専門の学校に通わず、独学での合格は珍しい。

今は日高信金から融資先の登記関係や不動産売買にまつわる業務を任せていただくなど、大変お世話になっています。そうしたご縁もあって2022(令和4)年、札幌地区の総代をお引き受けしました。実は父が広尾町で建設会社を経営しており、日高信金とは二代にわたるおつきあいです。地元の金融機関ですからやはり親近感がありますし、おこがましいですが私の中では仲間という意識が強くあります。

超高齢社会の日本では今後、認知症になる前の財産管理の対策が広く求められるようになるはずです。また後継者のいない中小企業の事業承継のサポートも欠かせないでしょう。これからも日高信金と協力しながら、そうしたご相談に法律面からお手伝いしていきたいと思っています。いつか、ふるさと広尾のために貢献できるような機会があればうれしいですね。



北海道教育大学大学院修了。母校の浦河高校で2年間、美術の代替教員の経験も。海外での滞在制作や、小学校への「おとどけアート」など、さまざまなプロジェクトに参加しています。

## 日高の自然や風景が絵の重要なファクターに

画家
久野　志乃 さん

18歳まで様似町の鵜苫（うとま）という漁村に住んでいました。閉校になった鵜苫小学校は目の前が海で、雲間から光が差し込むような美しい風景が教室の窓から見えるんです。そういう様子を眺めたり、磯遊びをしたり、裏山に登ったりして子供時代を過ごしました。

私の油彩画は、他者から聞いた話をモチーフに、その人の記憶と自分の想像を重ね合わせることで、ありえたかもしれない世界を描いています。私にとって様似の海や日高の自然はその原風景であり重要なファクターです。たとえば夏にアポイ岳がすっぽりと霧に包まれる日があるのですが、人間の記憶もその霧のようにあいまいで変容するものではないかと気づきました。今後もそうした要素を取り入れながら描いていきたいと思っています。絵画は厚さ数センチの平面ですが、私はひとつの「通路」のように感じていて、見る人にいつもと違う見方や視点を感じてもらえるような役目ができたらいいな、と考えています。



日高信用金庫のカレンダー2018年版に提供した作品。



日高信金には高校の同級生が勤めていて、以前カレンダー用の絵を依頼していただいたことがありました。毎日、目に入るものに絵を使ってもらえたのもうれしかったですし、原画を買い取って店舗に飾ってくださっているのも光栄です。作家にとって発表する機会や場所をいかにつくるかというのは大きな課題ですから、大変ありがたいこと。アートに関わるこうした活動や支援をこれからも継続していただけたら、うれしいです。

理事長を囲む座談会

# 地域社会も、商売も、キーワードは「持続可能性（サスティナビリティ）」



若い世代が元気なまちは活気があります。
西は新冠町から東は広尾町まで、当金庫が基盤地区と位置づけている
6町の商工団体青年部の代表にお集まりいただき、
理事長を囲み地域の課題や未来について話し合う場を設けました。

## 青年部の活動について

**理事長**　本日はお忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。お陰さまで当金庫は2021年4月に創立100周年を迎えることができました。これもひとえに皆さまのお引き立ての賜物と心よりお礼申し上げます。本日は商工分野の一翼を担う若手リーダーの皆さんと地域の課題や未来について率直に話し合い、地域興しにつながるヒントを見い出す機会にしたいと考えております。早速ですが、まずは皆さんの青年部の活動をご紹介くださいますか。

**西村**　新冠町商工会青年部の部長をしている西村と申します。コロナ前は「にいかっぷふるさと祭り」のビアガーデン、子供向けの盆踊り、レ・コード館のイルミネーションフェスタなど、イベントに力を入れていましたが、コロナ禍で開催が難しくなり、代わりに月例会でマネーセミナーや外国人雇用セミナーなどの勉強会に注力しました。また、昨年度は中学生向けの職業体験事業「ミライクエスト」を青年部が独自に企画し、大変好評を得ました。これは中学校で行っていた職業体験がコロナ禍で中止されたことを受け、青年部でできないかと教育委員会に相談して実現したものです。ホロシリ乗馬クラブを会場にお借りして、青年部員がそれぞれ中学生向けの体験プログラムを用意。うちであれば金物販売や屋根板金工事などで電動工具で簡単な作業をしてもらったり、コンビニ経営であれば挨拶のトレーニングをしたり、仕事内容を紹介しながら地元で働く選択肢を提供する取り組みです。みんな興味津々で参加して、後日、報告会で率直な感想を聞かせてくれました。この取り組みは



北海道商工会青年部連合会で最高賞の会長賞を受賞、全国大会でも表彰されることになりました。これからも「青年部活動とはなんぞや」というところを追求して、新しい挑戦をしていきたいと思っています。

**土井**　新ひだか町商工会青年部、部長の土井と申します。今年1月、町民の皆さんに楽しんでもらいたいと、「新ひだかルミナリエ」と称して初めて静内体育館付近にイルミネーションを点灯しました。準備にあたり、新冠の西村さんに青年部の会議まで来てもらい、いろいろと助言いただきました。おかげでとても反響が良く、今年はもう少し規模を拡大しようと話をしているところです。元々冬はフロアカーリングの大会とジンギスカンのイベントを開催していましたが、コロナ禍で中止になり、この冬はイルミネーションとテイクアウトのお店を組み合わせて実施できないか検討中です。青年部の最大のイベントは夏の「星空ビアガーデン」ですが、これもコロナで中止。今年は静内川花火大会に3年ぶりにテイクアウトの縁日を出店しましたが、日高信金さんも射的のブースを出して夏まつりを盛り上げてくれました。また札幌ドームで行われた「大ほっかいどう祭」に参加。「こんぶマン」「こぶねちゃん」という青年部独自のキャラクターがあるので、部員が着ぐるみに入って新ひだか町のＰＲに一役買ったりもしています。

**山口**　広尾町商工会青年部の副部長をしている山口です。今日は部長の鏑木の代理でまいりました。広尾町はコロナに加え去年の赤潮の影響が尾を引いているので、なんとかまちを元気づけたいと青年部で協議して、3年ぶりに「広尾つつじ祭り」の屋台・縁日を実施しました。例年よりは人が少なかったものの、久しぶりに子供たちの笑顔を見ることができました。夏は十勝港花火大会に合わせて青年部で店を出したほか、8月末には町外からキッチンカーを呼んで「HIROO TABENOMI　MARCHE」も開催。これから12月には「広尾毛がにまつり」があるので大鍋毛がにの販売、クリスマスにはサンタランドで冬の花火も予定しています。広尾町は運送業や警察など転勤族が多く、人口の割に子供が多いので、コロナでお祭りが軒並み中止になったときは、ハロウィンやクリスマスに保育所へサプライズのプレゼントを届けたりもしました。

**植木**　えりも町商工会青年部、部長の植木です。青年部は例年、三つのお祭りに参加していますが、春の「うに祭り」は赤潮被害で中止。今年は夏の「灯台まつり」と、秋の「海と山の幸フェスティバル」に出店しました。灯台まつりはいつも日高信金えりも支店の方々が手伝ってくださるので、本当に感謝しています。灯台公園の幌泉燈台記念塔は2019年に国の有形文化財に登録されたのですが、サビがひどいので、今年、教育委員会や漁協の青年部と協力してきれいにペンキを塗り直しました。冬に記念塔をイルミネーションで飾る計画もありますが、町とまだ打ち合わせできていないので、今年は間に合うかどうか…。ほかには保育所や幼稚園を訪ねて交通安全のルールを伝える事業もしていますし、襟裳岬の緑化をテーマにした映画『北の流氷（仮称）』の製作に向け、協力金を呼びかけたり、今後エキストラなど撮影時の協力体制を作ったりもする予定です。

**古川**　様似町の古川です。商工会青年部の部長をしていますが、部員は7人で、活動できるのは実質3〜4人と限られています。今年の夏は苫小牧のバイカーで組織する実行委員会が「第1回とんがりロードBikers meeting in 様似」というイベントを企画してくれたので、青年部でお手伝いさせてもらいました。バイク乗りの方々が道外からも集まってとても盛況だったので、来年はお手伝いではなく、青年部で出店して様似のPRができたらと考えています。コロナ以前は「アポイの火まつり」に合わせて青年部でビアガーデンをして、信金さんにお手伝いいただいたこともありましたが、今は部員が少なくて難しい。他所にも協力を仰いで、小さな規模でも実現できたらいいなと思っています。



日高信用金庫
理事長
**大沼　孝司**

1955年生まれ、67歳。新冠町生まれ、静内育ち。
大学卒業後、1978年に日高信金に入庫。静内支店、本店営業部、えりも支店を経て、1992年から本部勤務。



浦河商工会議所青年部
会長
**鈴木　渉さん**

1974年生まれ、48歳。
高校卒業後、札幌でホテルマンを経験後、父の経営する「鈴木塗工店」に勤務。3年前に父から事業を引き継ぎ、二代目の代表に就任。




**鈴木**　浦河商工会議所青年部で会長をしている鈴木です。コロナ禍で活動を自粛している間も、レシートを集めて応募するグルメプレゼントや小学生を対象としたパークゴルフ大会など、感染防止対策を取りながらできることを考えてきました。今年度は桜まつりのライトアップやかに汁の無料配布から始まり、大通地区一斉清掃への参加、浦河鉄路活用プロジェクトによる「廃線ウォーク 旧・日高線を歩く in 浦河」のお手伝い、港まつりへの出店などを実施しました。先週は様似町とえりも町の商工会青年部と3町交流会を企画して、パークゴルフと焼肉で親睦を深めたところです。これから12月には青年部主催の「レシート祭り」があります。これは加盟店で買い物をしたレシートを台紙に貼って応募すると抽選で景品が当たるキャンペーンです。各事業所はもちろん日高信金さんにも景品を提供いただいています。3年ぶりの実施ですが、少しでもまちが潤うきっかけになってほしいと思っています。

## 地域が直面している課題とは？

**理事長**　ありがとうございます。それぞれ工夫をしてまちの活性化に取り組まれていらっしゃいますが、日ごろ感じている地域の課題などはありますか。

**西村**　青年部員では、私もそうですが、事業承継が進んでいません。日々の業務に追われて着手するきっかけもつかめません。うちの父は70歳ですが、バブル経済を経験している世代だからなのか、とにかく元気で仕事もバリバリこなします。些細な意見の食い違いから、言い合いになってしまうことも少なくありません。私は入社して15年目ですが、なかなか前に進めずジタバタしているので、信金さんや商工会の指導員さんが間に入って、パイプ役になってほしい。藁にもすがる思いです（笑）。

**土井**　8年前に父が亡くなり33歳で跡を継ぎました。






新ひだか町商工会青年部
部長
**土井 司さん**

1981年生まれ、41歳。
札幌の専門学校を卒業後、家業の「有限会社山井リビング土井」に入社。8年前に父が急逝し33歳で代表に就任。



前もって「社長を交代するのは70歳だ」と言われていたのですが、急に亡くなったのでパニックでしたね。父と一緒に働いて13年経っていたので、なんとかできましたが、右も左も分からないうちだったら会社を潰していたと思います。後継者がいても亡くなってからの事業承継は大変だということを知ってほしいです。

**山口**　僕は帯広生まれで、叔父の自動車整備工場を継ぐために8年前に広尾に来ました。10年くらいかけて譲り受けるのがベストだと聞いていましたが、思ったより早く交代の話をもらい、今年6月に代表になりました。先代は小型自動車の整備が中心でしたが、十勝港は物流拠点なので自分は大型トラックの整備に注力。ボルボ・トラック・ジャパンとサービス工場の契約を結ぶなど、事業を広げていく際は、小さなことでも相談をしましたね。先代はいま会長職で顔を合わせる機会も少ないのですが、それでも自分から報告に行くようにしています。二代目は創業者の敷いたレールに乗って仕事させてもらっているので、感謝を忘れちゃいけないと思っています。

**鈴木**　3年ほど前、父が起業した建築塗装の事業を引き継ぎました。周りから「元気なうちにやったほうがいい」と言われて交代しましたが、仕事についてはやっぱり口を出してきますよ。今年80歳ですが、まだ現役で現場に出て頑張っています。経験が長いぶん親父の意見に納得することもあるし、僕の意見も聞いてもらって一緒に検討するようにしています。

**古川**　うちは曾祖父の代から続くクリーニング店ですが、去年、社長だった祖父が亡くなりました。余命を宣告されていたので、信金さんに相談して事業承継を進めていましたが、間に合いませんでした。あとから遺言書が出てきて店や機械は僕に譲ると書いてあったんですが、法的な効力がなく、結局、母親が相続して社長になり、実質的な経営を僕が担うことになりました。祖父は僕が料金改定を提案しても「オレがいなくなったら変えればいい」と聞く耳を持ってくれませんでしたが、事業承継は本当に難しいと実感しています。

**植木**　うちは信金さんから事業承継を提案していただき、父と私の二人で相談に乗っていただいています。父自身、祖父が亡くなって急に店を任されることになり大変だったらしく、今は父が計画書を書いている最中。代替わりがいつかはっきりしていませんが、父の思いを書いておいてもらえれば、これから先、意見がぶつかったときも、それを見ながら先のことを考えていけそうなので、少し安心しています。

**理事長**　北海道の企業は後継者不在率が全国で最も高く、経営者の高齢化による休廃業も全国より多くなっています。休廃業の企業も黒字の割合が全国





新冠町商工会青年部
部長
**西村 修司さん**

1985年生まれ、37歳。
札幌の専門学校を卒業後、機械工具の商社に就職。15年前、Uターンして家業の「有限会社丸勝西村金物店」に入社。
現在、専務取締役。

より高く、経営資源を生かせる潜在能力を持っています。当金庫でも今後、後継者に着目した支援の強化が最も重要と考えており、経営相談課が窓口となって事業承継などのご相談に応じているほか、必要に応じて税理士や中小企業診断士など専門家の派遣も行っておりますので、なんなりとお申し付けください。

事業承継のほかには、どのような課題がありますか。

**土井**　青年部は45歳で卒業ですが、ここ数年で部員数の半減が予想されます。新ひだか町の場合、一番若手でも30歳超。20代が1人もいません。なので自営業者という縛りをなくして、町内企業で働く従業員にも入ってもらえるようにしましたが、なかなか増えません。この先ビアガーデンの運営は難しくなりそうなので、将来的にやめる方向で話し合っています。

**植木**　えりも町も同じです。現在部員は19人ですが、この2～3年で6～7人が卒業する一方、入部の見込みは1人だけ。正直なところ青年部活動としては限界を迎えつつあって、今後は青年部OBのいる親会と一緒に活動できないかと相談しています。

**鈴木**　浦河商工会議所青年部は2年ほど前に卒業を49歳から50歳へ引き上げました。僕は48歳ですが、同世代が6人。来年と再来年で10人近く抜けてしまいます。日高信金さんの若手職員2人が、青年部に入ってくれていますが、経営者や次期社長以外にも門戸を広げていかないと活動を継続できません。青年部活動の魅力をわかりやすく文章にした入会申込書をつくるなど、広報に力を入れて仲間を増やしていかないと、と思っています。

**西村**　このあいだ、新冠にUターンしてきた26歳の若者に声を掛けたら「青年部に入るメリットって何です



か？」って直球で聞かれたんです。僕が23歳で青年部に入った動機は、ただで酒が飲める、青年部を理由に仕事を休める、でした。でも今、続けている理由はそうじゃない。新冠で育つ子供たちのためだったり、地域への恩返しだったり、メリットだけが動機じゃなくなってくる。だから、まず若い人の価値観を汲み上げて興味を持ってもらえる勉強会をしたり、青年部活動で培ったネットワークやコミュニケーション能力は仕事に直結するよ、と伝えたりしながら、仲間を増やしていくしかないなと思います。

**土井**　20代30代40代、幅広い年代と関わりながら、力を合わせられるのが青年部活動の魅力ですが、人づきあいが面倒だと辞める人もいます。確かにビアガーデンのチケットをさばくとか、役員になったらいろいろな会議に出るとか、負担も大きい。でも、そのくらいやれなきゃ仕事もちゃんとできないのでは。青年部活動だって仕事と同様に、やりがいがあると思うんですけどね。



様似町商工会青年部
部長
**古川 翼さん**

1989年生まれ、33歳。
高校卒業後、札幌のクリーニング店で短期修業し、家業の「古川クリーニング商会」に就職。昨年、先代が亡くなり実質的な経営者に。



**植木**　コロナ禍もあって地域に活気がないですよね。観光客も少しずつ戻ってきているようですが、以前は観光バスがたくさん停まっていた襟裳岬の駐車場もまだガラガラ。「コンブボートクルーズ」という新しい観光メニューもできたので、町内の飲食店なども合わせて紹介できるような取り組みがあればいいなと考えているところです。

**西村**　新冠町では町立国民健康保険診療所の改築に向けて基本計画の策定が進んでいるほか、小中学校の校舎も老朽化で大規模な改修工事が必要で、多額の費用がかかると想定されます。なので、青年部としては若い世代の意見を集約した提言書を作って町政懇談会に声を届けようと計画中です。僕は小学1年の子供がいますが、子育て中の我々若い世代が新冠町と一緒にこの先10年後、20年後を真剣に考えることが、より良い未来の発展につながると思っています。



## 日高信用金庫に望むこと

**理事長**　地域の課題が具体的に見えてきましたが、皆さんから日高信用金庫へ何かご要望はあるでしょうか。

**鈴木**　信金の職員2人が、青年部に入って活動してくれて、ありがたく思っています。引き続きご協力のほどよろしくお願いします。

**理事長**　職員には地域の団体に極力参加するよう声掛けしています。若手職員にとって青年部活動は人脈づくりはもちろん、同世代と意見交換ができるという意味でも貴重です。私どもの方こそお礼を申し上げます。

**土井**　地元の金融機関として困っている事業者への支援をお願いしたいです。

**理事長**　当金庫は「新長期経営計画」において、お取引先や地域の課題に真摯に向き合い解決へ導ける人材の育成、ならびに地域を支えていくために必要となる収益力の強化を基本方針に掲げています。お客さまの元に足を運び、しっかりと話をお聞きして、お客さまに寄り添った伴走型支援を提供したいと取り組んでいるところです。経営相談や補助金申請、創業支援等、経営相談課による昨年度の訪問先は9件25回、専門家の派遣は13件31回を数えます。どうぞお気軽にご相談ください。

**西村**　コロナ前のことですが、信金さんが若手職員と青年部の代表メンバーで交流する機会を設けてくださったことがありました。みんな後継者でまだ社長



えりも町商工会青年部
部長
**植木 紀喜さん**

1988年生まれ、34歳。
高校卒業後、家業の「和洋菓子の店うえき」に就職。菓子製造の他、森永乳業えりも販売店、アイスクリーム卸などの業務に従事。

ではないのですが、声を掛けてもらえると僕らのモチベーションも当然アップしますし、いざというときは信金さんに相談しようという気持ちになります。そのとき知り合った職員の方とはその後、街で会っても「どうもー」と気軽に声を掛けられる関係になれました。

**理事長**　若い世代で情報交換できる場がないというので、こちらから投げかけて各地域で数年前から「若手職員地域交流会」を実施しています。コロナ禍で滞ってはいますが、積極的に働きかけてまいりますので、皆さんの方からも、どんどん声をかけてくださると幸いです。

**西村**　事務所に社長が不在のとき、信金の営業さんが見えて「今日は誰もいませんね？」と言われたりすると、内心「僕がいるのに…」と思っていたので、かまってもらえるとうれしいです。

**理事長**　後継者の方と腹を割って話せるせっかくのチャンスを逃していることは残念ですね。申し訳なかったです。経営者となったときの将来展望などを伺えれば、新事業の提案などもお手伝いできると思います。

**西村**　若手経営者の育成もぜひお願いしたいです。

**理事長**　今年度、後継者の方々を対象に、中小企業基盤整備機構等との共催で「次世代経営人材育成プログラム」を実施しました。5～9月で全8日間、有料でのご案内にもかかわらず、延べ156名もの参加がありました。当金庫の職員も延べにして25名が参加し、支援力の強化に努めています。これからも地域経済の発展に寄与する人材の育成を目指した取り組みを続けてまいりますので、機会があればご参加ください。

**古川**　クリーニングの取次店の拡大やコインランドリーの開設など、新たな事業展開を検討しているので、その際は融資をお願いしたいです（笑）。

**理事長**　ポスト「ゼロゼロ融資」への取り組みが重要だと考えています。事業の将来性、課題や問題点を分析する「事業性評価」に力を入れつつ、資金需要に対しては円滑に供給していきたいと考えています。

**植木**　私の兄は道東で農協に勤めていますが、「金を貸す側はたくさんの店を回るから、儲かっている店も危ない店も見ただけで分かる」と話していました。経営が順調な店の特徴があれば聞いてみたいな、と。

**理事長**　規模が小さくても経営が順調な企業はたくさんありますが、大きく三つの共通項があると思います。一つは「○○商店といえば○○」というような目玉商品やサービスがあり、地域の人々に愛されていること。二つ目は経営者が自分の会社の強みや弱みを理解し、変えなければいけない部分と変えてはいけない部分を正しく意識していること。三つ目は売り上げや利益につながるような情報や人脈があることです。





広尾町商工会青年部
副部長
**山口 幸将さん**

1982年生まれ、39歳。
高校卒業後、ディーラーで自動車整備士の資格を取得。叔父の経営する「株式会社オートサービスヤマグチ」に転職し、2022年6月に代表取締役に就任。





もちろん皆さん方のような次世代の経営者を応援できるよう、我々信金も変化していかなければならないと考えています。

**山口**　整備士などの即戦力を帯広から呼ぶにしても、外国人材を受け入れるにしても、住居が問題になります。なのに、持ち主が亡くなった空き家があっても、その情報が入ってこない。中古物件をリノベーションして住まいを提供できれば、求人もしやすくなるし雇用も増やせる。もし不動産の情報が入ってくるようでしたら、教えていただきたいです。

**理事長**　営業担当がそれぞれで情報を持ってはいても、今は組織として一元管理されていません。情報を利活用するための仕組みが必要です。できれば近いうちにそうした環境を整えられるよう、前向きに検討したいと思います。

**西村**　金融機関の方は「何かありませんか？」と聞いてくれますが、正直、何もないんです。「こういうのがありますけど、どうですか」と提案していただけるのを期待してしまいます。

**理事長**　そうですね、専門家を派遣するコンサルティング支援や、新規創業者向けの助成金事業などにも取り組んでいるところですが、依頼を待つのではなく、こちらから新しい情報提供ができるよう引き続き努力してまいります。

**鈴木**　理事長は地域の未来像についてどのようにお考えですか。

**理事長**　残念ながら、人口減少など社会構造の変化は覚悟しなければなりません。2040年には人口が35～37%も減り、日高管内は4万人を切ると推計されています。それでも日高や十勝が持つポテンシャルというか強みは不変ですし、環境問題や食料自給の観点から今後その重要性がますます高まる可能性も秘めています。ただ日高管内には大学や専門学校がなく、若い人たちが進学するとなると地元を離れざるを得ません。学生のUターンの呼び水となるよう「特別奨学金制度カムバックJIMOTO」なども実施していますが、働く場所をどう確保していくかは切実な問題です。重要なのは、やはり安定した経済基盤と活力ある産業づくり。当金庫も金融だけではなく、行政や商工団体との連携を深め、非金融分野においても一緒に知恵を出し合い、持続可能性を高めるために協力して取り組んでいく所存です。

**鈴木**　我々事業者が魅力のある仕事や職場を作れば、子供たちの世代も戻ってきやすくなる。合わせて地域の魅力を町外に発信して、Iターンのように都会からの移住者が増えていくような未来が望ましいと思います。

**土井**　若者の活動を周囲の大人がサポートしてくれるような地域であれば、Uターンしたくなるのでは。

**西村**　地域でできることはなるべく地域内で解決できるようにしたい。僕は飲食業も工事業も都市部とは違う事業形態があるはずだと思っています。

**理事長**　今日は限られた時間でしたが、皆さんから直接お話を伺うことができ、大変有意義なひとときになりました。お聞かせいただいた貴重なご意見は、さっそく当金庫の各部署に伝え、今後の施策に役立ててまいります。日高信用金庫はこれからも地域密着の金融機関として引き続き地域経済、文化・社会の活性化に向けて積極的に取り組んでまいりますので、今後ともどうぞよろしくお引き立てください。本日はありがとうございました。

（2022年11月12日、うらかわ優駿ビレッジAERUにて収録）

# 職員の課外活動

日高信用金庫では職員親睦会のイベントや部活動もさかんです。
同僚の意外な特技を発見したり、職員同士のコミュニケーションが活性化したり、
日々の仕事にも役立っています。

## 職員親睦会

職員親睦会では年に数回、役職員の交流の場を設けています。一番の目的は、文字通り役職員間の親睦を深めること。お互いの顔を覚えることにより、転勤先でもすぐに溶け込める環境づくりにつなげています。
各営業店や本部各部においても、職場環境づくりの一環として忘年会や新年会、歓送迎会など、飲食を中心に活発な交流を実施しています。





◀▲パークゴルフ大会



▲百人一首大会




▲ありがとう感謝の60年 川下り



マージャン大会▶



▲シンザンフェスティバル



バーベキュー▶



▲ピクニック





ソフトボール大会▲▶



▲アポイ登山



▲職員旅行

## 野球部







野球部は職員間の交流の場の一つとして、長きにわたり活動しています。かつては親睦が中心でしたが、現在は全道信用金庫野球大会での優勝を目指して5月から8月にかけてほぼ毎週末に活動。若手からベテランまで一緒に汗を流しています。大会には多くの役職員が応援に駆けつけ、選手たちの勇姿を見守ります。



◀約40年前に全道信用金庫野球大会で撮影された集合写真です。当時は赤いユニフォームでした。

## サッカー部



サッカー部は歴史こそ短いものの、近年競技人口が増えたことから経験者の入部が多く、道内の信用金庫サッカーチームの中では強豪です。部員同士の交流も活発で、仲間意識が強く、若手部員にとって先輩部員は憧れの存在。年長者は部活動だけではなく仕事面でのアドバイスも含めて後輩の面倒をみています。







## Nanairo Anglers Club

長らく休部となっていた「日信釣クラブ」が再始動しました。名前を「Nanairo Anglers Club」に変更しイメージを一新。若手職員や女性職員にも参加を呼び掛け、「釣り大会」「釣り遠征」「釣りキャンプ&BBQ」などの行事を計画中です。「釣って、食べて、飲んで」をモットーに、楽しい交流の場を提供しています。





# 経営理念

日高信用金庫は、
「地域にとってなくてはならない信用金庫」を基本とし、
協同組織金融機関の特性と独自性を発揮して
地域社会の持続的な発展、
ひいては日本経済の発展に貢献します。

1. 会員・取引先の信頼を確保し地域社会に貢献していくため、
コンプライアンス態勢の徹底と更なる深化を目指します。

2. 真のお客さま第一主義に徹し、
地域ニーズへの適切な対応と利用者利便の向上を図ります。

3. 地域社会の持続的発展に貢献するため、
一層の健全性向上を目指します。
このため、リスク管理態勢の確立や効率化を推進し、
安定した収益基盤を構築します。

4. 地域貢献を果たしていくための最大の経営資源は
人であると位置づけ、
高いコンプライアンス意識を持ち積極的な姿勢で
金庫の基本方針の実現に寄与できる人材を育成します。



理事会　2022年6月17日

# 資料編

# 現 役 員

2022年3月31日現在



理事長
大沼　孝司



理　事　菊地　竹勇



理　事　小嶋　仁



理　事　野畑　直高



理　事　木村　春夫



理　事　濱中　和行



専務理事　南　末美



常務理事　新保　雄司



常務理事　山本　宏一



常勤理事　原口　広



常勤理事　川村　学



常勤監事　中居　知哉



監　事　幌村　司



員外監事　河村　一夫

# 歴代組合長・理事長

2022年3月31日現在



初代組合長
**北川　貞七**

1921（大正10）年4月13日～
1926（大正15）年4月7日



二代目組合長
**奥田　惣兵衛（二代目）**

1926（大正15）年4月20日～
1927（昭和2）年2月10日



三代組合長
**高木　徳治**

1927（昭和2）年2月13日～
1942（昭和17）年4月17日



四代組合長
**奥田　惣兵衛（三代目）**

1942（昭和17）年5月3日～
1950（昭和25）年6月9日



五代理事長
**田中　清三**

1950（昭和25）年7月21日～
1960（昭和35）年9月24日



六代理事長
**奥田　惣兵衛（四代目）**

1960（昭和35）年9月24日～
1997（平成9）年4月27日

1997（平成9）年4月28日～
2003（平成15）年8月9日まで会長職



七代理事長
**金子　洋一**

1997（平成9）年4月28日～
2001（平成13）年6月16日



八代理事長
**塩出　諭**

2001（平成13）年6月16日～
2008（平成20）年6月17日



九代理事長
**髙田　豊則**

2008（平成20）年6月17日～
2013（平成25）年6月18日



十代理事長
**岡本　豊**

2013（平成25）年6月18日～
2016（平成28）年3月31日

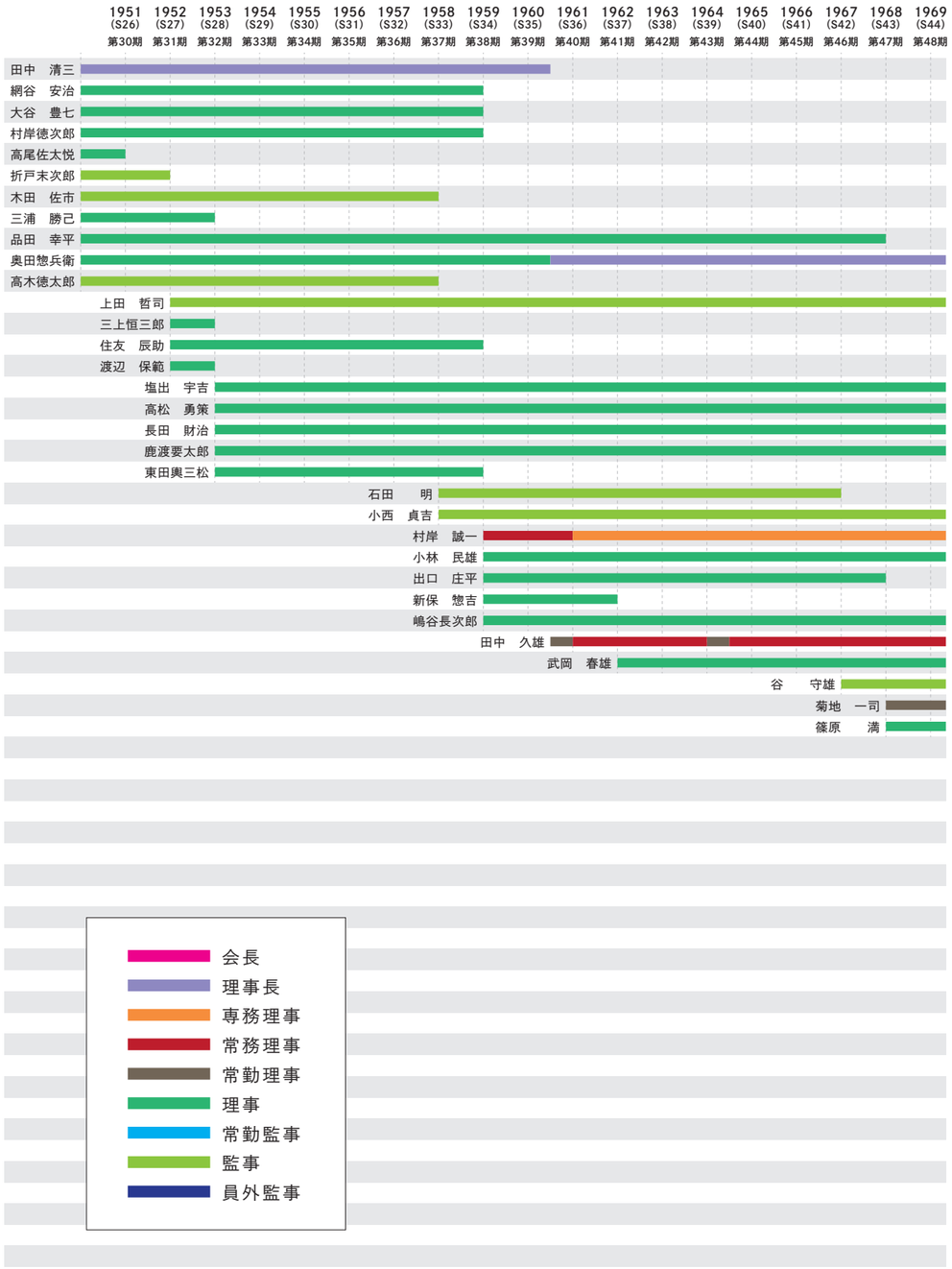


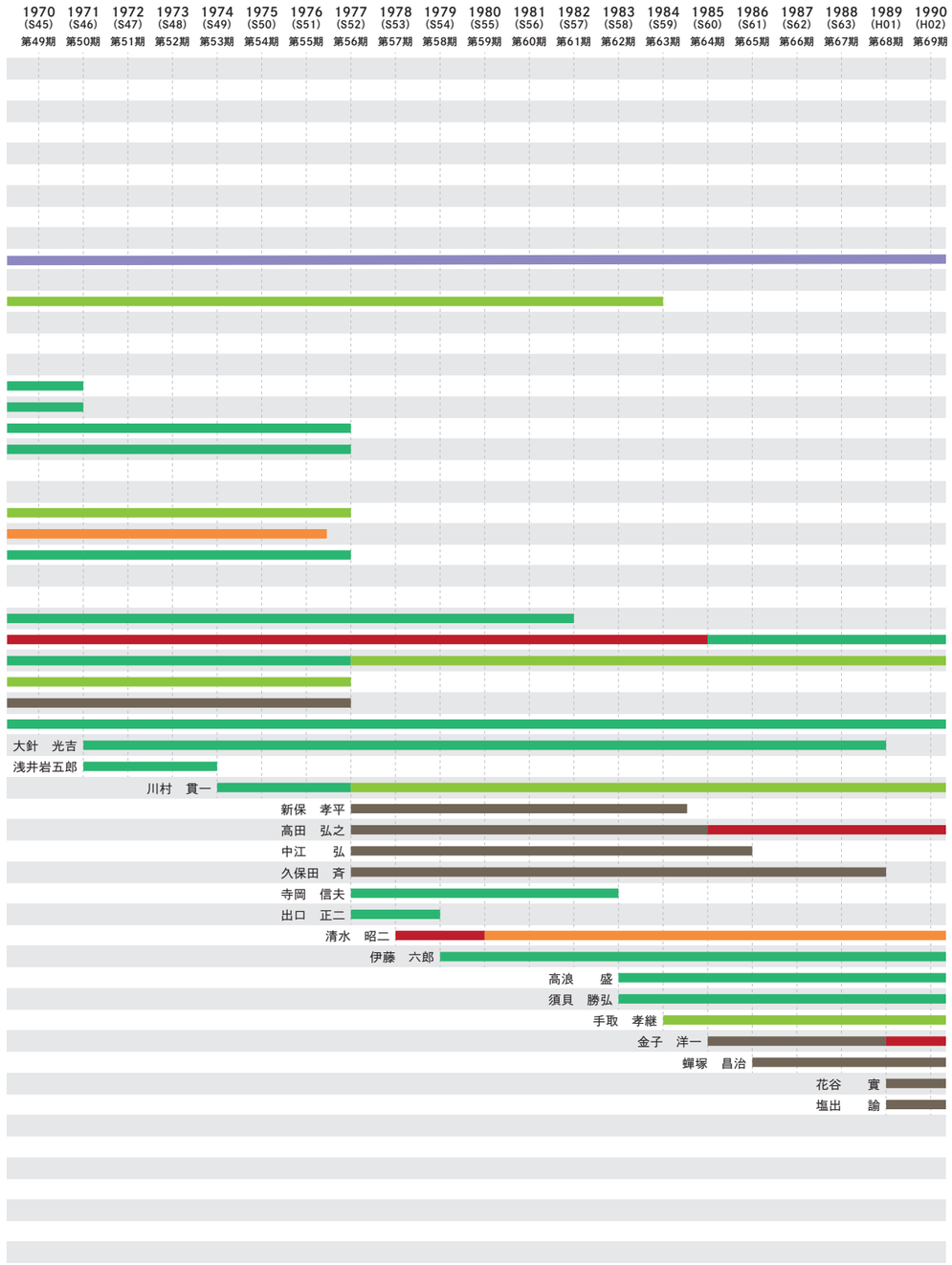
十一代理事長
**梶川　仁**

2016（平成28）年4月1日～
2016（平成28）年6月21日

# 役員任期一覧 (信用金庫法制定[1951(昭和26)年6月15日]以降)

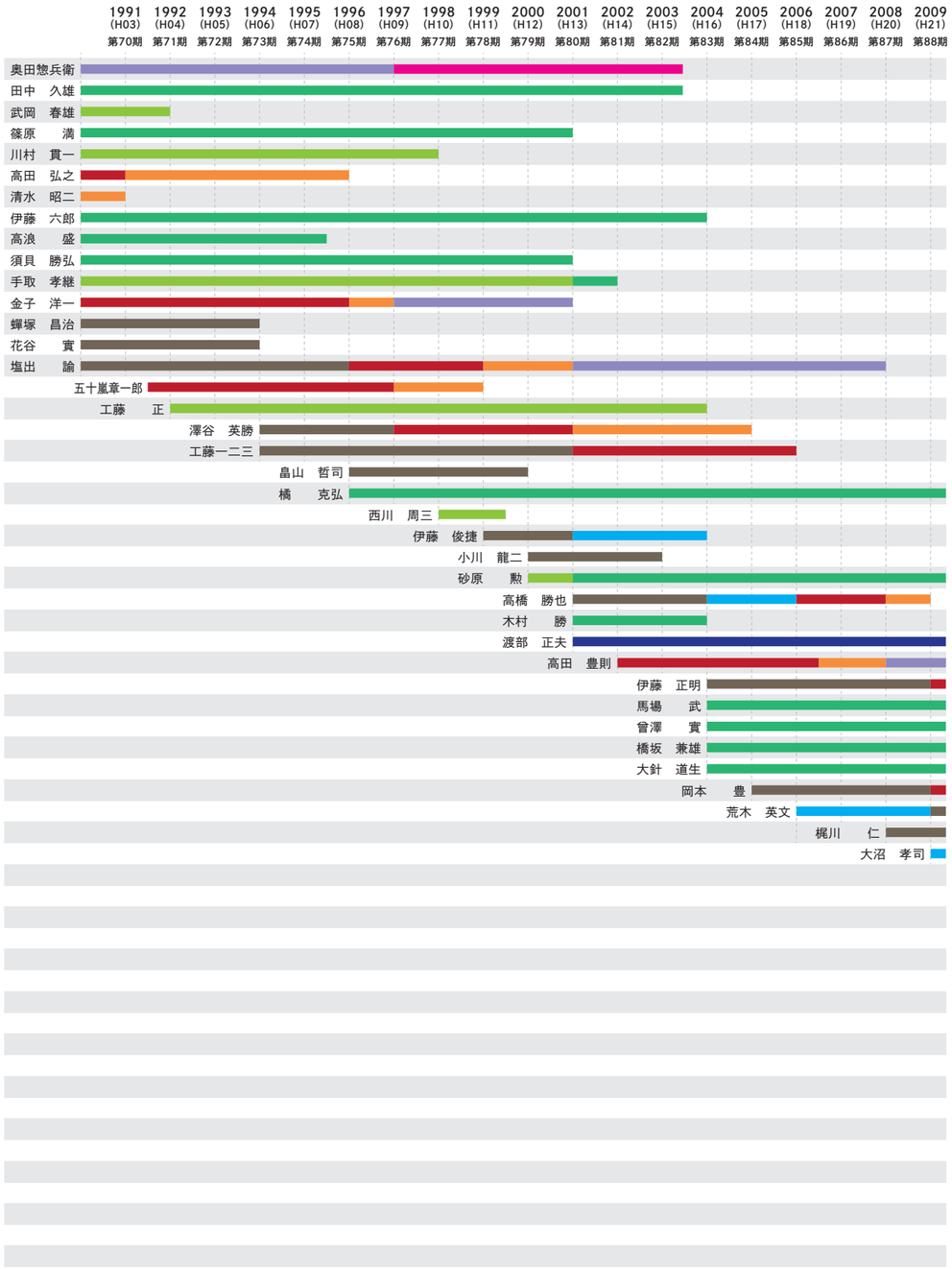
2022年3月31日現在

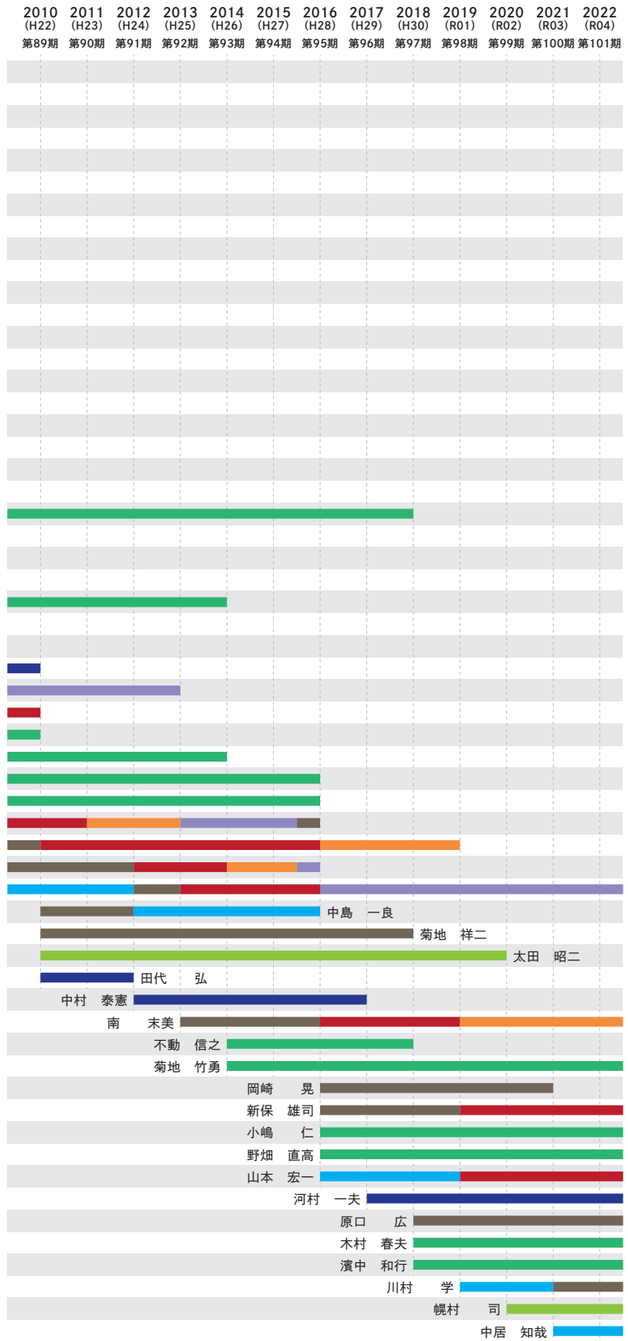


# 役員任期一覧

2022年3月31日現在



# 歴代総代任期一覧　1953(昭和28)年～2022(令和4)年

2022年3月31日現在

| 地区 | お名前 | 任期 |
|---|---|---|
| 浦河地区 | 木村　秀重 | 1953(昭和28)年～1959(昭和34)年 |
| | 若林仙次郎 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 木田　佐市 | 1953(昭和28)年～1953(昭和28)年 |
| | 大針　光吉 | 1953(昭和28)年～1971(昭和46)年 |
| | 島谷　三郎 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 浜田　亀蔵 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 金丸　岩雄 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 田中孝次郎 | 1953(昭和28)年～1971(昭和46)年 |
| | 三島　源蔵 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 内山　峰雄 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 網谷　安治 | 1953(昭和28)年～1953(昭和28)年 |
| | 山下久太郎 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 村岸徳次郎 | 1953(昭和28)年～1953(昭和28)年 |
| | 奈良　右蔵 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 梶田　政文 | 1953(昭和28)年～2001(平成13)年 |
| | 塚田　庄吉 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 小林　民雄 | 1953(昭和28)年～1959(昭和34)年 |
| | 沼　彦次郎 | 1953(昭和28)年～1986(昭和61)年 |
| | 上埜　角市 | 1953(昭和28)年～1968(昭和43)年 |
| | 荒井　滋 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 樫田与志郎 | 1953(昭和28)年～1959(昭和34)年 |
| | 早坂　繁治 | 1953(昭和28)年～1968(昭和43)年 |
| | 伊藤　利已 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 上田　哲司 | 1953(昭和28)年～1953(昭和28)年 |
| | 赤澤登美雄 | 1953(昭和28)年～1965(昭和40)年 |
| | 塚田　正吉 | 1953(昭和28)年～1965(昭和40)年 |
| | 三田村栄四郎 | 1953(昭和28)年～1962(昭和37)年 |
| | 岡崎　克郎 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 野畑　栄吉 | 1953(昭和28)年～1959(昭和34)年 |
| | 室谷　英男 | 1953(昭和28)年～1959(昭和34)年 |
| | 三浦　政一 | 1953(昭和28)年～1959(昭和34)年 |
| | 坪　正男 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 和田　柳雄 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 村井　義雄 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 田中鉄太郎 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 伏木田善作 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 小林　善吉 | 1953(昭和28)年～1959(昭和34)年 |
| | 小野寺勇一郎 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 玉澤藤太郎 | 1953(昭和28)年～1959(昭和34)年 |
| | 塩出　宇吉 | 1953(昭和28)年～1953(昭和28)年 |
| | 森　君一 | 1953(昭和28)年～1959(昭和34)年 |
| | | 1968(昭和43)年～1980(昭和55)年 |
| | 池添芳太郎 | 1953(昭和28)年～1976(昭和51)年 |
| | 三浦　勝巳 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 辻　志平 | 1956(昭和31)年～1971(昭和46)年 |
| | 石田　明 | 1956(昭和31)年～1959(昭和34)年 |
| | 高島末次郎 | 1956(昭和31)年～1959(昭和34)年 |
| | 城地　洋一 | 1956(昭和31)年～1968(昭和43)年 |
| | 三島　貞一 | 1956(昭和31)年～1959(昭和34)年 |
| | 折戸末次郎 | 1956(昭和31)年～1971(昭和46)年 |
| | 谷　守雄 | 1956(昭和31)年～1968(昭和43)年 |
| | 山崎　勇吉 | 1956(昭和31)年～1962(昭和37)年 |
| | 古市　一二 | 1956(昭和31)年～1971(昭和46)年 |
| | 平田　好一 | 1956(昭和31)年～1959(昭和34)年 |
| | 園　文雄 | 1956(昭和31)年～1976(昭和51)年 |
| | 中井伊太郎 | 1956(昭和31)年～1959(昭和34)年 |
| | 伏木田達男 | 1956(昭和31)年～2004(平成16)年 |
| | 松井松太郎 | 1956(昭和31)年～1965(昭和40)年 |
| | 広田　盛雄 | 1956(昭和31)年～1959(昭和34)年 |
| | 武中　初蔵 | 1959(昭和34)年～1962(昭和37)年 |
| | 中井　英策 | 1959(昭和34)年～1968(昭和43)年 |
| | 西口　吉郎 | 1959(昭和34)年～1962(昭和37)年 |
| | 塚田　勘一 | 1959(昭和34)年～1989(平成元)年 |
| | 朝倉　穂積 | 1959(昭和34)年～1962(昭和37)年 |
| | 山崎源一郎 | 1959(昭和34)年～2004(平成16)年 |
| | 田中　正二 | 1959(昭和34)年～1962(昭和37)年 |

| 地区 | お名前 | 任期 |
|---|---|---|
| 浦河地区 | 田口　政治 | 1959(昭和34)年～1980(昭和55)年 |
| | 高木　重安 | 1959(昭和34)年～1962(昭和37)年 |
| | 古森　健三 | 1959(昭和34)年～1994(平成 6)年 |
| | 金浜　武夫 | 1962(昭和37)年～1986(昭和61)年 |
| | 今野　正 | 1962(昭和37)年～1971(昭和46)年 |
| | 大石　康雄 | 1962(昭和37)年～1992(平成 4)年 |
| | 清水　恵 | 1962(昭和37)年～1965(昭和40)年 |
| | 葛野季一郎 | 1962(昭和37)年～1968(昭和43)年 |
| | 高杉　虎雄 | 1962(昭和37)年～1989(平成元)年 |
| | 武中　保雅 | 1965(昭和40)年～2005(平成17)年 |
| | 小野　義一 | 1968(昭和43)年～2004(平成16)年 |
| | 加藤　久太 | 1968(昭和43)年～1971(昭和46)年 |
| | 早坂勝太郎 | 1968(昭和43)年～1977(昭和52)年 |
| | 阿部　英昭 | 1968(昭和43)年～2007(平成19)年 |
| | 手取　孝継 | 1971(昭和46)年～1985(昭和60)年 |
| | 白濱　梅生 | 1971(昭和46)年～2004(平成16)年 |
| | 奥村　治弥 | 1971(昭和46)年～2004(平成16)年 |
| | 田中美希夫 | 1971(昭和46)年～2000(平成12)年 |
| | 網谷　敏夫 | 1971(昭和46)年～2007(平成19)年 |
| | 大野　幸一 | 1971(昭和46)年～2007(平成19)年 |
| | 品田　光男 | 1971(昭和46)年～1990(平成 2)年 |
| | 大井　春吉 | 1971(昭和46)年～2007(平成19)年 |
| | 船越谷英治 | 1971(昭和46)年～1998(平成10)年 |
| | 大森　幸男 | 1980(昭和55)年～2007(平成19)年 |
| | 三島　貞一 | 1986(昭和61)年～2001(平成13)年 |
| | 三上　政義 | 1986(昭和61)年～2004(平成16)年 |
| | 谷川弘一郎 | 1986(昭和61)年～1990(平成 2)年 |
| | 高杉　保廣 | 1989(平成元)年～2014(平成26)年 |
| | 大針　道生 | 1989(平成元)年～2004(平成16)年 |
| | 畠山　房雄 | 1992(平成 4)年～1997(平成 9)年 |
| | 笹地　政雄 | 1992(平成 4)年～2003(平成15)年 |
| | 奥田　利明 | 1992(平成 4)年～2002(平成14)年 |
| | 上埜　哲男 | 1998(平成10)年～ |
| | 小西　俊充 | 1998(平成10)年～2005(平成17)年 |
| | | 2014(平成26)年～ |
| | 三島　信男 | 2001(平成13)年～ |
| | 木下　富雄 | 2001(平成13)年～2007(平成19)年 |
| | 梶田　利明 | 2001(平成13)年～ |
| | 佐藤　尚志 | 2004(平成16)年～2018(平成30)年 |
| | 野畑　直高 | 2004(平成16)年～2016(平成28)年 |
| | 杉立　利一 | 2004(平成16)年～2014(平成26)年 |
| | 福井　州持 | 2004(平成16)年～2020(令和 2)年 |
| | 上田　正則 | 2004(平成16)年～ |
| | 奥田　宗夫 | 2004(平成16)年～2013(平成25)年 |
| | 工藤　一雄 | 2004(平成16)年～2010(平成22)年 |
| | 廣田　信義 | 2004(平成16)年～2010(平成22)年 |
| | 伏木田達之 | 2004(平成16)年～2016(平成28)年 |
| | 木下　浩一 | 2007(平成19)年～ |
| | 佐藤　興 | 2007(平成19)年～2018(平成30)年 |
| | 大野　好彦 | 2007(平成19)年～ |
| | 小林　正治 | 2007(平成19)年～2012(平成24)年 |
| | 小林　孝範 | 2007(平成19)年～ |
| | 赤澤　正三 | 2007(平成19)年～ |
| | 木田　尚孝 | 2007(平成19)年～ |
| | 橋本　茂雄 | 2007(平成19)年～ |
| | 秋山　靖典 | 2010(平成22)年～2020(令和 2)年 |
| | 大谷　仁 | 2010(平成22)年～ |
| | 久保　佳幸 | 2012(平成24)年～ |
| | 武田　豊 | 2014(平成26)年～ |
| | 甲谷　賢一 | 2014(平成26)年～ |
| | 工藤　一康 | 2016(平成28)年～ |
| | 谷川　智幸 | 2016(平成28)年～ |
| | 大針　光晴 | 2018(平成30)年～ |
| | 奥田宗一郎 | 2018(平成30)年～ |
| | 福井　秀一 | 2020(令和 2)年～ |

| 地区 | お名前 | 任期 |
|---|---|---|
| 静内地区 | 池田　春吉 | 1953(昭和28)年～1959(昭和34)年 |
| | 大谷熊二郎 | 1953(昭和28)年～1977(昭和52)年 |
| | 榎本　三喜 | 1953(昭和28)年～1959(昭和34)年 |
| | 加藤　春松 | 1953(昭和28)年～1986(昭和61)年 |
| | 藤原初太郎 | 1953(昭和28)年～1959(昭和34)年 |
| | 野坂稲四郎 | 1953(昭和28)年～1980(昭和55)年 |
| | 會澤芳之介 | 1956(昭和31)年～1993(平成 5)年 |
| | 賀集　喜平 | 1956(昭和31)年～1975(昭和50)年 |
| | 江原　洋 | 1956(昭和31)年～1965(昭和40)年 |
| | 高岡力三郎 | 1959(昭和34)年～1965(昭和40)年 |
| | 山川　基蔵 | 1959(昭和34)年～1968(昭和43)年 |
| | 高橋　広 | 1959(昭和34)年～1968(昭和43)年 |
| | 寺岡　信夫 | 1959(昭和34)年～1977(昭和52)年 |
| | 吉田　光男 | 1959(昭和34)年～2004(平成16)年 |
| | 北村　一生 | 1965(昭和40)年～1986(昭和61)年 |
| | 出口慶次郎 | 1965(昭和40)年～1977(昭和52)年 |
| | 伊藤　六郎 | 1968(昭和43)年～1980(昭和55)年 |
| | 土屋　喜一 | 1968(昭和43)年～2004(平成16)年 |
| | 不動　健治 | 1971(昭和46)年～2007(平成19)年 |
| | 藤原　謹一 | 1971(昭和46)年～1980(昭和55)年 |
| | 宮内　正一 | 1971(昭和46)年～1996(平成 8)年 |
| | 岡崎　一二 | 1977(昭和52)年～1983(昭和58)年 |
| | 賀集　健三 | 1977(昭和52)年～1994(平成 6)年 |
| | 須貝　勝弘 | 1977(昭和52)年～1983(昭和58)年 |
| | 藤沢　哲雄 | 1977(昭和52)年～2004(平成16)年 |
| | 斉藤五月男 | 1977(昭和52)年～2007(平成19)年 |
| | 山口　嘉雄 | 1977(昭和52)年～1989(平成元)年 |
| | 高橋　美実 | 1980(昭和55)年～1983(昭和58)年 |
| | 酒井　睦美 | 1980(昭和55)年～2007(平成19)年 |
| | 野坂　信 | 1980(昭和55)年～1992(平成 4)年 |
| | 出口勢津男 | 1983(昭和58)年～1994(平成 6)年 |
| | 寺岡　幹隆 | 1983(昭和58)年～1999(平成11)年 |
| | 西村　英夫 | 1983(昭和58)年～2000(平成12)年 |
| | 土井　広 | 1983(昭和58)年～2001(平成13)年 |
| | 武田　秀一 | 1986(昭和61)年～1991(平成 3)年 |
| | 加藤　彰 | 1986(昭和61)年～2000(平成12)年 |
| | 廣島　功 | 1989(平成元)年～2007(平成19)年 |
| | 武田　大助 | 1992(平成 4)年～2012(平成24)年 |
| | 野坂　洋治 | 1992(平成 4)年～2007(平成19)年 |
| | 二本柳重人 | 1995(平成 7)年～2016(平成28)年 |
| | 會澤　實 | 1995(平成 7)年～2004(平成16)年 |
| | 藤本　光好 | 1995(平成 7)年～2007(平成19)年 |
| | 山田　明 | 1995(平成 7)年～2010(平成22)年 |
| | 出口　博正 | 1998(平成10)年～ |
| | 北村　和也 | 2001(平成13)年～2010(平成22)年 |
| | 河原　秀幸 | 2001(平成13)年～ |
| | 中村　裕貴 | 2001(平成13)年～2014(平成26)年 |
| | 北所　直人 | 2001(平成13)年～2004(平成16)年 |
| | 村田　一郎 | 2004(平成16)年～2010(平成22)年 |
| | 木村　春夫 | 2004(平成16)年～2018(平成30)年 |
| | 畠山　重博 | 2004(平成16)年～2012(平成24)年 |
| | 不動　信之 | 2004(平成16)年～2014(平成26)年 |
| | 藤沢　一雄 | 2004(平成16)年～ |
| | 不動　新作 | 2007(平成19)年～ |
| | 土屋　祐喜 | 2007(平成19)年～ |
| | 落合　俊英 | 2007(平成19)年～ |
| | 平野井　裕 | 2007(平成19)年～ |
| | 長浜　和也 | 2007(平成19)年～ |
| | 近藤　忠義 | 2007(平成19)年～2018(平成30)年 |
| | 阿部　幸男 | 2010(平成22)年～ |
| | 村田　修 | 2010(平成22)年～ |
| | 大森　康正 | 2010(平成22)年～ |
| | 伊藤　淳子 | 2012(平成24)年～2014(平成26)年 |
| | 佐藤　雅裕 | 2012(平成24)年～ |
| | 河田　貢 | 2014(平成26)年～ |
| | 嵐　仁 | 2014(平成26)年～ |

| 地区 | お名前 | 任期 |
|---|---|---|
| 静内地区 | 植村　訓浩 | 2014(平成26)年～ |
| | 中村　泰徳 | 2016(平成28)年～ |
| | 不動雄一郎 | 2020(令和 2)年～ |
| 三石地区 | 高野　信好 | 1953(昭和28)年～1983(昭和58)年 |
| | 高島　軍治 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 出口　庄平 | 1953(昭和28)年～1959(昭和34)年 |
| | 小山田寛一 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 切石　伊平 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 松山　正雄 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 松原　一三 | 1956(昭和31)年～1965(昭和40)年 |
| | 篠原　満 | 1956(昭和31)年～1968(昭和43)年 |
| | 出口　正一 | 1956(昭和31)年～1974(昭和49)年 |
| | 東城　吾郎 | 1956(昭和31)年～1981(昭和56)年 |
| | 酒井　芳男 | 1956(昭和31)年～1983(昭和58)年 |
| | 木村　春吉 | 1959(昭和34)年～1965(昭和40)年 |
| | 石部　勝也 | 1959(昭和34)年～1998(平成10)年 |
| | 米田　正博 | 1962(昭和37)年～1974(昭和49)年 |
| | 坂部　亀市 | 1965(昭和40)年～1971(昭和46)年 |
| | 木村　勝 | 1965(昭和40)年～2001(平成13)年 |
| | 鳥井　勝 | 1965(昭和40)年～1977(昭和52)年 |
| | 橋本　常雄 | 1971(昭和46)年～1983(昭和58)年 |
| | 馬場　武 | 1971(昭和46)年～2004(平成16)年 |
| | 折手　弓男 | 1974(昭和49)年～2007(平成19)年 |
| | 米田　俊和 | 1974(昭和49)年～1980(昭和55)年 |
| | 小関　登 | 1977(昭和52)年～2001(平成13)年 |
| | 高野　久光 | 1983(昭和58)年～2016(平成28)年 |
| | 橋本　常晴 | 1983(昭和58)年～2010(平成22)年 |
| | 山田　信行 | 1983(昭和58)年～2010(平成22)年 |
| | 秋田仙四郎 | 1983(昭和58)年～2007(平成19)年 |
| | 太田　昭二 | 1998(平成10)年～2010(平成22)年 |
| | 酒井　秀男 | 2001(平成13)年～2010(平成22)年 |
| | 幌村　司 | 2001(平成13)年～2020(令和 2)年 |
| | 出口　弘史 | 2004(平成16)年～2020(令和 2)年 |
| | 上山　浩司 | 2007(平成19)年～2012(平成24)年 |
| | 八木　一洋 | 2007(平成19)年～ |
| | 橋本　誠治 | 2010(平成22)年～2020(令和 2)年 |
| | 馬場　陽介 | 2010(平成22)年～ |
| | 秋田　満 | 2010(平成22)年～ |
| | 中村　一重 | 2010(平成22)年～ |
| | 佐藤　利雄 | 2012(平成24)年～2014(平成26)年 |
| | 中村　大志 | 2014(平成26)年～ |
| | 田中　智也 | 2020(令和 2)年～ |
| | 中村　享一 | 2020(令和 2)年～ |
| | 山田　一郎 | 2020(令和 2)年～ |
| 様似地区 | 久野　宇一 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 新保　惣吉 | 1953(昭和28)年～1959(昭和34)年 |
| | 池田　芳男 | 1953(昭和28)年～1959(昭和34)年 |
| | 笹島　又吉 | 1953(昭和28)年～1959(昭和34)年 |
| | 小林　秀一 | 1953(昭和28)年～1975(昭和50)年 |
| | 田中　藤松 | 1953(昭和28)年～1959(昭和34)年 |
| | 池松　幸治 | 1953(昭和28)年～1986(昭和61)年 |
| | 加藤　幸作 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 東田興三松 | 1953(昭和28)年～1953(昭和28)年 |
| | 渡辺　清 | 1953(昭和28)年～1959(昭和34)年 |
| | 南　正三 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 勝平　鶴治 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 三上恒三郎 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 山中　勇蔵 | 1956(昭和31)年～1971(昭和46)年 |
| | 本郷安太郎 | 1956(昭和31)年～1965(昭和40)年 |
| | 武岡　春雄 | 1956(昭和31)年～1962(昭和37)年 |
| | 坂下　繁造 | 1956(昭和31)年～1986(昭和61)年 |
| | 工藤　正 | 1959(昭和34)年～1992(平成 4)年 |
| | 川瀬　清 | 1959(昭和34)年～1971(昭和46)年 |
| | 盛　外茂治 | 1959(昭和34)年～2007(平成19)年 |

# 歴代総代任期一覧　1953(昭和28)年～2022(令和4)年

2022年3月31日現在

| 地区 | お名前 | 任期 |
|---|---|---|
| 様似地区 | 佐々木幸四郎 | 1959(昭和34)年～1977(昭和52)年 |
| | 本郷　栄一 | 1971(昭和46)年～2010(平成22)年 |
| | 西村恭太郎 | 1971(昭和46)年～1980(昭和55)年 |
| | 酒井　明光 | 1971(昭和46)年～2004(平成16)年 |
| | 幕田　茂夫 | 1971(昭和46)年～2007(平成19)年 |
| | 高橋　初輝 | 1977(昭和52)年～2007(平成19)年 |
| | 中村　将敏 | 1977(昭和52)年～1993(平成 5)年 |
| | 伊藤　繁樹 | 1980(昭和55)年～2004(平成16)年 |
| | 南　　正 | 1980(昭和55)年～1992(平成 4)年 |
| | 盛　　哲三 | 1986(昭和61)年～2004(平成16)年 |
| | 池田　　淳 | 1986(昭和61)年～2007(平成19)年 |
| | 川内　　勲 | 1992(平成 4)年～1998(平成10)年 |
| | 南　　信 | 1992(平成 4)年～2007(平成19)年 |
| | 吉井　　貢 | 1995(平成 7)年～2007(平成19)年 |
| | 橋坂　兼雄 | 1998(平成10)年～2004(平成16)年 |
| | 工藤　　仁 | 2004(平成16)年～ |
| | 山本　康仁 | 2004(平成16)年～ |
| | 中村　　茂 | 2004(平成16)年～2014(平成26)年 |
| | 酒井　健二 | 2004(平成16)年～ |
| | 小嶋　　仁 | 2007(平成19)年～2016(平成28)年 |
| | 高橋　求幸 | 2007(平成19)年～ |
| | 仲野　貢司 | 2007(平成19)年～ |
| | 辻　　弘毅 | 2007(平成19)年～2016(平成28)年 |
| | 島田　一省 | 2007(平成19)年～ |
| | 池田　尚登 | 2007(平成19)年～2016(平成28)年 |
| | 田中　正之 | 2010(平成22)年～ |
| | 鳥井　信男 | 2016(平成28)年～ |
| | 中村　康則 | 2016(平成28)年～ |
| | 池田　博英 | 2016(平成28)年～ |
| えりも地区 | 菅沼　　一 | 1953(昭和28)年～1962(昭和37)年 |
| | 山本　清司 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 高松　勇策 | 1953(昭和28)年～1953(昭和28)年 |
| | 田中豊太郎 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 和田　貞吉 | 1953(昭和28)年～1971(昭和46)年 |
| | 小松　延技 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 小笠原安太郎 | 1953(昭和28)年～1953(昭和28)年 |
| | 金子　七郎 | 1953(昭和28)年～1977(昭和52)年 |
| | 渡邊　保範 | 1953(昭和28)年～1956(昭和31)年 |
| | 皆野川留次郎 | 1954(昭和29)年～1971(昭和46)年 |
| | 吉田　正治 | 1956(昭和31)年～1962(昭和37)年 |
| | 佐々木隆人 | 1956(昭和31)年～1959(昭和34)年 |
| | 浅井岩五郎 | 1956(昭和31)年～1971(昭和46)年 |
| | 横沢長太郎 | 1956(昭和31)年～1959(昭和34)年 |
| | 藤井　寅一 | 1956(昭和31)年～1974(昭和49)年 |
| | 工藤　兵治 | 1959(昭和34)年～1974(昭和49)年 |
| | 肥田鍋九郎 | 1959(昭和34)年～1971(昭和46)年 |
| | 吉田勘之助 | 1962(昭和37)年～1968(昭和43)年 |
| | 櫛田　道勇 | 1965(昭和40)年～1971(昭和46)年 |
| | 西川　周三 | 1968(昭和43)年～1998(平成10)年 |
| | 川村　貫一 | 1968(昭和43)年～1974(昭和49)年 |
| | 坂田　　達 | 1971(昭和46)年～1992(平成 4)年 |
| | 小金　昭一 | 1971(昭和46)年～2007(平成19)年 |
| | 山形　フミ | 1971(昭和46)年～1992(平成 4)年 |
| | 砂原　武士 | 1971(昭和46)年～1992(平成 4)年 |
| | 荻原　重照 | 1971(昭和46)年～2002(平成14)年 |
| | 白川　福雄 | 1971(昭和46)年～2004(平成16)年 |
| | 富越　誠也 | 1974(昭和49)年～2004(平成16)年 |
| | 成田　義武 | 1974(昭和49)年～1995(平成 7)年 |
| | 大坂　忠市 | 1974(昭和49)年～2007(平成19)年 |
| | 坂田　知也 | 1992(平成 4)年～2014(平成26)年 |
| | 山形　貞二 | 1992(平成 4)年～2007(平成19)年 |
| | 砂原　　勲 | 1992(平成 4)年～2000(平成12)年 |
| | 工藤　征二 | 1995(平成 7)年～2013(平成25)年 |
| | 荒木　義廣 | 1998(平成10)年～2016(平成28)年 |
| | 西川　一郎 | 2001(平成13)年～2016(平成28)年 |

| 地区 | お名前 | 任期 |
|---|---|---|
| えりも地区 | 菊地　竹勇 | 2004(平成16)年～2014(平成26)年 |
| | 金子　正昭 | 2004(平成16)年～2008(平成20)年 |
| | 白川　隆雄 | 2004(平成16)年～2006(平成18)年 |
| | 鈴木　昭人 | 2007(平成19)年～2012(平成24)年 |
| | 山内　重保 | 2007(平成19)年～2011(平成23)年 |
| | 大坂　庄吉 | 2007(平成19)年～ |
| | 佐藤　寿博 | 2007(平成19)年～2013(平成25)年 |
| | 白川千恵子 | 2010(平成22)年～2016(平成28)年 |
| | 三木田順治 | 2012(平成24)年～2020(令和 2)年 |
| | 坂田　　充 | 2014(平成26)年～ |
| | 犬山　康成 | 2014(平成26)年～2017(平成29)年 |
| | 山形　　弘 | 2014(平成26)年～ |
| | 匂坂　将史 | 2014(平成26)年～ |
| | 傳法　貴司 | 2016(平成28)年～ |
| | 砂原　孝敏 | 2016(平成28)年～ |
| | 大場　文裕 | 2016(平成28)年～ |
| | 川村　一治 | 2018(平成30)年～ |
| | 荒木　　穣 | 2020(令和 2)年～ |
| 広尾地区 | 高浪　庸弘 | 1959(昭和34)年～1965(昭和40)年 |
| | 中野　正勝 | 1959(昭和34)年～1994(平成 6)年 |
| | 本間　俊一 | 1959(昭和34)年～1980(昭和55)年 |
| | 藤田直四郎 | 1962(昭和37)年～1981(昭和56)年 |
| | 上野　秀一 | 1962(昭和37)年～1981(昭和56)年 |
| | 高浪　　盛 | 1965(昭和40)年～1983(昭和58)年 |
| | 村上　幸夫 | 1965(昭和40)年～1990(平成 2)年 |
| | 東館勇太郎 | 1965(昭和40)年～1989(平成元)年 |
| | 畑下　　茂 | 1968(昭和43)年～1977(昭和52)年 |
| | 下沢　力蔵 | 1971(昭和46)年～1980(昭和55)年 |
| | 渡邊　富雄 | 1977(昭和52)年～2004(平成16)年 |
| | 服部　裕四 | 1977(昭和52)年～2010(平成22)年 |
| | 河合　龍夫 | 1977(昭和52)年～2007(平成19)年 |
| | 武田　　孝 | 1980(昭和55)年～2010(平成22)年 |
| | 元野　貞男 | 1980(昭和55)年～1995(平成 7)年 |
| | 今村　昌幸 | 1980(昭和55)年～2003(平成15)年 |
| | 堀田　　豊 | 1983(昭和58)年～2012(平成24)年 |
| | 北藤　信通 | 1983(昭和58)年～2004(平成16)年 |
| | 橘　　克弘 | 1983(昭和58)年～1996(平成 8)年 |
| | 村上　正篤 | 1992(平成 4)年～2010(平成22)年 |
| | 石井　嘉穂 | 1995(平成 7)年～2010(平成22)年 |
| | 石山　泰三 | 1995(平成 7)年～2016(平成28)年 |
| | 菊池　修一 | 1998(平成10)年～2004(平成16)年 |
| | 高坂　光則 | 2004(平成16)年～ |
| | 濱中　和行 | 2004(平成16)年～2018(平成30)年 |
| | 二口　　繁 | 2004(平成16)年～ |
| | 津端　国男 | 2004(平成16)年～2012(平成24)年 |
| | 山本　　満 | 2007(平成19)年～ |
| | 斉藤　政明 | 2010(平成22)年～2018(平成30)年 |
| | 近藤　史和 | 2010(平成22)年～ |
| | 鏑木　眞清 | 2010(平成22)年～ |
| | 中川　貢範 | 2010(平成22)年～ |
| | 亀田　卓司 | 2012(平成24)年～ |
| | 尾矢　利昭 | 2014(平成26)年～ |
| | 石山　　拓 | 2016(平成28)年～ |
| | 惣田　政宏 | 2018(平成30)年～ |
| | 堀田　　真 | 2018(平成30)年～ |
| 札幌地区 | 守屋　信恵 | 2012(平成24)年～ |
| | 山口　志郎 | 2014(平成26)年～ |
| | 遠藤さとみ | 2016(平成28)年～ |
| | 小室　雄次 | 2018(平成30)年～ |
| | 細田　行洋 | 2020(令和 2)年～ |



# 地区別総代

2022年3月31日現在

| 地区 | お名前 |
|---|---|
| 浦河地区 | 上埜　哲男 |
| | 梶田　利明 |
| | 三島　信男 |
| | 上田　正則 |
| | 赤澤　正三 |
| | 橋本　茂雄 |
| | 大野　好彦 |
| | 小林　孝範 |
| | 木田　尚孝 |
| | 木下　浩一 |
| | 大谷　　仁 |
| | 久保　佳幸 |
| | 小西　俊充 |
| | 武田　　豊 |
| | 甲谷　賢一 |
| | 工藤　一康 |
| | 谷川　智幸 |
| | 大針　光晴 |
| | 奥田宗一郎 |
| | 福井　秀一 |

| 地区 | お名前 |
|---|---|
| 三石地区 | 八木　一洋 |
| | 中村　一重 |
| | 秋田　　満 |
| | 馬場　陽介 |
| | 中村　大志 |
| | 田中　智也 |
| | 山田　一郎 |
| | 中村　亨一 |

| 地区 | お名前 |
|---|---|
| 様似地区 | 工藤　　仁 |
| | 酒井　健二 |
| | 山本　康仁 |
| | 島田　一省 |
| | 高橋　求幸 |
| | 仲野　貢司 |
| | 田中　正之 |
| | 鳥井　信男 |
| | 池田　博英 |
| | 中村　康則 |

| 地区 | お名前 |
|---|---|
| 広尾地区 | 高坂　光則 |
| | 二口　　繁 |
| | 山本　　満 |
| | 鏑木　眞清 |
| | 中川　貢範 |
| | 近藤　史和 |
| | 亀田　卓司 |
| | 尾矢　利昭 |
| | 石山　　拓 |
| | 惣田　政宏 |
| | 堀田　　真 |

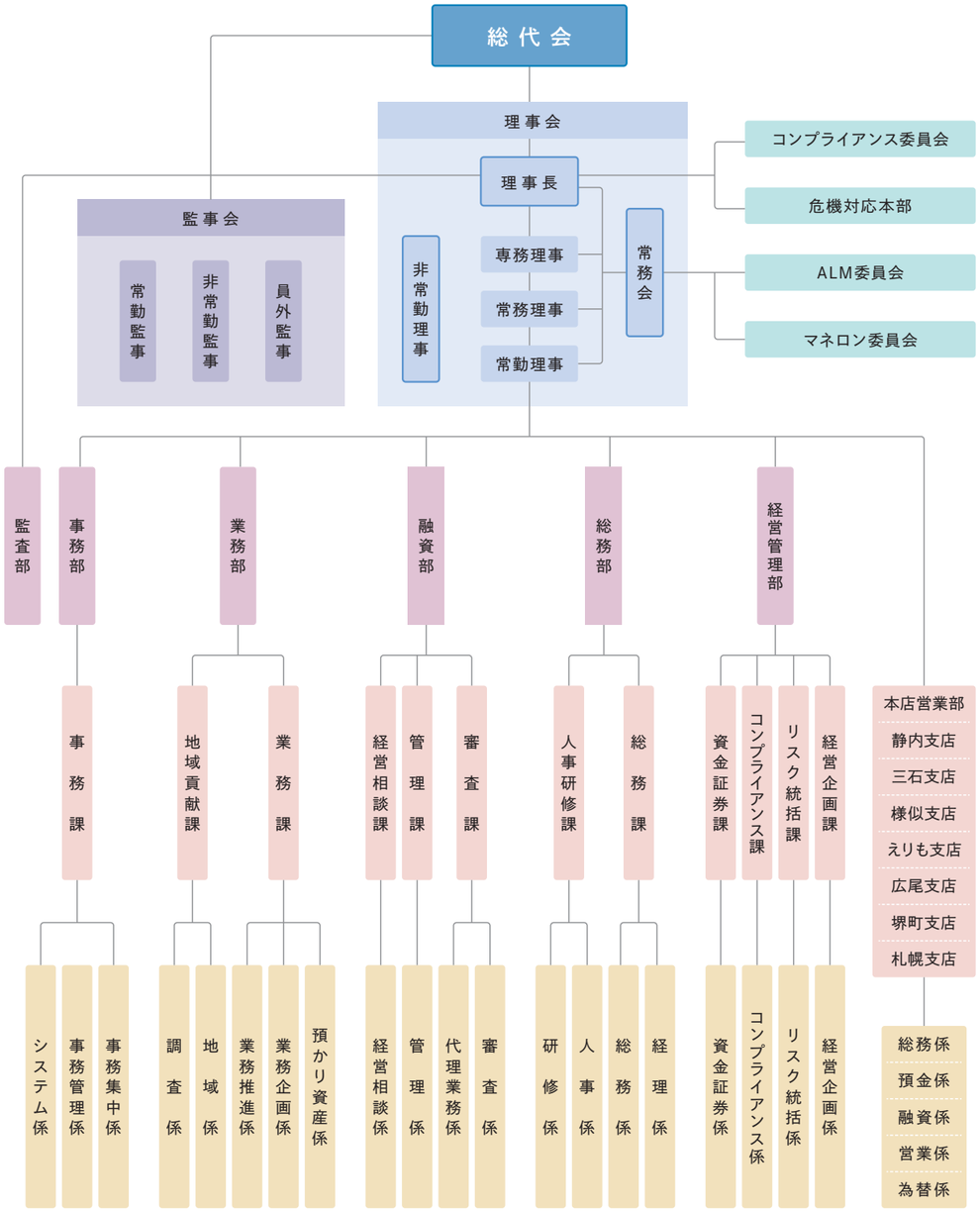
| 地区 | お名前 |
|---|---|
| 静内地区 | 出口　博正 |
| | 河原　秀幸 |
| | 藤沢　一雄 |
| | 落合　俊英 |
| | 長浜　和也 |
| | 平野井　裕 |
| | 土屋　祐喜 |
| | 不動　新作 |
| | 阿部　幸男 |
| | 大森　康正 |
| | 村田　　修 |
| | 佐藤　雅裕 |
| | 河田　　貢 |
| | 嵐　　仁 |
| | 植村　訓浩 |
| | 中村　泰徳 |
| | 不動雄一郎 |

| 地区 | お名前 |
|---|---|
| えりも地区 | 大坂　庄吉 |
| | 匂坂　将史 |
| | 坂田　　充 |
| | 山形　　弘 |
| | 傳法　貴司 |
| | 砂原　孝敏 |
| | 大場　文裕 |
| | 川村　一治 |
| | 荒木　　穣 |

| 地区 | お名前 |
|---|---|
| 札幌地区 | 守屋　信恵 |
| | 山口　志郎 |
| | 遠藤さとみ |
| | 小室　雄次 |
| | 細田　行洋 |

# 組　織　図

2023年3月31日現在






# 地　区・店　舗

2023年3月31日現在

皆さまとの
コミュニケーションの場です。




**インターネット窓口**
日高信用金庫
ホームページアドレス
http://www.shinkin.co.jp/hidaka/

## 店舗一覧とATMの営業時間

貸：貸金庫設置　夜：夜間金庫設置

| 店舗名 | 住所 | 電話番号 | 平日 | 土曜日 | 日曜日 | 祝日 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 本店営業部 | 〒057-0013 浦河郡浦河町大通2丁目31番地の2 貸 | (0146)22-4111 | 8:45～18:00 | 9:00～17:00 | 9:00～17:00 | 9:00～17:00 |
| 2 堺町支店 | 〒057-0034 浦河郡浦河町堺町西1丁目83番59号 夜 | (0146)22-5611 | 8:45～18:00 | 9:00～17:00 | — | — |
| 3 静内支店 | 〒056-0016 日高郡新ひだか町静内本町1丁目1番15号 貸夜 | (0146)42-1531 | 8:45～18:00 | 9:00～17:00 | 9:00～17:00 | 9:00～17:00 |
| 4 三石支店 | 〒059-3108 日高郡新ひだか町三石本町197番地23 貸 | (0146)33-2311 | 8:45～18:00 | 9:00～17:00 | — | — |
| 5 様似支店 | 〒058-0014 様似郡様似町大通2丁目35番地2 貸 | (0146)36-2341 | 8:45～18:00 | 9:00～17:00 | — | — |
| 6 えりも支店 | 〒058-0204 幌泉郡えりも町字本町170番地1 | (01466)2-2311 | 8:45～18:00 | 9:00～17:00 | — | — |
| 7 広尾支店 | 〒089-2615 広尾郡広尾町本通8丁目7番地の1 | (01558)2-3161 | 8:45～18:00 | 9:00～17:00 | — | — |
| 8 札幌支店 | 〒060-0004 札幌市中央区北4条西5丁目1番地4 | (011)200-7070 | — | — | — | — |

※広尾支店はお昼休みとして11：30～12：30に窓口を閉鎖しております。

## 店外ATM設置場所

| 名称 | 住所 | 平日 | 土曜日 | 日曜日 | 祝日 |
|---|---|---|---|---|---|
| 浦河町役場内 | 浦河郡浦河町築地1丁目3番1号 | 9:00～16:00 | — | — | — |
| 浦河赤十字病院内 | 浦河郡浦河町東町ちのみ1丁目2番1号 | 9:00～18:00 | — | — | — |
| 浦河町パセオ堺町店内 | 浦河郡浦河町堺町東6丁目493 | 9:00～19:00 | 9:00～19:00 | 9:00～19:00 | 9:00～19:00 |
| マックスバリュ静内店内 | 日高郡新ひだか町静内木場町1丁目1－69 | 9:00～19:00 | 9:00～19:00 | 9:00～19:00 | 9:00～19:00 |
| 日高徳洲会病院内 | 日高郡新ひだか町静内こうせい町1丁目10番27号 | 9:00～18:00 | 9:00～17:00 | — | — |

**視覚に障がいをお持ちの方に配慮した「ハンドセット付ATM」の設置について**

当金庫の全てのATMは、視覚に障がいのある方でも操作が可能な「ハンドセット付ATM」となっております。（なお、札幌支店はATMを設置しておりません。）

**［ ハンドセット付ATMとは ］**

プッシュボタン付受話器（電話機と同一のボタン配列となっているハンドセット）から、音声ガイダンスにより操作手順をご案内するATMです。なお、ハンドセットを使用しない場合は、通常のATMとしてご利用いただけます。

2022年3月31日現在

## 本店営業部



［本店営業部長］　川村　学
［本店営業部副部長］　佐々木啓人
［部長代理］　窪田　広幸

［部長代理］　細川　知男
［主任］　池田　敏彦

藤村　美咲
小野寺未夢
大下　弘晃

古川　壮太
成田　円香
船越谷　萌

福沢こころ
木村　勇人
苫米地　薫

### 店舗開設日

1921（大正10）年
4月13日

### 現住所

浦河郡浦河町
大通2丁目31番地の2

### 歴代部店長

| 発令日 | 氏　名 |
|---|---|
| 1966（昭和41）年 | 村岸　誠一 |
| 1974（昭和49）年 | 新保　孝平 |
| 1977（昭和52）年 | 花谷　實 |
| 1980（昭和55）年 | 金子　洋一 |
| 1983（昭和58）年 | 久保田　斉 |
| 1985（昭和60）年 | 蟬塚　昌治 |
| 1991（平成3）年 | 花谷　實 |
| 1994（平成6）年 | 澤谷　英勝 |
| 1996（平成8）年 | 小川　龍二 |
| 2001（平成13）年 | 高橋　勝也 |
| 2003（平成15）年 | 伊藤　正明 |
| 2009（平成21）年 | 荒木　英文 |
| 2013（平成25）年 | 南　未美 |
| 2015（平成27）年 | 菊地　祥二 |
| 2016（平成28）年 | 原口　広 |
| 2017（平成29）年 | 川村　学 |
| 2019（令和元）年 | 中居　知哉 |
| 2020（令和2）年 | 林　美英 |
| 2021（令和3）年 | 川村　学 |



## 静内支店



［支店長］　渡辺　亮
［副支店長］　遠藤　美樹
［支店長代理］　佐々木尚志

［主任］　伊藤　宏将
［主任］　早坂　史弥

伊藤　晴彦
中田寿々音
佐藤　寿音

吉田　杏海
旭　樹梨
平野　颯

坂内　真由
白川　佳太
花田　唯

笹野　章

### 店舗開設日

1952（昭和27）年
8月22日

### 現住所

日高郡新ひだか町
静内本町1丁目1番15号

### 歴代部店長

| 発令日 | 氏　名 |
|---|---|
| 1966（昭和41）年 | 花谷　實 |
| 1971（昭和46）年 | 藤原　聡一 |
| 1974（昭和49）年 | 金子　洋一 |
| 1975（昭和50）年 | 中江　弘 |
| 1977（昭和52）年 | 塩出　諭 |
| 1979（昭和54）年 | 久保田　斉 |
| 1983（昭和58）年 | 澤谷　英勝 |
| 1986（昭和61）年 | 橋本　武 |
| 1990（平成2）年 | 小川　龍二 |
| 1993（平成5）年 | 宮本　正司 |
| 1996（平成8）年 | 高橋　勝也 |
| 1998（平成10）年 | 堺　恒彦 |
| 2001（平成13）年 | 伊藤　正明 |
| 2003（平成15）年 | 岡本　豊 |
| 2007（平成19）年 | 菊地　祥二 |
| 2013（平成25）年 | 秋山　晋也 |
| 2015（平成27）年 | 川村　学 |
| 2017（平成29）年 | 早坂　重光 |
| 2019（令和元）年 | 渡辺　亮 |

2022年3月31日現在

## 三石支店



［支店長］　伊藤　寛広　　木島しずか　　下山奈津実
［支店長代理］　大山　寛幸　　平賀　美咲　　東川麻由子
［支店長代理］　村上　郁美　　松本　侑大　　菅藤　琴

**店舗開設日**

1953（昭和28）年
4月20日

**現住所**

日高郡新ひだか町
三石本町197番地23

**歴代部店長**

| 発令日 | 氏　名 |
|---|---|
| 1966（昭和41）年 | 中江　弘 |
| 1967（昭和42）年 | 久保田　斉 |
| 1971（昭和46）年 | 金子　洋一 |
| 1974（昭和49）年 | 猿倉　正昭 |
| 1977（昭和52）年 | 市川　真一 |
| 1980（昭和55）年 | 粕谷　幸男 |
| 1982（昭和57）年 | 畠山　哲司 |
| 1984（昭和59）年 | 橋本　武 |
| 1986（昭和61）年 | 中江　寛 |
| 1989（平成元）年 | 高橋　勝也 |
| 1992（平成4）年 | 菜畑　晃悦 |
| 1994（平成6）年 | 板本　秀勝 |
| 1996（平成8）年 | 池田　敏文 |
| 1998（平成10）年 | 岡本　豊 |
| 2001（平成13）年 | 山口　志郎 |
| 2003（平成15）年 | 谷本　修 |
| 2007（平成19）年 | 風張　達也 |
| 2009（平成21）年 | 佐久間　進 |
| 2013（平成25）年 | 川村　学 |
| 2015（平成27）年 | 富澤　悟 |
| 2017（平成29）年 | 川村　佳弘 |
| 2019（令和元）年 | 山村　浩樹 |
| 2021（令和3）年 | 伊藤　寛広 |



## 様似支店



［支店長］　楫川　正浩　　畑田紫緒里　　梅津　悠斗　　成田　睦美
［支店長代理］　伊藤　貴樹　　上田　佳輝　　髙松　将大
［支店長代理］　村中　友幸　　於本　涼音　　田中　則男

**店舗開設日**

1950（昭和25）年
9月5日

**現住所**

様似郡様似町
大通2丁目35番地2

**歴代部店長**

| 発令日 | 氏　名 |
|---|---|
| 1966（昭和41）年 | 藤原　聡一 |
| 1967（昭和42）年 | 中江　弘 |
| 1971（昭和46）年 | 久保田　斉 |
| 1975（昭和50）年 | 花谷　實 |
| 1977（昭和52）年 | 渡部　正夫 |
| 1979（昭和54）年 | 中江　弘 |
| 1982（昭和57）年 | 花谷　實 |
| 1986（昭和61）年 | 新松　隆 |
| 1987（昭和62）年 | 鈴木　宏昭 |
| 1990（平成2）年 | 宮本　正司 |
| 1993（平成5）年 | 伊藤　正明 |
| 1995（平成7）年 | 池田　芳徳 |
| 1997（平成9）年 | 村本　悦剛 |
| 2000（平成12）年 | 荒木　英文 |
| 2001（平成13）年 | 梶川　仁 |
| 2003（平成15）年 | 南　未美 |
| 2007（平成19）年 | 佐久間　進 |
| 2009（平成21）年 | 阿部　邦彦 |
| 2011（平成23）年 | 秋山　晋也 |
| 2013（平成25）年 | 風張　達也 |
| 2015（平成27）年 | 中居　知哉 |
| 2017（平成29）年 | 木村　浩二 |
| 2020（令和2）年 | 山田　一也 |
| 2021（令和3）年 | 楫川　正浩 |

2022年3月31日現在

## えりも支店



［支店長］　扇谷　芳憲　　遠間　翔太　　西野　貴美
［支店長代理］千葉　章博　　若泉　洸飛　　田内理佳子
［支店長代理］西端麻由希　　小山内めぐみ　　木村のぞみ

**店舗開設日**

1952（昭和27）年
7月5日

**現住所**

幌泉郡えりも町字本町
170番地1

**歴代部店長**

| 発令日 | 氏　名 |
|---|---|
| 【幌泉支店】 | |
| 1966（昭和41）年 | 久保田　斉 |
| 1967（昭和42）年 | 金子　洋一 |
| 【えりも支店】 | |
| 1971（昭和46）年 | 蝉塚　昌治 |
| 1975（昭和50）年 | 壇上　義典 |
| 1977（昭和52）年 | 粕谷　幸男 |
| 1980（昭和55）年 | 市川　真一 |
| 1983（昭和58）年 | 猿倉　正昭 |
| 1984（昭和59）年 | 新松　　隆 |
| 1986（昭和61）年 | 田代　　弘 |
| 1989（平成元）年 | 伊藤　俊捷 |
| 1991（平成3）年 | 古江　政昭 |
| 1994（平成6）年 | 村下　雅義 |
| 1996（平成8）年 | 板本　秀勝 |
| 1998（平成10）年 | 山口　志郎 |
| 2000（平成12）年 | 村本　悦剛 |
| 2001（平成13）年 | 池田　敏文 |
| 2003（平成15）年 | 岡崎　　晃 |
| 2006（平成18）年 | 秋山　晋也 |
| 2008（平成20）年 | 坂口　智幸 |
| 2011（平成23）年 | 長田　　久 |
| 2014（平成26）年 | 中居　知哉 |
| 2015（平成27）年 | 樨川　正浩 |
| 2017（平成29）年 | 小田　竜司 |
| 2022（令和4）年 | 扇谷　芳憲 |

## 広尾支店



［支店長］　山村　浩樹　　［主任］西川　智也　　菊地　奨悟　　岩田　龍星
［支店長代理］大坪　弘征　　［主任］中田　結花　　木戸　啓太　　宮下　久美
久保田悠暉　　佐藤　　景

**店舗開設日**

1958（昭和33）年
5月1日

**現住所**

広尾郡広尾町
本通8丁目7番地の1

**歴代部店長**

| 発令日 | 氏　名 |
|---|---|
| 1966（昭和41）年 | 新保　孝平 |
| 1967（昭和42）年 | 藤原　聡一 |
| 1971（昭和46）年 | 花谷　　實 |
| 1975（昭和50）年 | 久保田　斉 |
| 1977（昭和52）年 | 橋本　　武 |
| 1979（昭和54）年 | 新保　孝平 |
| 1983（昭和58）年 | 金子　洋一 |
| 1985（昭和60）年 | 伊藤　俊捷 |
| 1989（平成元）年 | 中江　　寛 |
| 1991（平成3）年 | 市川　真一 |
| 1993（平成5）年 | 新松　　隆 |
| 1995（平成7）年 | 堺　　恒彦 |
| 1998（平成10）年 | 伊藤　正明 |
| 2001（平成13）年 | 岡本　　豊 |
| 2003（平成15）年 | 梶川　　仁 |
| 2006（平成18）年 | 岡崎　　晃 |
| 2009（平成21）年 | 風張　達也 |
| 2013（平成25）年 | 本田　政勝 |
| 2015（平成27）年 | 早坂　重光 |
| 2017（平成29）年 | 樨川　正浩 |
| 2019（令和元）年 | 齊藤　裕一 |
| 2021（令和3）年 | 山村　浩樹 |

2022年3月31日現在

## 堺町支店



［支店長］　齊藤　裕一　　清水　祐子　　髙倉　玲奈
［支店長代理］渡辺　雄也　　村上　博紀　　守谷　将冶
［主任］　西　昭彦　　玉澤　有美　　安田　遥

**店舗開設日**

1982（昭和57）年
9月20日

**現住所**

浦河郡浦河町堺町
西1丁目83番59号

**歴代部店長**

| 発令日 | 氏　名 |
|---|---|
| 1982（昭和57）年 | 蝉塚　昌治 |
| 1985（昭和60）年 | 粕谷　幸男 |
| 1987（昭和62）年 | 小川　龍二 |
| 1990（平成2）年 | 菜畑　晃悦 |
| 1991（平成3）年 | 村下　雅義 |
| 1994（平成6）年 | 鈴木　宏昭 |
| 1995（平成7）年 | 伊藤　正明 |
| 1998（平成10）年 | 高橋　勝也 |
| 2001（平成13）年 | 堺　恒彦 |
| 2004（平成16）年 | 菊地　祥二 |
| 2007（平成19）年 | 谷本　修 |
| 2008（平成20）年 | 秋山　晋也 |
| 2011（平成23）年 | 木村　浩二 |
| 2014（平成26）年 | 早坂　重光 |
| 2015（平成27）年 | 山村　浩樹 |
| 2019（令和元）年 | 山田　一也 |
| 2020（令和2）年 | 木村　浩二 |
| 2021（令和3）年 | 齊藤　裕一 |



## 札幌支店



［支店長］　沖田　淳也　　［支店長代理］大津いつみ　　住野谷岳史　　工藤　侑菜
［支店長代理］熊谷　真吾　　［主任］　三浦　省吾　　川上　翔平
［支店長代理］工藤　伸　　［主任］　常見　三佳　　秋山　咲綺

**店舗開設日**

2007（平成19）年
9月10日

**現住所**

札幌市中央区
北4条西5丁目1番地4
大樹生命札幌共同ビル4F

**歴代部店長**

| 発令日 | 氏　名 |
|---|---|
| 2007（平成19）年 | 梶川　仁 |
| 2009（平成21）年 | 新保　雄司 |
| 2015（平成27）年 | 林　美英 |
| 2020（令和2）年 | 沖田　淳也 |

# 本部紹介

2022年3月31日現在

## 経営管理部



［経営管理部長］ 原口　広
［リスク統括課長 兼 コンプライアンス課長］ 坂森　元哉
［経営企画課長 兼 資金証券課長］ 川村　貴光
［経営企画課主任 兼 リスク統括課主任］ 中川　雅之
西　悠
浅野　貴広
向井　遼

## 総務部



［総務部長］ 山本　宏一
［総務部副部長］ 長田　久
［総務課長 兼 人事研修課長］ 宮崎　寿春
［総務課長代理 兼 人事研修課長代理］ 古川　綾貴
［総務課主任］ 板垣　達児
［総務課主任］ 神山　大輔
川瀬　千咲
村下由香理
佐藤　健司
山本　梓
中村　幸生
髙橋かおり
菊地　靖子



## 融資部



［融資部長］（執行役員） 林　美英
［経営相談課長］ 小田　竜司
［審査課長 兼 管理課長］ 田外　晃博
［審査課長代理］ 川合　志麻
［管理課長代理］ 明井　隆二
［経営相談課長代理］ 柴崎　宏治
須藤　紗彩
池田　武仁
本田　政勝

## 業務部



［業務部長］ 新保　雄司
［業務課長］ 山田　一也
［地域貢献課長代理］ 早坂　重光
［業務課主任］ 石原　彩香
［業務課主任］ 板橋聖由美
伊藤　華子
風張　達也

# 本部紹介

2022年3月31日現在

## 事務部



［事務部長］ 新保　雄司
［事務課長］（事務集中・システム担当） 近藤　隆範
［事務課長］（事務管理担当） 長崎　英一
［事務課長代理］ 長岡　克則
［事務課長代理］ 阿部　邦彦
［事務課主任］ 浜谷　文恵
［事務課主任］ 大島　淳一
［事務課主任］ 清水　亮
土屋　拓弥
種本　徳子

## 監査部



［監査部長］ 南　末美
［監査役］ 木村　浩二
［監査役］ 富澤　悟
［監査部長代理］ 神山　里志



# 廃止店舗

2022年3月31日現在

## 歌笛支店（歌笛出張所）



店舗開設日
1961（昭和36）年11月28日

店舗廃止日
2007（平成19）年7月6日

### 歴代店長

| 発令日 | 氏　名 |
|---|---|
| （歌笛出張所） | |
| 1966（昭和41）年 | 壇上　義典 |
| 1972（昭和47）年 | 猿倉　正昭 |
| 1974（昭和49）年 | 渡部　正夫 |
| 1977（昭和52）年 | 畠山　哲司 |
| 1979（昭和54）年 | 古江　政昭 |
| 1982（昭和57）年 | 杉本　正 |
| 1984（昭和59）年 | 畠山　哲司 |
| 1985（昭和60）年 | 鈴木　宏昭 |
| 1986（昭和61）年 | 設楽　学 |
| 1989（平成元）年 | 池田　芳徳 |
| （歌笛支店） | |
| 1992（平成4）年 | 池田　芳徳 |
| 1993（平成5）年 | 山口　志郎 |
| 1995（平成7）年 | 村本　悦剛 |
| 1997（平成9）年 | 石山　雄三 |
| 2000（平成12）年 | 谷本　修 |

## 山手支店

2010（平成22）年8月　静内支店と統合により廃止



店舗開設日
1980（昭和55）年11月12日

店舗廃止日
2010（平成22）年8月6日

### 歴代店長

| 発令日 | 氏　名 |
|---|---|
| 1980（昭和55）年 | 澤谷　英勝 |
| 1983（昭和58）年 | 市川　真一 |
| 1988（昭和63）年 | 宮本　正司 |
| 1990（平成2）年 | 新松　隆 |
| 1993（平成5）年 | 池田　芳徳 |
| 1995（平成7）年 | 山口　志郎 |
| 1998（平成10）年 | 荒木　英文 |
| 2000（平成12）年 | 石山　雄三 |
| 2004（平成16）年 | 秋山　晋也 |
| 2006（平成18）年 | 風張　達也 |
| 2007（平成19）年 | 菊地　祥二 |

## 大通支店

2010（平成22）年8月　様似支店と統合により廃止



店舗開設日
1984（昭和59）年10月15日

店舗廃止日
2010（平成22）年8月6日

### 歴代店長

| 発令日 | 氏　名 |
|---|---|
| 1984（昭和59）年 | 田代　弘 |
| 1986（昭和61）年 | 花谷　實 |
| 1987（昭和62）年 | 菜畑　晃悦 |
| 1990（平成2）年 | 橋本　武 |
| 1993（平成5）年 | 小川　龍二 |
| 1995（平成7）年 | 宮本　正司 |
| 1998（平成10）年 | 池田　敏文 |
| 2001（平成13）年 | 荒木　英文 |
| 2003（平成15）年 | 菊地　祥二 |
| 2004（平成16）年 | 南　末美 |
| 2007（平成19）年 | 佐久間　進 |
| 2009（平成21）年 | 阿部　邦彦 |

# カレンダーの変遷

1971-1981

## 1971



## 1972



## 1973



## 1974



## 1975



## 1976



## 1978



## 1979



## 1980



## 1981



# カレンダーの変遷

1982-1991

## 1982



## 1983




## 1984




## 1985




## 1986




## 1987



## 1988



## 1989



## 1990



## 1991



# カレンダーの変遷

1992-2004

## 1992




## 1994




## 1996




## 1997




## 1999




## 2000




## 2001




## 2002




## 2003




## 2004



# カレンダーの変遷

2005-2014

## 2005




## 2006




## 2007




## 2008



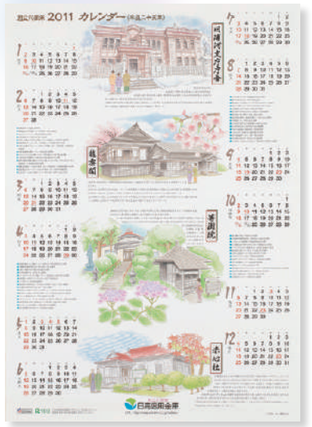
## 2009



## 2010



## 2011



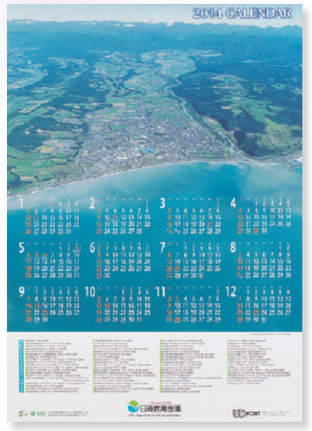
## 2012




## 2013




## 2014



# カレンダーの変遷

2015-2023

## 2015




## 2016




## 2017




## 2018




## 2019




## 2020




## 2021




## 2022




## 2023



# 商品の変遷

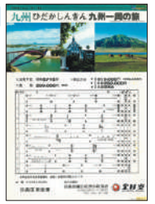
1935（昭和10）年　定額貯金の取扱開始
1937（昭和12）年　国防愛国護国貯金取扱開始
1949（昭和24）年　割増金付定期積立金取扱開始
1957（昭和32）年　第1回観光積立「洞爺湖湖水祭観光旅行」
1963（昭和38）年　損害保険代理店兼業認可
1970（昭和45）年　当管内で初めて本店営業部で貸金庫業務取扱開始
1971（昭和46）年　「1年6ヵ月定期預金」取扱開始
1973（昭和48）年　「2年定期預金」取扱開始
1980（昭和55）年　2年定期預金キャンペーン　1
1980（昭和55）年　創立60周年記念キャンペーン開始
1980（昭和55）年　初のネーミング預金「招運だるま定期積金」を発売　2
1981（昭和56）年　ありがとう感謝の60周年キャンペーン展開
1981（昭和56）年　新型期日指定定期預金取扱開始　3
1982（昭和57）年　観光積立「九州一周の旅」　4
1983（昭和58）年　新型積立定期預金「トライ・レディース」を発売
1983（昭和58）年　証券業務・国債窓口販売開始
1984（昭和59）年　教育ローンキャンペーン　5
1984（昭和59）年　日高しんきん年金友の会発足
1985（昭和60）年　「市場金利連動型預金」取扱開始
1986（昭和61）年　「自由金利型定期預金」取扱開始
1986（昭和61）年　「ひだかカードローン・コスモス」取扱開始
1987（昭和62）年　静専・日高しんきん提携ローン「バラエティローン」等取扱開始
1987（昭和62）年　「ひだかしんきん保険ローン」取扱開始
1987（昭和62）年　「カーライフプラン」取扱開始
1989（平成 元）年　教育ローンキャンペーン　6
1989（平成 元）年　カーライフプランキャンペーン　7
1989（平成 元）年　市場金利連動型定期預金（スーパーMMC）取扱開始
1990（平成 2）年　「事業者カードローン」取扱開始　8
1990（平成 2）年　「ひだかしんきん年金保険料ローン」取扱開始
1990（平成 2）年　「全国キャッシュサービス（MICS）」取扱開始
1991（平成 3）年　あなたのためにローンいろいろキャンペーン　9
1991（平成 3）年　「日高しんきん事業用車輌ローン」取扱開始　10
1991（平成 3）年　創立70周年記念定期積金「ステップ」を販売
1991（平成 3）年　両替業務取扱開始
1992（平成 4）年　「市場金利連動型定期積金（スーパー定期）」の取扱開始　11
1992（平成 4）年　貯蓄預金（40万円型、20万円型）の取扱開始
1992（平成 4）年　ひだかしんきん定期性総合口座の取扱開始
1993（平成 5）年　「変動金利貸出金」の取扱開始
1993（平成 5）年　「ひだかしんきんリフォームローン」取扱開始　12
1993（平成 5）年　「変動金利定期預金」取扱開始
1994（平成 6）年　特別金利優遇キャンペーン（教育ローン・カーライフプラン）　13
1994（平成 6）年　日高しんきん地域活性ふれ愛融資　14
1995（平成 7）年　「阪神復興スーパー定期預金」取扱開始
1995（平成 7）年　特別金利優遇キャンペーン「カーライフプラン」　15
1996（平成 8）年　年金受給者向け優遇商品「ふれ愛定期預金」取扱開始
1996（平成 8）年　特別金利優遇キャンペーン「カーライフプラン」　16
1997（平成 9）年　各カード会社との現金自動預入支払機等による「キャッシングサービス」取扱開始
1997（平成 9）年　国道236号開通記念ネーミング定期積金「天馬街道」取扱開始　17
1999（平成11）年　ランのオリジナルマグカップ「カーライフプラン」　18
1999（平成11）年　ひだかしんきんサマーキャンペーン　19
2000（平成12）年　2000年ミレニアム特別プレゼント「カーライフプラン」　20
2000（平成12）年　デビットカードサービス取扱開始　21
2000（平成12）年　テレホンバンキングサービス開始
2000（平成12）年　納税準備預金「納太郎（おさめたろう）」取扱開始
2000（平成12）年　秋のわくわくキャンペーン「カーライフプラン」　22
2001（平成13）年　特別金利優遇キャンペーン「カーライフプラン」　23
2001（平成13）年　スポーツ振興くじ（サッカーくじ）の払戻し業務開始
2001（平成13）年　モバイルバンキングサービス開始
2001（平成13）年　創立80周年記念懸賞金付きスーパー定期預金わくわく　24
2001（平成13）年　創立80周年記念特別金利優遇キャンペーン「カーライフプラン」　25
2001（平成13）年　保険窓販業務取扱開始
2002（平成14）年　生命保険窓販業務取扱開始
2003（平成15）年　「ひだかカードローンしんきん・きゃっする」取扱開始
2003（平成15）年　事業者向け融資「コレ、つかって」取扱開始
2004（平成16）年　「ひだかしんきんアパートローン」取扱開始
2004（平成16）年　「しんきんビジネス・マッチングサービス」取扱開始
2004（平成16）年　日高しんきん事業資金融資「サポート2004」取扱開始
2004（平成16）年　決済用普通預金取扱開始
2005（平成17）年　日高しんきん事業資金融資「サポート融資」取扱開始
2005（平成17）年　日高しんきん商工会議所・商工会メンバーズ「VIPローン」取扱開始
2006（平成18）年　WEBバンキングサービス取扱開始
2006（平成18）年　「オリコ・マイカーローン」取扱開始
2007（平成19）年　「ひだかしんきん固定金利特約型ハウスローン」取扱開始
2007（平成19）年　札幌支店オープン記念特別金利キャンペーン　26
2008（平成20）年　年金受給者向け優遇商品「ふれ愛定期預金」　27
2008（平成20）年　消費者ローン「ひだかしんきんリピートプラン」取扱開始
2008（平成20）年　カーライフキャンペーン　28
2008（平成20）年　札幌支店開設1周年記念キャンペーン　29
2008（平成20）年　第三分野保険商品（がん・医療保険）取扱開始
2009（平成21）年　「しんきん携帯電話電子マネーチャージサービス」・「ネットロ座振替受付サービス」取扱開始
2009（平成21）年　投資信託業務取扱開始
2009（平成21）年　標準傷害保険「しんきんの傷害保険」発売開始
2010（平成22）年　「日高信金プレ90周年記念定期預金」発売
2011（平成23）年　「東北地方太平洋沖地震災害復興特別融資」取扱開始
2011（平成23）年　全国保証㈱住宅ローン保証制度の取扱開始
2011（平成23）年　日高しんきん創立90周年記念 傷害保険付定期積金（フラット型）発売
2011（平成23）年　創立90周年記念第12回懸賞金付定期預金「NEW!スーパーチャンス」発売
2011（平成23）年　観光積立「ひだかしんきん創立90周年記念旅行-思い出作りの旅-」　30
2013（平成25）年　電子記録債権（でんさいサービス）取扱開始
2014（平成26）年　ひだかしんきん健康サポート預金取扱開始
2015（平成27）年　空き家サポートローン取扱開始
2016（平成28）年　「アポイ岳ユネスコ世界ジオパーク応援定期預金」取扱開始
2016（平成28）年　ひだかしんきんカードローン「Newきゃっする500」取扱開始
2017（平成29）年　ひだかしんきんフリーローン「アクア」取扱開始
2017（平成29）年　「ひだかしんきん職域サポートローン」取扱開始
2019（平成31）年　退職金専用定期預金「YOU悠セカンドライフ」取扱開始
2019（令和 元）年　「後見制度支援預金」取扱開始
2019（令和 元）年　ひだかしんきん通帳アプリ取扱開始
2021（令和 3）年　ひだかしんきん創立100周年記念旅行預金発売「ひゃくだびin沖縄」
2021（令和 3）年　ひだかしんきん職域フリーローン取扱開始
2022（令和 4）年　ひだかしんきん農業支援ローン「ファームアシスト」取扱開始
2022（令和 4）年　ひだかしんきん農業支援ローン「ファームサポート」取扱開始



1


2


3



4



5



6



7



8


9



10


11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



24



25



26



27



28



29



30

# 商品広告の変遷

## 融資広告



























## 預金広告










## 店舗広告













## その他広告














▲ 80周年記念 懸賞金付定期預金
わくわく抽選会の様子

# システム導入変遷

2022年3月31日現在

## 1960

1960(昭和35)年 11月24日 「NCR42号普通預金会計機」本店営業部に導入
1962(昭和37)年 5月19日 「フリーデン電動計算機」本店営業部に導入
1963(昭和38)年 11月14日 「NCR42号普通預金会計機」静内支店に導入
1965(昭和40)年 11月16日 「NCR42号普通預金会計機」様似支店に導入
1966(昭和41)年 3月15日 「NCR42号普通預金会計機」広尾支店に導入
1967(昭和42)年 5月23日 「NCR42号普通預金会計機」三石支店、幌泉支店に導入
11月 6日 「NCR32号当座預金専用会計機」本店営業部に導入

## 1970

1971(昭和46)年 5月31日 「為替用テレファックス」本部に2台導入
11月 9日 「NCR41号ブルーフマシン」本店営業部に導入
1972(昭和47)年 11月24日 「NCR446号ビリングマシン」本部に導入、総勘定日計表作成開始
1973(昭和48)年 4月13日 「NCR32号当座預金専用会計機」広尾支店に導入
1974(昭和49)年 6月19日 「NCR32号当座預金専用会計機」静内支店、様似支店に導入
1975(昭和50)年 3月27日 「NCR207号普通預金会計機」えりも支店に導入
10月20日 北海道信金共同事務センター加盟による、本店営業部普通預金オンライン稼働
10月23日 「NCR32号当座預金専用会計機」えりも支店に導入
1976(昭和51)年 3月 1日 電子計算機「日立8150型」コンピュータ導入によるオフラインスタート
3月31日 「為替用テレファックス」本部、本店営業部、広尾支店に導入
7月12日 静内支店、広尾支店、普通預金オンライン稼働
10月18日 全国信金為替オンライン稼働
12月27日 「為替用テレファックス」様似支店に導入
1977(昭和52)年 3月 1日 定期預金オフライン化実施
6月13日 様似支店、えりも支店、普通預金オンライン稼働
8月27日 「為替用テレファックス」えりも支店に導入
11月 8日 「為替用テレファックス」三石支店に導入
1978(昭和53)年 3月 1日 定期積金、オフライン化実施
6月12日 三石支店、普通預金オンライン稼働
7月21日 「為替用テレファックス」静内支店に導入
1979(昭和54)年 2月13日 全銀為替システムと信金為替システムでドッキング稼働
3月 1日 融資三科目、オフライン稼働
12月 新バッチマシン「L−340」稼働(設置日:S54.11搬入)

## 1980

1981(昭和56)年 10月21日 北海道信金共同事務センター新総合オンラインシステムに移行
12月 1日 現金自動預金払出機(ATM)本店営業部に導入
1983(昭和58)年 1月10日 別段預金オンライン開始
1月10日 歌笛出張所オンライン開始
1月17日 本支店為替オンライン開始
2月 4日 CIF−KF(顧客情報)オンライン開始
2月14日 定期性預金オンライン開始
3月 7日 積立定期預金オンライン開始
3月 7日 通知預金オンライン開始
3月14日 現金自動預金払出機(ATM)静内支店に導入
8月 8日 融資三科目オンライン開始
11月24日 現金自動預金払出機(ATM)広尾支店に導入
1985(昭和60)年 2月18日 出資金オンライン開始
3月18日 現金自動預金払出機(ATM)堺町支店に導入
9月28日 新電算システムとして、日立L470電算機にレベルアップ
11月25日 現金自動預金払出機(ATM)三石支店に導入
1986(昭和61)年 1月27日 店舗外現金自動設備として、浦河町役場に「現金自動預金払出機(ATM)」を設置
2月 1日 日計表オンライン開始
7月30日 現金自動預金払出機(ATM)えりも支店に導入
1987(昭和62)年 11月12日 店舗外現金自動設備として、総合病院浦河赤十字病院に「現金自動預金払出機(ATM)」を設置
1988(昭和63)年 10月11日 第三次オンライン稼働
12月26日 全店にテレファックス設置

## 1990

1989(平成元)年 2月 4日 本店営業部土曜休日のATM稼働
2月 6日 全店の窓口第一線完結処理システム(ADDS、ADDシステム)設置
3月18日 全店にワープロ設置
7月 3日 地域オンライン提携業務の取扱開始
12月30日 えりも支店、広尾支店、土曜休日のATM稼働
1990(平成2)年 3月17日 大通支店、土曜休日のATM稼働
7月 2日 現金自動預金払出機(ATM)山手支店に導入
7月 2日 全国キャッシュサービス(MICS)の取扱開始

## 昔懐かしい機器たち



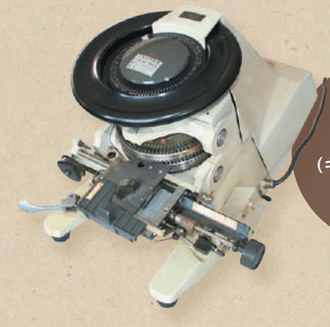
為替用
テレファックス
(本部受信端末)



為替用
テレファックス
(受信専用端末)



日立L-340用
ハードディスク
(データモジュール)



カード
エンボッサー
(キャッシュカード
の刻印機)

# システム導入変遷

2022年3月31日現在

## 2000

1990（平成２）年　9月22日　三石支店、土曜休日のATM稼働
12月　1日　新バッチマシン「M－630」稼働（設置日：H2.8.19搬入）
1995（平成７）年　9月　日英両語で画面操作できるバイリンガル機能を搭載したATMを道内金融機関で初めて導入
1997（平成９）年　6月　1日　えりも支店、ATM新機種に入替
6月　9日　ポスト第三次オンラインシステム新端末機設置（ポスト第三次オン稼働）
1998（平成10）年　3月24日　日赤病院内ATMコーナー改装及び新機種に入替、稼働時間午後6時迄延長
12月　8日　静内支店ATM硬貨入出金機能付新機種に入替
1999（平成11）年　1月25日　（株）ヒダカファイナンスへATM開放開始
2月　8日　西暦2000年問題対策委員会発足
2月22日　ファームバンキングサービスの取扱時間延長と休日稼働を開始
4月　3日　ATM 土曜日稼働時間を午後5時迄延長
4月　4日　ATM 日・祝日稼働開始（本店営業部、静内支店）
11月　8日　為替集中システム運用開始
2000（平成12）年　3月　6日　デビットカードサービス取扱開始
4月　3日　テレホンバンキングサービス開始
4月28日　道内信用金庫ATM顧客手数料の無料化実施に参加
5月15日　郵貯ATMとの相互接続開始
12月　4日　全国信用金庫ATM顧客手数料の無料化実施に参加
2001（平成13）年　4月16日　モバイルバンキングサービス取扱開始
9月　3日　苫小牧日商連クレジットへATM開放開始
2002（平成14）年　9月　2日　コンピュータシステムを汎用機からPCサーバーへ入替
12月20日　パセオ堺町店内に店舗外ATM設置
2003（平成15）年　7月10日　マックスバリュ静内店内に店舗外ATM設置
2004（平成16）年　6月14日　アイワイバンク銀行（現セブン銀行）とATM提携
2006（平成18）年　2月10日　WEBバンキング取扱開始
4月　3日　様似支店のサテライト化実施
2009（平成21）年　2月　2日　「しんきん携帯電子マネーチャージサービス」および「ネット口座振替受付サービス」取扱開始
7月13日　為替集中システムスキャナー移行
9月　1日　共通印鑑制度導入

## 2010

2010（平成22）年　5月　1日　預金口座振替依頼書イメージ登録システム導入
2011（平成23）年　3月22日　視覚障がい者対応ハンドセット付ATM導入
4月　1日　融資統合システム本稼働
10月20日　しんきん共同センターハード集約
2012（平成24）年　3月31日　歌笛出張所ATM稼働終了
7月23日　本人確認関係書類のイメージ登録開始
11月　1日　ICキャッシュカード取扱開始
2013（平成25）年　2月　4日　しんきん電子記録債権サービス取扱開始
2014（平成26）年　1月27日　堺町支店、静内支店にリモート現金管理システム導入
9月　1日　注意情報（反社等）管理システム導入
2015（平成27）年　3月15日　視覚障がい者対応ハンドセット付ATMを全てのATMで導入
3月15日　浦河日赤病院、様似支店、えりも支店、広尾支店ATM入替
2016（平成28）年　2月14日　広尾支店に現金バス導入
2017（平成29）年　2月　6日　イオン銀行とのATM相互入金業務提携開始
3月27日　札幌支店以外の全店に現金バス導入
2018（平成30）年　4月　1日　ATMジャーナル集中保管システム導入
5月17日　テレビ会議システム導入
8月20日　相続支援システム運用開始
10月　1日　営業支援システム導入
11月27日　札幌支店にオープン出納システムWAVEC32導入
2019（令和元）年　6月　1日　決算書リーディングシステム導入
11月　1日　ひだかしんきん通帳アプリの取扱開始

## 2020

2020（令和２）年　5月　1日　支出書管理システム運用開始
6月　1日　電子稟議システム（X－point）運用開始
2021（令和３）年 10月　3日　金庫LANの無線化実施
12月13日　契約書作成支援システム運用開始



出納印字機



加算機



ワープロ（ディスクトップ型）



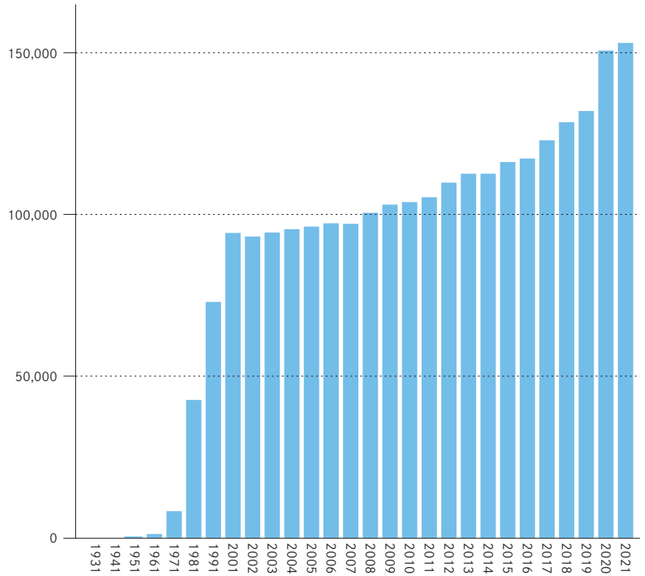
ワープロ（ノート型）

# 業 況 の 推 移

2022年3月31日現在

## 預金積金の推移

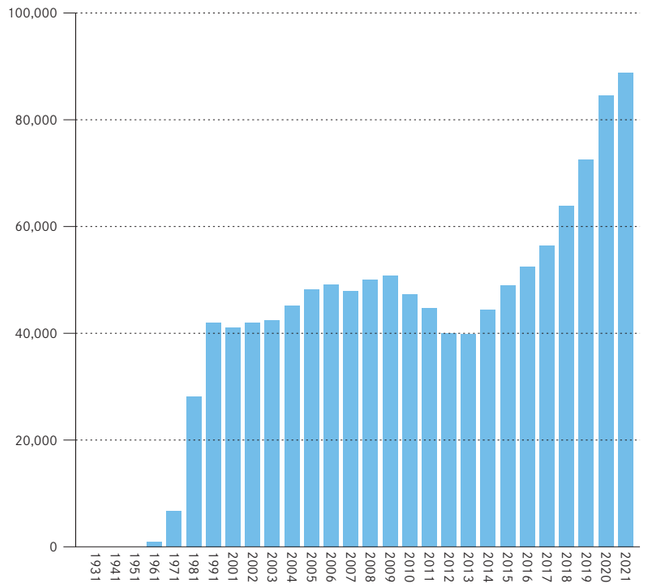
（単位：百万円）




| | |
|---|---|
| 1931年度（昭和6年12月期）第10期 | 40 千円 |
| 1941年度（昭和16年12月期）第20期 | 344 千円 |
| 1951年度（昭和27年3月期）第30期 | 61 |
| 1961年度（昭和37年3月期）第40期 | 1,312 |
| 1971年度（昭和47年3月期）第50期 | 8,379 |
| 1981年度（昭和57年3月期）第60期 | 42,761 |
| 1991年度（平成4年3月期） 第70期 | 73,067 |
| 2001年度（平成14年3月期）第80期 | 94,386 |
| 2002年度（平成15年3月期）第81期 | 93,286 |
| 2003年度（平成16年3月期）第82期 | 94,526 |
| 2004年度（平成17年3月期）第83期 | 95,554 |
| 2005年度（平成18年3月期）第84期 | 96,346 |
| 2006年度（平成19年3月期）第85期 | 97,369 |
| 2007年度（平成20年3月期）第86期 | 97,224 |
| 2008年度（平成21年3月期）第87期 | 100,637 |
| 2009年度（平成22年3月期）第88期 | 103,151 |
| 2010年度（平成23年3月期）第89期 | 103,932 |
| 2011年度（平成24年3月期）第90期 | 105,433 |
| 2012年度（平成25年3月期）第91期 | 109,939 |
| 2013年度（平成26年3月期）第92期 | 112,689 |
| 2014年度（平成27年3月期）第93期 | 112,696 |
| 2015年度（平成28年3月期）第94期 | 116,316 |
| 2016年度（平成29年3月期）第95期 | 117,396 |
| 2017年度（平成30年3月期）第96期 | 123,022 |
| 2018年度（平成31年3月期）第97期 | 128,612 |
| 2019年度（令和2年3月期） 第98期 | 132,088 |
| 2020年度（令和3年3月期） 第99期 | 150,778 |
| 2021年度（令和4年3月期）第100期 | 153,131 |

## 貸出金の推移

（単位：百万円）




| | |
|---|---|
| 1931年度（昭和6年12月期）第10期 | 44 千円 |
| 1941年度（昭和16年12月期）第20期 | 94 千円 |
| 1951年度（昭和27年3月期）第30期 | 40 |
| 1961年度（昭和37年3月期）第40期 | 999 |
| 1971年度（昭和47年3月期）第50期 | 6,642 |
| 1981年度（昭和57年3月期）第60期 | 28,195 |
| 1991年度（平成4年3月期） 第70期 | 42,041 |
| 2001年度（平成14年3月期）第80期 | 41,027 |
| 2002年度（平成15年3月期）第81期 | 41,915 |
| 2003年度（平成16年3月期）第82期 | 42,463 |
| 2004年度（平成17年3月期）第83期 | 45,236 |
| 2005年度（平成18年3月期）第84期 | 48,265 |
| 2006年度（平成19年3月期）第85期 | 49,164 |
| 2007年度（平成20年3月期）第86期 | 47,896 |
| 2008年度（平成21年3月期）第87期 | 50,103 |
| 2009年度（平成22年3月期）第88期 | 50,739 |
| 2010年度（平成23年3月期）第89期 | 47,258 |
| 2011年度（平成24年3月期）第90期 | 44,653 |
| 2012年度（平成25年3月期）第91期 | 39,936 |
| 2013年度（平成26年3月期）第92期 | 39,917 |
| 2014年度（平成27年3月期）第93期 | 44,391 |
| 2015年度（平成28年3月期）第94期 | 49,039 |
| 2016年度（平成29年3月期）第95期 | 52,462 |
| 2017年度（平成30年3月期）第96期 | 56,453 |
| 2018年度（平成31年3月期）第97期 | 63,898 |
| 2019年度（令和2年3月期） 第98期 | 72,502 |
| 2020年度（令和3年3月期） 第99期 | 84,583 |
| 2021年度（令和4年3月期）第100期 | 88,861 |

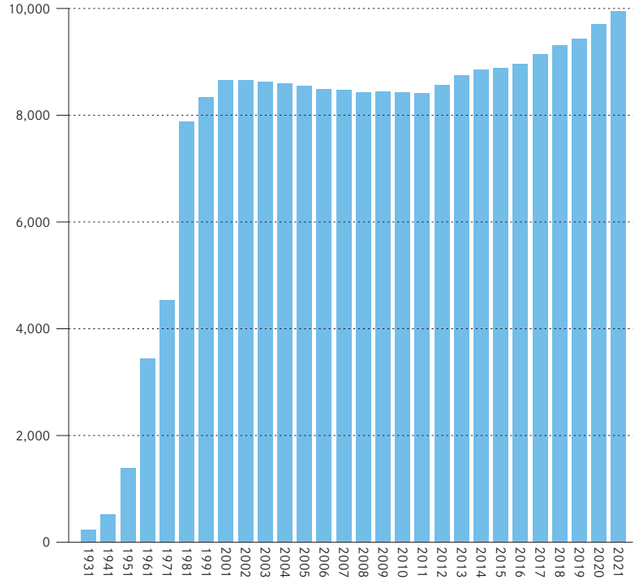


業 況 の 推 移

2022年3月31日現在

## 会員数の推移

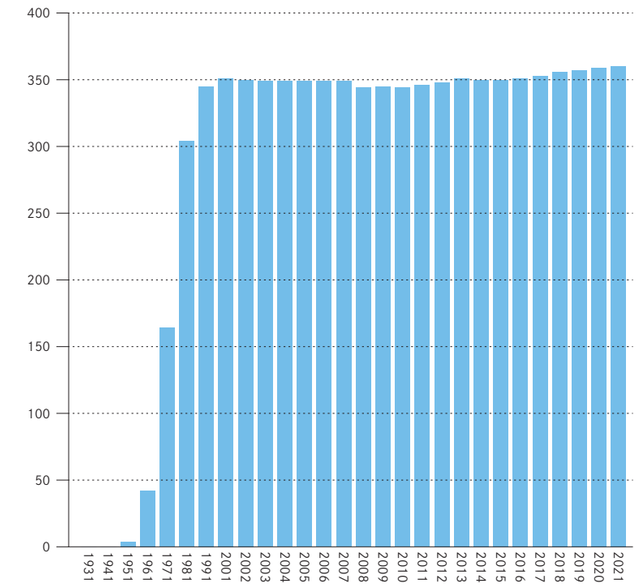
（単位：人）




| | |
|---|---|
| 1931年度（昭和6年12月期）第10期 | 239 |
| 1941年度（昭和16年12月期）第20期 | 530 |
| 1951年度（昭和27年3月期）第30期 | 1,387 |
| 1961年度（昭和37年3月期）第40期 | 3,442 |
| 1971年度（昭和47年3月期）第50期 | 4,539 |
| 1981年度（昭和57年3月期）第60期 | 7,883 |
| 1991年度（平成4年3月期） 第70期 | 8,344 |
| 2001年度（平成14年3月期）第80期 | 8,662 |
| 2002年度（平成15年3月期）第81期 | 8,652 |
| 2003年度（平成16年3月期）第82期 | 8,628 |
| 2004年度（平成17年3月期）第83期 | 8,592 |
| 2005年度（平成18年3月期）第84期 | 8,544 |
| 2006年度（平成19年3月期）第85期 | 8,498 |
| 2007年度（平成20年3月期）第86期 | 8,469 |
| 2008年度（平成21年3月期）第87期 | 8,434 |
| 2009年度（平成22年3月期）第88期 | 8,442 |
| 2010年度（平成23年3月期）第89期 | 8,429 |
| 2011年度（平成24年3月期）第90期 | 8,421 |
| 2012年度（平成25年3月期）第91期 | 8,573 |
| 2013年度（平成26年3月期）第92期 | 8,749 |
| 2014年度（平成27年3月期）第93期 | 8,851 |
| 2015年度（平成28年3月期）第94期 | 8,886 |
| 2016年度（平成29年3月期）第95期 | 8,959 |
| 2017年度（平成30年3月期）第96期 | 9,141 |
| 2018年度（平成31年3月期）第97期 | 9,317 |
| 2019年度（令和2年3月期） 第98期 | 9,426 |
| 2020年度（令和3年3月期） 第99期 | 9,710 |
| 2021年度（令和4年3月期）第100期 | 9,944 |

## 出資金の推移

（単位：百万円）

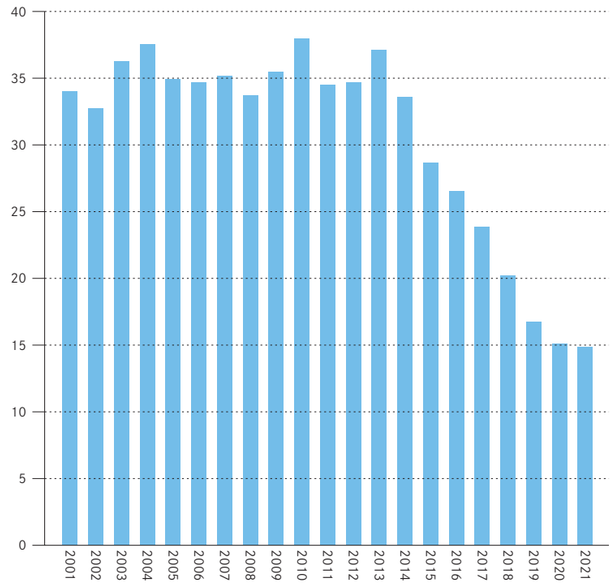



| | |
|---|---|
| 1931年度（昭和6年12月期）第10期 | 29 千円 |
| 1941年度（昭和16年12月期）第20期 | 65 千円 |
| 1951年度（昭和27年3月期）第30期 | 4 |
| 1961年度（昭和37年3月期）第40期 | 42 |
| 1971年度（昭和47年3月期）第50期 | 164 |
| 1981年度（昭和57年3月期）第60期 | 304 |
| 1991年度（平成4年3月期） 第70期 | 345 |
| 2001年度（平成14年3月期）第80期 | 351 |
| 2002年度（平成15年3月期）第81期 | 350 |
| 2003年度（平成16年3月期）第82期 | 349 |
| 2004年度（平成17年3月期）第83期 | 349 |
| 2005年度（平成18年3月期）第84期 | 349 |
| 2006年度（平成19年3月期）第85期 | 349 |
| 2007年度（平成20年3月期）第86期 | 349 |
| 2008年度（平成21年3月期）第87期 | 344 |
| 2009年度（平成22年3月期）第88期 | 345 |
| 2010年度（平成23年3月期）第89期 | 344 |
| 2011年度（平成24年3月期）第90期 | 346 |
| 2012年度（平成25年3月期）第91期 | 348 |
| 2013年度（平成26年3月期）第92期 | 351 |
| 2014年度（平成27年3月期）第93期 | 350 |
| 2015年度（平成28年3月期）第94期 | 350 |
| 2016年度（平成29年3月期）第95期 | 351 |
| 2017年度（平成30年3月期）第96期 | 353 |
| 2018年度（平成31年3月期）第97期 | 356 |
| 2019年度（令和2年3月期） 第98期 | 357 |
| 2020年度（令和3年3月期） 第99期 | 359 |
| 2021年度（令和4年3月期）第100期 | 360 |

# 業 況 の 推 移

2022年3月31日現在

## 自己資本比率の推移




（単位：%）

| | |
|---|---|
| 2001年度（平成14年3月期）第80期 | 34.02 |
| 2002年度（平成15年3月期）第81期 | 32.74 |
| 2003年度（平成16年3月期）第82期 | 36.29 |
| 2004年度（平成17年3月期）第83期 | 37.57 |
| 2005年度（平成18年3月期）第84期 | 34.95 |
| 2006年度（平成19年3月期）第85期 | 34.67 |
| 2007年度（平成20年3月期）第86期 | 35.17 |
| 2008年度（平成21年3月期）第87期 | 33.73 |
| 2009年度（平成22年3月期）第88期 | 35.46 |
| 2010年度（平成23年3月期）第89期 | 37.95 |
| 2011年度（平成24年3月期）第90期 | 34.48 |
| 2012年度（平成25年3月期）第91期 | 34.67 |
| 2013年度（平成26年3月期）第92期 | 37.14 |
| 2014年度（平成27年3月期）第93期 | 33.57 |
| 2015年度（平成28年3月期）第94期 | 28.68 |
| 2016年度（平成29年3月期）第95期 | 26.54 |
| 2017年度（平成30年3月期）第96期 | 23.86 |
| 2018年度（平成31年3月期）第97期 | 20.20 |
| 2019年度（令和2年3月期） 第98期 | 16.78 |
| 2020年度（令和3年3月期） 第99期 | 15.11 |
| 2021年度（令和4年3月期）第100期 | 14.89 |



# 年 表

| 西暦（元号） | 日高信用金庫のあゆみ | 社会・地域の動き |
|---|---|---|
| 1921<br>（大正10） | 4月13日<br>有限責任浦河信用組合設立、<br>初代組合長北川貞七就任、組合員150名 | 11月4日<br>原敬首相、東京駅で暗殺される |
| 1922<br>（大正11） | 12月31日<br>第1期決算、預金残高0円、貸出金残高5,893円、<br>出資金6,169円、組合員137名 | 7月20日<br>皇太子殿下（昭和天皇）静内の御料牧場に行啓<br>8月25日<br>日高地方大洪水、沙流川氾濫、56人死亡<br>12月30日<br>ソビエト社会主義共和国連邦樹立 |
| 1923<br>（大正12） | | 9月1日<br>関東大震災、死者9万人超 |
| 1924<br>（大正13） | | 7月13日<br>浦河大火119棟148戸焼失 |
| 1925<br>（大正14） | | 4月22日<br>「治安維持法」公布 |
| 1926<br>（大正15／昭和元） | 4月7日<br>初代組合長 北川貞七、退任<br>4月20日<br>（二代目）奥田惣兵衛、第二代組合長に就任 | 5月24日<br>十勝岳噴火<br>12月7日<br>日高拓殖鉄道、厚賀ー静内間に鉄道延伸開業<br>12月25日<br>大正天皇崩御、昭和と改元 |
| 1927<br>（昭和2） | 2月10日<br>第二代組合長（二代目）奥田惣兵衛、退任<br>2月13日<br>高木徳治、第三代組合長に就任 | 3月15日<br>東京渡辺銀行が休業、金融恐慌始まる<br>8月1日<br>国は苫小牧軽便鉄道と日高拓殖鉄道を買収し国有化<br>日高線と改称 |
| 1928<br>（昭和3） | 8月28日<br>産業組合普及宣伝のため、活動写真会を開催 | 2月20日<br>初の男子普通選挙実施<br>6月5日<br>NHK札幌中央放送局開設、ラジオ放送開始<br>10月1日<br>広尾村が広尾村と大樹村に分村 |
| 1929<br>（昭和4） | 3月6日<br>産業組合記念日にあたり、役職員総出で組合員募集を<br>行う。12月末の組合員172名 | 6月17日<br>駒ヶ岳噴火、日高地方にも降灰<br>10月24日<br>アメリカ株式市場暴落、世界恐慌始まる |
| 1930<br>（昭和5） | | 9月8日<br>浦河漁港竣工祝賀会 |
| 1931<br>（昭和6） | 9月8日<br>創立10周年を記念し、祝賀の活動写真会を開催<br>12月31日<br>第10期決算、預金残高40,137円、貸出金残高43,840円、<br>出資金29,410円、組合員239名 | 9月18日<br>満州事変勃発<br>10月1日<br>静内村、町制施行<br>北海道無尽浦河支店（後の北洋銀行浦河支店）が開設 |
| 1932<br>（昭和7） | 不況により商工業者特別貸付を実施、<br>外部からの借入20,204円で賄う | 3月1日<br>満州国建国宣言（首都・新京）<br>5月15日<br>五・一五事件発生、犬養毅首相暗殺される<br>8月13日<br>浦河支庁が日高支庁と改称<br>11月5日<br>国鉄広尾線（帯広ー広尾間）全線開通 |



| 西暦（元号） | 日高信用金庫のあゆみ | 社会・地域の動き |
|---|---|---|
| 1933<br>（昭和8） | | 3月3日<br>昭和三陸地震の津波で漁船や家屋が流出、<br>日高地方に甚大な被害<br>3月27日<br>日本が国際連盟脱退通告<br>12月15日<br>国鉄日高三石駅開業、静内ー三石間の鉄道開通 |
| 1934<br>（昭和9） | | 8月2日<br>ヒトラーがドイツ帝国総統に就任<br>11月3日<br>広尾ー幌泉間の日勝海岸道路「黄金道路」が開通 |
| 1935<br>（昭和10） | 4月15日<br>保証責任浦河信用組合に組織変更<br>10月<br>定額貯金の取扱開始<br>12月<br>金庫室扉、金属類回収令に対する非該当物件としての<br>許可申請 | 10月24日<br>国鉄浦河駅が開業、三石ー浦河間の鉄道開通 |
| 1936<br>（昭和11） | 永続的不況により農漁村金融の行き詰まり打開に、<br>数次に亘り金利引き下げを断行、金融緩和を図る | 2月26日<br>陸軍皇道派青年将校らのクーデター、二・二六事件発生<br>4月18日<br>外務省が国号「大日本帝国」に統一<br>6月19日<br>北海道・東北一帯、皆既日食を観測 |
| 1937<br>（昭和12） | 国防愛国護国貯金取扱開始 | 7月7日<br>盧溝橋事件を発端に日中戦争が勃発<br>8月10日<br>国鉄様似駅が開業、日高線（苫小牧ー様似間146.5km）<br>全線開通<br>8月30日<br>北海道拓殖銀行浦河支店が開設 |
| 1938<br>（昭和13） | 戦時体制化が進み、物資制限、物価統制が強められ、<br>流通資金も貯金化に傾き、<br>期末預金残高133,553円となる | 4月1日<br>「国家総動員法」公布<br>7月15日<br>政府が第12回オリンピック東京大会開催を返上 |
| 1939<br>（昭和14） | 戦時インフレーション形態に対する国策に順応して、<br>貯蓄奨励に専念する | 9月1日<br>ドイツ軍のポーランド侵攻を発端に第二次世界大戦勃発<br>9月7日<br>アポイ岳高山植物群落が天然記念物に指定される<br>12月3日<br>日本赤十字社北海道支部浦河療院が開院 |
| 1940<br>（昭和15） | | 8月15日<br>全政党解党<br>9月27日<br>日独伊三国軍事同盟締結<br>10月12日<br>大政翼賛会発足<br>11月10日<br>紀元二千六百年式典 |
| 1941<br>（昭和16） | 創立20周年、期末預金残高344,023円、<br>貸出金残高94,301円、出資金65,118円、<br>組合員530名 | 4月1日<br>小学校が国民学校、尋常科が初等科に改称<br>12月8日<br>真珠湾攻撃により太平洋戦争開戦 |

| 西暦（元号） | 日高信用金庫のあゆみ | 社会・地域の動き |
|---|---|---|
| 1942<br>（昭和17） | 2月<br>青少年雇入認可により女子1名採用<br>4月17日<br>第三代組合長 高木徳治、退任<br>5月3日<br>（三代目）奥田惣兵衛、第四代組合長に就任 | 6月5日<br>ミッドウェー海戦、日本軍大敗<br>11月1日<br>戦時下の新聞事業令により、道内11紙が合併し、北海道新聞創刊 |
| 1943<br>（昭和18） | 1月22日<br>浦河大火罹災者に対し、非常金融対策を行う（当組合は類焼まぬがれる）<br>全組合員1円ずつ拠出し、軍用機献納資金として拠出。<br>当組合男子職員に徴用令発令される | 1月15日<br>浦河町大火、45棟62戸焼失。損害40万円。日高しんきんは罹災者に対し非常金融対策を行い復興を支援<br>10月21日<br>第1回学徒出陣 |
| 1944<br>（昭和19） | 3月31日<br>市街地信用組合法に基づく浦河信用組合に組織変更、決算年度を3月末に変更<br>10月31日<br>庶民金庫代理業務の契約締結 | 6月23日<br>壮瞥村で田畑が隆起、昭和新山生成<br>9月1日<br>戦時体制下、一県一行主義の促進案で、北海道銀行浦河支店が北海道拓殖銀行浦河支店に譲渡 |
| 1945<br>（昭和20） | 3月31日<br>第23期決算、預金残高1,155,726円と100万円を超える<br>5月1日<br>旧北海道拓殖銀行浦河支店店舗を購入、移転開店する（大通2丁目の現在地）<br>7月<br>浦河市街空襲を受け、当組合裏の北電社宅に爆弾直撃、隣接北電事務所焼失 | 3月10日<br>東京大空襲<br>7月14・15日<br>米軍艦載機が太平洋沿岸一帯を攻撃、幌泉市街地を中心に2日間空襲を受ける<br>8月1日<br>浦河・様似間の沖合に米潜水艦が出現、艦砲射撃<br>8月6日に広島、9日に長崎へ原子爆弾投下<br>8月15日<br>日本が無条件降伏、ポツダム宣言を受諾 |
| 1946<br>（昭和21） | 2月17日<br>新円切り換え、預金封鎖実施 | 1月1日<br>天皇人間宣言<br>2月17日<br>「金融緊急措置令」公布。浦河町が行う戦災者、引揚者に対する生業資金の貸付業務を引き受ける<br>9月20日<br>広尾村、町制施行<br>11月3日<br>「日本国憲法」公布、翌年5月3日より施行 |
| 1947<br>（昭和22） | 6月<br>定期預金1カ月もの、利率3分6厘で取り扱う | 4月1日<br>新学制による小中学校発足（6・3制）<br>4月1日<br>新冠御料牧場、農林省所管となり「新冠種畜牧場」と改称<br>4月20日<br>第1回参議院選挙<br>4月21日<br>初の公選で田中敏文が北海道庁長官に就任。5月より北海道庁が北海道に、長官が知事に、道会が道議会になる |
| 1948<br>（昭和23） | 一組合員に対する貸付限度、個人5万円、法人10万円となる<br>9月<br>定期預金1カ月もの、利率4分5厘に変更<br>1年以内の貸付利率、日歩5銭<br>浦河町昌平町に引揚者によるマーケット開店、当組合員に対し融資取扱 | 4月1日<br>新制高等学校が発足、浦河高等女学校が道立浦河高校に<br>7月21日<br>預金封鎖が解除、新円一本化体制となる<br>8月1日<br>道立静内病院（現・新ひだか町立静内病院）が開院 |
| 1949<br>（昭和24） | 11月1日<br>割増金付定期積立金販売、期間1カ年一口6,000円<br>11月25日<br>幌泉、様似、荻伏、三石、静内等各町村に地区を拡張 | 4月23日<br>GHQ、単一為替レートを1ドル360円に指令<br>6月1日<br>国民金融公庫設立 |



| 西暦（元号） | 日高信用金庫のあゆみ | 社会・地域の動き |
|---|---|---|
| 1950<br>（昭和25） | 4月1日<br>中小企業等協同組合法に基づき、浦河信用組合に組織変更<br>6月9日<br>第四代組合長（三代目）奥田惣兵衛、退任<br>7月21日<br>田中清三、第五代組合長に就任<br>8月17日<br>様似支所設置認可<br>9月5日<br>様似支所開設 | 1月7日<br>初の1,000円札（聖徳太子）発行<br>6月1日<br>北海道開発庁設置<br>6月25日<br>朝鮮戦争勃発<br>8月15日<br>襟裳岬一円が道立公園に指定<br>12月8日<br>北海道無尽（後の札幌銀行）が浦河に本店営業部浦河会場を開設 |
| 1951<br>（昭和26） | 6月15日<br>信用金庫法公布<br>9月25日<br>信用金庫法に基づく、信用金庫免許申請 | 3月5日<br>北海道銀行設立<br>4月1日<br>三石村、町制施行<br>9月8日<br>サンフランシスコ講和条約締結、日米安全保障条約調印 |
| 1952<br>（昭和27） | 2月1日<br>信用金庫法に基づき、日高信用金庫に組織変更並びに名称変更<br>2月1日<br>様似支所、様似支店に昇格<br>3月4日<br>十勝沖地震発生、津波警報発令により臨時休業し、重要書類携行避難<br>3月31日<br>第30期決算、預金残高61,080,093円、貸出金残高40,309,887円、出資金4,425,300円、会員1,387名<br>5月24日<br>新冠郡新冠村へ地区拡張<br>6月28日<br>幌泉支店設置認可<br>7月5日<br>幌泉支店開設<br>8月1日<br>静内支店設置認可<br>8月22日<br>静内支店開設 | 3月4日<br>十勝沖地震（M8.2）が発生し、浦河では震度5。津波が発生し漁業に大きな被害。浦河高校校舎全壊<br>3月29日<br>アポイ岳高山植物群落が特別天然記念物に指定<br>4月1日<br>様似村、町制施行<br>7月1日<br>北海道相互銀行浦河支店開設<br>7月19日<br>ヘルシンキオリンピック開幕、戦後初めて日本が参加<br>11月10日<br>様似町本町大火、55戸焼失 |
| 1953<br>（昭和28） | 3月31日<br>三石支店設置認可<br>4月20日<br>三石支店開設<br>12月8日<br>内国為替業務取引開始 | 1月20日<br>アイゼンハワーが米大統領に就任<br>2月1日<br>NHK東京でテレビ放送開始<br>5月24日<br>日高地方に豪雨水害 |
| 1954<br>（昭和29） | | 2月28日<br>浦河町堺町大火、引揚者住宅52戸焼失<br>6月<br>幌泉町で日本初のマンモス象の臼歯化石確認<br>7月1日<br>自衛隊発足<br>7月30日<br>日高支庁長の旧公宅敷地に浦河町役場庁舎完成<br>9月26日<br>台風15号で青函連絡船洞爺丸ほか4隻が沈没、犠牲者1,430人 |
| 1955<br>（昭和30） | 7月4日<br>静内水害により、静内支店臨時休業<br>10月15日<br>本店店舗新築、創立35周年並びに本店店舗新築落成記念式挙行 | 6月1日<br>アルミ1円硬貨誕生<br>7月4日<br>静内・新冠地区に豪雨災害。死者2人、流失家屋28戸、床上浸水1,160戸 |

| 西暦（元号） | 日高信用金庫のあゆみ | 社会・地域の動き |
|---|---|---|
| 1955<br>（昭和30） | **10月24日**<br>本店、新店舗で業務開始<br>**10月24日**<br>初めてのシンジケートローン取扱開始<br>**10月28日**<br>国民金融公庫代理貸付、静内町水害対策融資として1,200万円取り扱う<br>**11月25日**<br>様似支店、店舗新築<br>**12月29日**<br>中小企業金融公庫代理業務の契約締結 | **11月15日**<br>日本民主党と自由党が合併し自由民主党結成<br>**12月**<br>神武景気が始まり、高度経済成長期に |
| 1956<br>（昭和31） | | **9月30日**<br>「町村合併促進法」に基づき浦河町が荻伏村を編入<br>**10月19日**<br>日ソ国交回復に関する共同宣言調印<br>**12月18日**<br>国際連合総会、日本の国際連合加盟を承認 |
| 1957<br>（昭和32） | **4月1日**<br>拡充3カ年計画策定<br>**7月**<br>第1回観光積立～洞爺湖湖水祭観光旅行～ | 神武景気のピーク。テレビ、洗濯機、冷蔵庫など三種の神器が家庭に普及<br>**10月1日**<br>日本銀行、5,000円券を発行<br>**10月4日**<br>ソ連、世界最初の人工衛星スプートニク打ち上げ成功 |
| 1958<br>（昭和33） | **4月1日**<br>機構改革により、本店に本部、営業部制を採用<br>**4月26日**<br>広尾支店設置認可<br>**5月1日**<br>広尾支店開設（本通6丁目）<br>**10月**<br>第2回観光積立～十和田湖・弘前観光旅行～<br>**12月1日**<br>金融機関再建整備法に基づく調整勘定閉鎖、政府補填498千円受ける | **6月**<br>奥様貯金協力店会が浦河町で誕生。全道初の試み<br>**9月22日**<br>千歳空港の航空管制権、米軍から日本に返還<br>**12月1日**<br>日本銀行、1万円券を発行<br>**12月23日**<br>東京タワー完成 |
| 1959<br>（昭和34） | **1月5日**<br>全国信用金庫連合会代理業務の契約締結<br>**5月**<br>北海道信用金庫協会、道中連絡協議会、当金庫当番で開催<br>**9月25日**<br>広尾支店、店舗新築（本通8丁目）<br>**10月26日**<br>幌泉支店、店舗新築<br>**10月31日**<br>中小企業退職金共済事業団復託店の契約締結 | **1月1日**<br>幌泉村、町制施行<br>**4月10日**<br>明仁皇太子殿下、美智子妃殿下とご成婚<br>**4月23日**<br>道知事選、町村金五初当選<br>**9月12日**<br>大蔵省、ドル為替の自由化実施<br>**9月26日**<br>伊勢湾台風で死者5,041人<br>**11月1日**<br>国民年金制度発足 |
| 1960<br>（昭和35） | **3月**<br>第3回観光積立～伊豆大島観光旅行～<br>**9月23日**<br>第五代理事長 田中清三、入院先の札幌医大病院にて逝去<br>**9月24日**<br>（四代目）奥田惣兵衛、第六代理事長に就任<br>**10月2日**<br>故 田中前理事長の金庫葬を正信寺で行う<br>**11月24日**<br>「NCR42号普通預金会計機」本店営業部に導入 | **1月19日**<br>新日米安全保障条約調印<br>**5月24日**<br>チリ地震による津波発生。道東・日高沿岸で床上浸水や船舶の流失など被害大。全道で死者10人、行方不明6人<br>**9月10日**<br>カラーテレビ放送開始<br>**12月27日**<br>池田勇人内閣が国民所得倍増計画を閣議決定 |
| 1961<br>（昭和36） | **2月**<br>第4回観光積立～伊豆大島観光旅行～ | **1月20日**<br>ケネディが米大統領に就任 |



| 西暦（元号） | 日高信用金庫のあゆみ | 社会・地域の動き |
|---|---|---|
| 1961<br>（昭和36） | **3月31日**<br>預金残高10億円達成<br>**6月21日**<br>三石支店歌笛出張所設置認可<br>**7月9日**<br>創立40周年祝賀記念式施行、浦河労働会館前庭で園遊会を開催<br>**11月28日**<br>歌笛出張所開設<br>**12月3日**<br>静内支店、店舗新築 | **3月**<br>襟裳岬沿岸に流氷が接岸、コンブ礁に被害<br>**4月12日**<br>ソ連ガガーリンが人類初の有人宇宙飛行に成功<br>**9月30日**<br>経済協力開発機構（OECD）発足<br>岩戸景気、ピークに |
| 1962<br>（昭和37） | **1月18日**<br>広尾支店、国民金融公庫恩給担保貸付代理業務の契約締結<br>**2月**<br>第5回観光積立～九州一周観光旅行～<br>**2月28日**<br>住宅金融公庫業務委託の契約締結<br>**3月31日**<br>第40期決算、預金残高1,312,133千円、貸出金残高998,664千円、出資金42,860千円、会員3,442名<br>**4月1日**<br>基本方向推進3カ年計画策定<br>**5月19日**<br>「フリーデン電動計算機」本店営業部に導入<br>**10月23日**<br>静内町に消防車「信金号」寄贈<br>**11月7日**<br>三石支店、店舗新築<br>**12月24日**<br>北方領土問題対策協会代理業務の契約締結 | **4月2日**<br>大蔵省、信用金庫の地区拡張認可を弾力化<br>**6月15日**<br>浦河町スポーツセンターの完成を記念して、オルゴール付きステージ引幕を寄贈<br>**6月29日**<br>十勝岳噴火<br>**8月12日**<br>堀江謙一、ヨットで太平洋横断に成功 |
| 1963<br>（昭和38） | **3月31日**<br>浦河町、広尾町に消防車「信金号」を寄贈<br>**4月5日**<br>損害保険代理店兼業認可<br>**5月10日**<br>三石町、様似町に消防車「信金号」寄贈<br>**11月14日**<br>「NCR42号普通預金会計機」静内支店に導入 | **3月31日**<br>少額貯蓄非課税制度（マル優）発足<br>**8月14～16日**<br>第1回浦河港まつり開催<br>**11月22日**<br>ケネディ米大統領、暗殺される |
| 1964<br>（昭和39） | **2月13日**<br>幌泉町指定金融機関の指定を受ける<br>**3月**<br>第6回観光積立～山陰中国めぐり観光旅行～<br>**6月22日**<br>林業信用基金代理業務の契約締結<br>**8月6日**<br>日本不動産銀行代理業務の契約締結<br>**10月20日**<br>退職事業団復託店の契約締結 | **4月28日**<br>日本、OECDに正式加盟<br>**10月1日**<br>東海道新幹線開通<br>**10月10日**<br>東京オリンピック開幕 |
| 1965<br>（昭和40） | **3月26日**<br>日本興業銀行代理業務の契約締結<br>**3月31日**<br>幌泉町に消防車「信金号」寄贈<br>**4月1日**<br>基本方針達成第二次3カ年計画策定<br>**11月16日**<br>「NCR42号普通預金会計機」様似支店に導入<br>**12月1日**<br>小規模企業共済事業団復託店の契約締結 | **2月7日**<br>米軍、北ベトナムに爆撃開始<br>**7月1日**<br>広尾港が「十勝港」に改称<br>**9月6日**<br>北洋相互銀行広尾支店、北海道銀行に譲渡<br>**10月21日**<br>朝永振一郎、ノーベル物理学賞受賞<br>**12月26日**<br>荻伏生まれ競走馬シンザン号、史上初五冠馬達成 |

| 西暦（元号） | 日高信用金庫のあゆみ | 社会・地域の動き |
|---|---|---|
| 1966<br>（昭和41） | **3月15日**<br>「NCR42号普通預金会計機」広尾支店に導入<br>**3月25日**<br>原価意識の向上を図るため月次決算「原価計算とその業況」制度を採用<br>**4月1日**<br>日本長期信用銀行代理業務の契約締結<br>**12月18日**<br>様似支店、店舗新築 | **2月4日**<br>全日空機、羽田沖墜落事故、133人全員死亡<br>**3月5日**<br>ボーイング707、富士山付近で墜落、124人死亡<br>**5月16日**<br>中国で文化大革命が始まる<br>**6月29日**<br>ザ・ビートルズが来日。日本武道館で3日間公演 |
| 1967<br>（昭和42） | **3月1日**<br>浦河町指定金融機関の指定を受ける<br>**3月17日**<br>第7回観光積立～中国・山陰めぐり～<br>**5月23日**<br>「NCR42号普通預金会計機」三石、幌泉両支店に導入<br>**6月1日**<br>三石町指定金融機関の指定を受ける<br>**11月6日**<br>「NCR32号当座預金専用会計機」本店営業部に導入<br>**11月8日**<br>漁業信用基金協会代理業務の契約締結<br>**12月1日**<br>北海道建設業信用保証株式会社の取扱認可 | **5月6日**<br>奥田理事長、浦河町議会議長に就任<br>**5月17日**<br>奥田理事長、日高町村議会議長会会長に就任<br>**7月1日**<br>EC（ヨーロッパ共同体）発足<br>**7月1日**<br>襟裳岬ロケの東宝映画『その人は昔』（松山善三監督）が全国上映<br>**7月8日**<br>奥田理事長、浦河商工会議所会頭に就任<br>**8月3日**<br>「公害対策基本法」施行 |
| 1968<br>（昭和43） | **2月1日**<br>環境衛生金融公庫代理業務の契約締結<br>**10月1日**<br>信用金庫法改正に伴い定款業務方法書変更 | **5月16日**<br>十勝沖地震（M7.9）、浦河震度5<br>**6月1日**<br>「金融二法」を施行、統一経理基準の実施<br>**9月2日**<br>札幌で北海道開基百年祝典開催<br>**10月17日**<br>川端康成、ノーベル文学賞受賞<br>**12月10日**<br>3億円強奪事件発生 |
| 1969<br>（昭和44） | **4月1日**<br>躍進5カ年計画策定<br>**5月30日**<br>田中常務理事、全信協会長より永年勤続30年表彰を受ける<br>**10月5日**<br>北洋相互銀行幌泉支店跡店舗購入、移転開店<br>**11月19日**<br>創立50周年並びに本店店舗新築落成記念式典挙行 | **1月18・19日**<br>東大安田講堂事件<br>**1月20日**<br>ニクソンが米大統領に就任<br>**2月**<br>第1回十勝港毛がに祭り開催<br>**7月20日**<br>米国アポロ11号、人類初の月面着陸に成功<br>**9月13日**<br>北洋相互銀行幌泉支店閉鎖<br>**11月14日**<br>北海道日高支庁静内合同庁舎完成 |
| 1970<br>（昭和45） | **3月15日**<br>第8回観光積立～万国博と関西・南紀めぐり～<br>**4月1日**<br>当管内で初めて本店営業部で貸金庫業務取扱開始<br>**6月**<br>広尾町商工会館建設資金に50万円を寄付<br>**10月1日**<br>幌泉支店、町名改称により「えりも支店」と改称 | **1月21日**<br>日高山脈地震発生（M6.7）<br>**3月15日**<br>大阪で日本万国博覧会開幕<br>**3月31日**<br>よど号ハイジャック事件<br>**10月1日**<br>幌泉町、町名を「えりも町」に変更 |
| 1971<br>（昭和46） | **2月1日**<br>1年6カ月定期預金新発売<br>**5月31日**<br>「為替用テレファックス」本部に2台導入<br>**9月13日**<br>静内支店、店舗新築<br>**11月9日**<br>「NCR41号ブルーフマシン」本店営業部に導入 | **4月1日**<br>えりも、様似、浦河の3町による日高東部消防組合発足<br>**4月11日**<br>道知事選挙、堂垣内尚弘が初当選<br>**6月1日**<br>三石、静内、新冠の3町による日高中部消防組合発足<br>**8月6日**<br>様似町で第1回アポイの火まつりを開催 |



| 西暦（元号） | 日高信用金庫のあゆみ | 社会・地域の動き |
|---|---|---|
| 1972<br>（昭和47） | **3月16日**<br>第9回観光積立～九州一周の旅～<br>**3月31日**<br>第50期決算、預金残高8,379,452千円、貸出金残高6,642,013千円、出資金164,036千円、会員4,539名<br>**10月11日**<br>広尾支店、店舗新築<br>**11月24日**<br>「NCR446号ビリングマシン」本部に導入、総勘定日計表作成開始<br>**12月25日**<br>預金残高100億円達成 | **2月3日**<br>札幌冬季オリンピック開幕<br>**2月19日**<br>連合赤軍浅間山荘事件<br>**4月1日**<br>札幌市が政令指定都市へ移行<br>**5月15日**<br>沖縄、本土に復帰し、沖縄県発足<br>**7月7日**<br>田中角栄内閣誕生。日本列島改造論の影響で地価高騰<br>**9月29日**<br>日中国交正常化の共同声明調印 |
| 1973<br>（昭和48） | **3月1日**<br>職員の退職給与制度、適格年金に移行<br>**4月1日**<br>躍進第2次3カ年計画策定<br>**4月13日**<br>「NCR32号当座預金専用会計機」広尾支店に導入<br>**5月19日**<br>広尾郡大樹町、忠類村に営業地区拡張<br>**7月16日**<br>2年定期預金新発売 | **2月14日**<br>円が変動相場制へ移行し急騰<br>**6月14日**<br>北電伊達火力発電所、強行着工<br>**10月10日**<br>日ソ共同声明調印<br>**10月16日**<br>OPEC石油価格大幅引き上げ、第一次オイル・ショック発生<br>狂乱物価、トイレットペーパーなどの買い占め発生<br>**10月23日**<br>江崎玲於奈、ノーベル物理学賞受賞 |
| 1974<br>（昭和49） | **1月14日**<br>1年6カ月定期預金取扱中止<br>**3月15日**<br>第10回観光積立～四国と山陽道めぐり～<br>**4月1日**<br>様似町指定金融機関の指定を受ける<br>**5月18日**<br>週休2日制実施<br>**6月19日**<br>「NCR32号当座預金専用会計機」静内、様似両支店に導入 | **1月19日**<br>北海道拓殖銀行様似支店閉鎖<br>**4月**<br>国鉄広尾線「愛国・幸福」切符ブームに<br>**10月8日**<br>佐藤栄作元首相、ノーベル平和賞受賞<br>**12月9日**<br>三木武夫内閣発足<br>**12月**<br>森進一が「襟裳岬」で日本歌謡大賞と日本レコード大賞を受賞<br>経済成長率が戦後初のマイナスへ |
| 1975<br>（昭和50） | **2月10日**<br>北海道拓殖銀行様似支店跡店舗購入、移転開店<br>**3月27日**<br>「NCR207号普通預金会計機」えりも支店に導入<br>**7月20日**<br>第25回全道信用金庫野球大会道内地区第1ブロック予選会、当金庫当番で浦河町にて開催<br>**10月20日**<br>北海道信金共同事務センター加盟による、本店営業部普通預金オンライン稼働<br>**10月20日**<br>第11回観光積立～沖縄海洋博と観光の旅～<br>**10月23日**<br>「NCR32号当座預金専用会計機」えりも支店に導入<br>**10月29日**<br>奥田理事長、紺綬褒章受章 | **2月13日**<br>アポイ岳に生息するヒメチャマダラセセリ（蝶）が国の天然記念物に指定<br>**3月**<br>日活が映画『襟裳岬』のロケ（主演・山口いづみ）<br>**4月30日**<br>ベトナム戦争終結<br>**12月14日**<br>SL列車が廃止、103年の歴史に幕 |
| 1976<br>（昭和51） | **3月1日**<br>電子計算機「日立8150型」コンピュータ導入によるオフラインスタート<br>**3月31日**<br>「為替用テレファックス」本部、本店営業部、広尾支店に導入<br>**4月1日**<br>安定成長3カ年計画策定<br>**5月30日**<br>全国信用金庫連合会、小原鐵五郎会長来庫 | **2月4日**<br>米国上院でロッキード事件発覚<br>**3月2日**<br>北海道庁で爆破事件<br>**4月5日**<br>中国で天安門事件<br>**7月27日**<br>田中角栄元首相、ロッキード事件で逮捕 |

| 西暦（元号） | 日高信用金庫のあゆみ | 社会・地域の動き |
|---|---|---|
| 1976<br>（昭和51） | **7月12日**<br>静内、広尾両支店、普通預金オンライン稼働<br>**10月18日**<br>全国信金為替オンライン稼働<br>**11月24日**<br>預金残高210億円達成<br>**12月27日**<br>「為替用テレファックス」様似支店に導入 | **12月10日**<br>ソ連200カイリ漁業専管水域設定<br>**12月24日**<br>福田赳夫内閣発足 |
| 1977<br>（昭和52） | **3月1日**<br>定期預金オフライン化実施<br>**5月4日**<br>常勤理事担当職制による機構改革<br>**6月13日**<br>様似、えりも両支店、普通預金オンライン稼働<br>**8月27日**<br>「為替用テレファックス」えりも支店に導入<br>**11月4日**<br>第12回観光積立～山陰地方と九州の旅～<br>**11月7日**<br>三石支店、店舗新築<br>**11月8日**<br>「為替用テレファックス」三石支店に導入 | **1月20日**<br>カーターが米大統領に就任<br>**7月1日**<br>「海洋二法」施行（200カイリ漁業水域と領海12カイリ設定）<br>**7月14日**<br>日本初の気象衛星ひまわり打ち上げ<br>**8月7日**<br>有珠山32年ぶりに噴火<br>**8月**<br>第1回静内夏まつり開催<br>**9月3日**<br>巨人軍・王貞治、ホームラン756号の世界記録達成 |
| 1978<br>（昭和53） | **3月1日**<br>定期積金、オフライン化実施<br>**3月18日**<br>第13回観光積立～常夏の島 ハワイ7日間の旅～<br>**6月12日**<br>三石支店、普通預金オンライン稼働<br>**7月21日**<br>「為替用テレファックス」静内支店に導入<br>**8月1日**<br>業務機構改革として営業区域に地区統括制を置く<br>**8月1日**<br>本部の組織機構を1室2部制へ<br>（審査部、総務企画推進部、教育検査室）<br>**12月22日**<br>日本銀行と当座預金取引開始<br>**12月27日**<br>預金残高300億円達成 | **4月29日**<br>植村直巳、犬ぞりで北極点に単独到達<br>**5月20日**<br>成田新東京国際空港が開港<br>**8月12日**<br>日中平和友好条約調印<br>**12月7日**<br>大平正芳内閣発足 |
| 1979<br>（昭和54） | **2月13日**<br>全銀為替システムと信金為替システムでドッキング稼働<br>**3月1日**<br>融資三科目、オフライン稼働<br>**3月15日**<br>第14回観光積立～シンガポール・バンコク・香港の旅～<br>**4月1日**<br>第2次安定成長3カ年計画策定<br>**4月1日**<br>常勤役員の定年制を設ける<br>**5月12日**<br>防犯カメラ全店に設置<br>**7月1日**<br>医療金融公庫代理業務の契約締結<br>**8月1日**<br>業務機構改革し、統括地区の一部改正を行う、<br>審査部機構改める<br>**11月3日**<br>奥田理事長、藍綬褒章受章<br>**11月27日**<br>えりも支店、国鉄バス駅跡地に店舗新築 | **1月13日・14日**<br>初の大学共通第1次学力試験を実施<br>**1月**<br>第二次オイルショックが始まる<br>**5月**<br>譲渡性預金（NCD）の創設により、<br>預金金利自由化がスタート<br>**6月**<br>広尾町で第1回つつじまつり開催<br>**8月26日**<br>赤心社創立百年記念式典、赤心社記念館開館<br>**12月24日**<br>ソ連がアフガニスタン侵攻 |



| 西暦（元号） | 日高信用金庫のあゆみ | 社会・地域の動き |
|---|---|---|
| 1979<br>（昭和54） | **12月20日**<br>本店営業部、日本銀行歳入代理店として指定を受け<br>業務取扱開始 | |
| 1980<br>（昭和55） | **6月2日**<br>創立60周年に向けてのキャンペーン開始<br>**6月2日**<br>初のネーミング預金「招運だるま定期積金」を新発売<br>**6月26日**<br>北海道信用金庫協会、中小金庫経営改善協議会、<br>当金庫にて開催<br>**7月23日**<br>第15回観光積立～ヨーロッパの旅～<br>**8月27日**<br>創立60周年記念事業準備委員会組織（委員17名発令）<br>**9月4日**<br>創立60周年事業として、シンボルマーク、<br>シンボルフラワー、60年キャッチフレーズ公募<br>**9月12日**<br>しんきん講演会開催（講師：佐々木久子氏）<br>**11月10日**<br>様似支店、日本銀行歳入代理店の業務取扱開始<br>**11月12日**<br>山手支店、静内町山手地区に新設オープン<br>**12月11日**<br>記念誌編集員会組織（委員8名発令）<br>**12月17日**<br>第2回創立60周年記念事業準備委員会、シンボルマーク、<br>シンボルフラワー（コスモス）、60年キャッチフレーズを決定 | **6月12日**<br>大平正芳首相、急性心不全で死去<br>**7月17日**<br>鈴木善幸内閣発足<br>**7月19日**<br>モスクワオリンピック開幕（日本不参加）<br>**9月22日**<br>イラン・イラク戦争勃発 |
| 1981<br>（昭和56） | **3月23日**<br>第16回観光積立～南紀・ボートピアの旅～<br>**4月1日**<br>シンボルマーク、シンボルフラワー、60年キャッチフレーズ<br>発表「ありがとう感謝の60年」キャンペーンを展開<br>**4月13日**<br>創立60周年記念「黄金」定期預金新発売<br>**4月18日**<br>全国自治宝くじ1等2千万円、当金庫窓口販売売場より当選者出る<br>**5月19日**<br>奥田理事長、北信協会より北海道信用金庫功労者表彰<br>を受ける<br>**5月26日**<br>奥田理事長、高田常勤理事、新保常勤理事、<br>全信協会長より永年勤続30年表彰を受ける<br>**6月1日**<br>「新型期日指定定期預金」取扱開始<br>**6月30日**<br>創立60周年預金増強の結果、預金残高460億円達成<br>**7月20日**<br>えりも支店、日本銀行歳入代理店の業務取扱開始<br>**10月1日**<br>業務機構改革により、総務企画推進部の機構を改める<br>**10月21日**<br>北海道信金共同事務センター新総合オンラインシステムに移行<br>**10月24日**<br>創立60周年記念式典挙行<br>**10月25日**<br>創立60周年記念ゴルフ大会開催<br>**12月1日**<br>現金自動預金払出機（ATM）、本店営業部に導入 | **1月20日**<br>レーガンが米国大統領に就任<br>**4月12日**<br>米国スペースシャトル打ち上げに初めて成功<br>**7月4日**<br>日高東部に豪雨、水害発生。8月5日には日高西部に豪雨<br>災害。8月23日に台風により日高地方に被害。金庫では新<br>冠町、静内町、三石町、浦河町、様似町に見舞金を贈呈<br>**10月1日**<br>襟裳岬を中心に「日高山脈襟裳国定公園」に指定される<br>**10月16日**<br>北炭夕張炭鉱でガス突出事故、93人死亡<br>**10月19日**<br>福井謙一、ノーベル化学賞受賞<br>**10月**<br>広尾町で第1回十勝港ししゃも祭りを開催 |
| 1982<br>（昭和57） | **3月20日**<br>第17回観光積立～九州一周の旅～ | |

| 西暦（元号） | 日高信用金庫のあゆみ | 社会・地域の動き |
|---|---|---|
| 1982<br>（昭和57） | **3月31日**<br>第60期決算、預金残高42,761百万円、貸出金残高28,195百万円、出資金304百万円、会員7,883名<br>**6月23日**<br>堺町支店設置認可を受ける<br>**7月11日**<br>第32回全道信用金庫野球大会道央地区予選大会、浦河町で開催<br>**7月19日**<br>三石支店、日本銀行歳入代理店の業務取扱開始<br>**9月20日**<br>堺町支店、浦河町堺町地区に新設オープン | **3月21日**<br>浦河沖地震（M7.1）が発生。被災した商工業者を対象に、国民金融公庫、住宅金融公庫、町の災害資金を取り扱ったほか、金庫独自の低利の災害復旧資金制度を創設、商工業者の経営安定化に寄与した<br>**4月1日**<br>500円硬貨登場<br>**6月12日**<br>札幌で北海道博覧会開幕<br>**9月**<br>えりも町で第1回海と山の幸フェスティバル開催<br>**11月27日**<br>中曽根康弘内閣発足 |
| 1983<br>（昭和58） | **1月10日**<br>歌笛出張所オンライン開始<br>**3月14日**<br>現金自動預金払出機（ATM）、静内支店に導入<br>**4月23日**<br>第18回観光積立～沖縄・石垣島の旅～<br>**6月6日**<br>静内支店・堺町支店、日本銀行歳入代理店の業務取扱開始<br>**8月1日**<br>本部の組織機構を1室2部制から審査部を融資審査部と融資管理部へ分割し1室3部制へ改編<br>**8月8日**<br>新型積立定期預金「トライ・レディース」発売<br>**10月1日**<br>証券業務、国債窓口販売を開始<br>**11月24日**<br>現金自動預金払出機（ATM）、広尾支店に導入 | **4月11日**<br>道知事選挙、横路孝弘が初当選<br>**4月15日**<br>千葉に東京ディズニーランド開園<br>**5月28日**<br>えりも小学校児童が長なわとびでギネスブックに挑戦。90人で97回跳んで世界記録を樹立<br>**6月26日**<br>比例代表制を導入した初の参議院選挙<br>**7月30日**<br>道内最大級の高見ダム完成<br>**9月1日**<br>ソ連がサハリン沖で大韓航空機を撃墜、乗客乗員269人死亡 |
| 1984<br>（昭和59） | **6月1日**<br>本店営業部、日本銀行国債代理店の業務取扱開始<br>**6月4日**<br>広尾支店・山手支店、日本銀行歳入代理店への業務取扱開始<br>**7月14日**<br>「日高しんきん年金友の会」発足<br>**7月23日**<br>本部の組織機構を1室3部制から相談室を新設し、2室3部へ改編<br>**10月15日**<br>大通支店、様似町大通地区に新設オープン<br>**12月31日**<br>預金残高500億円達成 | **1月21日**<br>アイヌ古式舞踊が重要無形民俗文化財に指定<br>**3月18日**<br>怪人二十一面相のグリコ森永事件発生<br>**11月1日**<br>日銀が新たな紙幣を発行。千円券（夏目漱石）、5千円券（新渡戸稲造）、1万円券（福澤諭吉）<br>**11月**<br>広尾町がノルウェーからサンタランドとして認定される |
| 1985<br>（昭和60） | **3月1日**<br>「市場金利連動型預金」取扱開始<br>**3月18日**<br>現金自動預金払出機（ATM）、堺町支店に導入<br>**6月4日**<br>第19回観光積立～つくば科学博と房総日光の旅～<br>**7月15日**<br>歌笛出張所、日本銀行歳入代理店の業務取扱開始<br>**8月5日**<br>庶務規程を廃止し、新たに組織規程を制定<br>**9月28日**<br>新電算システムとして、日立L470電算機にレベルアップ<br>**11月25日**<br>現金自動預金払出機（ATM）、三石支店に導入 | **4月1日**<br>公社民営化で日本電信電話（NTT）、日本たばこ産業（JT）が発足<br>**8月12日**<br>日航ジャンボ機、群馬県山中に墜落、520人死亡<br>**8月**<br>静内に東洋一のセリ市場、北海道市場が完成<br>**9月22日**<br>プラザ合意以降、円高不況に<br>**12月21日**<br>浦河町役場新庁舎・保健センター完成 |
| 1986<br>（昭和61） | **1月6日**<br>「自由金利型定期預金」取扱開始 | **1月28日**<br>米スペースシャトル「チャレンジャー」空中爆発、乗員7人死亡 |



| 西暦（元号） | 日高信用金庫のあゆみ | 社会・地域の動き |
|---|---|---|
| 1986<br>（昭和61） | **1月27日**<br>店舗外現金自動設備として、浦河町役場に「現金自動預金払出機（ATM）」を設置<br>**7月30日**<br>現金自動預金払出機（ATM）、えりも支店に導入<br>**8月11日**<br>「ひだかカードローン・コスモス」の取扱開始<br>**9月**<br>広尾支店、「小さな親切運動」北海道本部から実行賞を贈られる<br>**10月1日**<br>様似町庁舎の移転により、様似町指定金融機関を様似支店から大通支店に移管<br>**10月4日**<br>江差信用金庫と姉妹金庫の提携を結ぶ | **3月1日**<br>第1回アジア冬季競技大会、札幌で開幕<br>**4月1日**<br>「男女雇用機会均等法」施行<br>**4月26日**<br>ソ連チェルノブイリ原子力発電所で大事故<br>**8月10日**<br>静内二十間道路が建設省の「日本の道100選」に選定<br>**8月17日**<br>フジテレビの番組「意地悪ばあさん」が浦河町内でロケ。三波豊和が本店ATMを利用するシーンの撮影 |
| 1987<br>（昭和62） | **3月24日**<br>第20回観光積立～淡路島・鳴門海峡と四国の旅～<br>**5月20日**<br>「地区内景況動向」を毎月発表<br>**10月15日**<br>静専・日高しんきん提携ローン「バラエティローン」等の取扱開始<br>**11月12日**<br>店舗外現金自動設備として、総合病院浦河赤十字病院に「現金自動預金払出機（ATM）」を設置<br>**12月21日**<br>「ひだかしんきん保険ローン」の取扱開始<br>**12月24日**<br>「カーライフプラン」の取扱開始 | **2月2日**<br>国鉄広尾線廃止。「さようなら臨時列車ひろお号」が運行<br>**4月1日**<br>国鉄が分割民営化され、JR6社が発足<br>**6月**<br>民間有志が「浦河アカデミー」を旗揚げ。480人の会員でスタート。9月に第一回講演会を開催（映画評論家の水野晴郎）<br>**10月12日**<br>利根川進、ノーベル生理学・医学賞受賞<br>**11月6日**<br>竹下登内閣発足 |
| 1988<br>（昭和63） | **8月10日**<br>「日高しんきん経営者年金協議会」発足<br>**10月11日**<br>第三次オンライン稼働<br>**12月5日**<br>歌笛出張所、店舗新築<br>**12月26日**<br>全店にテレファックス設置 | **1月2日**<br>浦河神社で新春騎馬参拝（明治40年以来）<br>**1月27日**<br>全信協、ディスクロージャー統一開示基準を制定<br>**3月13日**<br>青函トンネル開業、青函連絡船廃止<br>**4月1日**<br>マル優制度廃止。預貯金利子20%課税<br>**4月**<br>映画『優駿』静内町内で長期ロケ<br>**7月20日**<br>新千歳空港（民間専用空港）開港<br>**7～9月**<br>広尾町で十勝海洋博覧会開催 |
| 1989<br>（昭和64／平成元） | **2月1日**<br>職員60歳定年制採用（従来55歳）<br>**2月4日**<br>完全週休2日制実施<br>**2月4日**<br>本店営業部土曜休日のATM稼働<br>**2月6日**<br>全店の窓口第一線完結処理システム（ADDS、ADDシステム）設置<br>**3月12日**<br>第21回観光積立～山陰・山陽の旅～<br>**3月18日**<br>全店にワープロ設置<br>**4月30日**<br>本部の組織機構を2室3部制から業務推進部を業務推進部と事務管理部へ分割し、2室4部制へ改編<br>**6月5日**<br>市場金利連動型定期預金（スーパーMMC）取扱開始<br>**7月3日**<br>地域オンライン提携業務の取扱開始 | **1月7日**<br>昭和天皇崩御、平成と改元<br>**1月20日**<br>ジョージ・H・W・ブッシュが米大統領に就任<br>**4月1日**<br>消費税スタート（3%）<br>**6月**<br>市場金利連動型定期預金（小口MMC）導入<br>**6月3日**<br>宇野宗佑内閣発足<br>**6月22日**<br>北電泊原発1号機が発電開始<br>**8月10日**<br>海部俊樹内閣発足<br>**9月18日**<br>はまなす国体馬術競技会を浦河町で開催。浦河町より3選手出場し、北海道総合優勝<br>**11月9日**<br>東西ベルリンの壁崩壊 |

| 西暦（元号） | 日高信用金庫のあゆみ | 社会・地域の動き |
|---|---|---|
| 1989<br>（昭和64／平成元） | **9月28日**<br>預金残高700億円達成<br>**12月30日**<br>えりも支店、広尾支店、土曜休日のATM稼働 | **12月29日**<br>日経平均株価、38,915円と史上最高値を記録 |
| 1990<br>（平成2） | **3月12日**<br>「事業者カードローン」の取扱開始<br>**3月17日**<br>大通支店、土曜休日のATM稼働<br>**4月2日**<br>静内支店新築<br>**4月9日**<br>第22回観光積立～南紀一周と花の万博の旅～<br>**6月5日**<br>「ひだかしんきん年金保険料ローン」の取扱開始<br>**7月2日**<br>現金自動預金払出機（ATM）、山手支店に導入<br>**7月2日**<br>全国キャッシュサービス（MICS）の取扱開始<br>**7月15日**<br>第40回全道信金野球大会道央地区予選大会、浦河町で開催。当金庫が優勝<br>**9月22日**<br>三石支店、土曜休日のATM稼働<br>**11月5日**<br>「新型スーパーMMC」の取扱開始 | **1月13日**<br>第1回大学入試センター試験実施<br>**3月1日**<br>二十間道路桜並木が「さくら名所100選」に選定される<br>**6月27日**<br>「スパイクタイヤ粉じんの発生の防止に関する法律」公布<br>**8月2日**<br>イラクがクウェートへ侵攻<br>**8月25日・26日**<br>浦河町で第1回全国市町村ホースサミット開催<br>**9月25日**<br>浦河町と広尾町を結ぶ野塚トンネル（4,232m）開通<br>**10月1日**<br>日経平均株価2万円割れ、バブル経済はじける<br>**10月3日**<br>41年ぶりに東西ドイツ統一<br>**12月2日**<br>TBS記者・秋山豊寛がソ連の宇宙船ソユーズで日本人として初めて宇宙へ |
| 1991<br>（平成3） | **1月10日**<br>「日高しんきん事業用車両ローン」の取扱開始<br>**3月31日**<br>第23回観光積立<br>～北陸・金沢・能登半島と飛騨の里高山めぐり6日間～<br>**4月13日**<br>創立年記念日（各店で創立70周年の内祝会開催）<br>**5月13日**<br>奥田理事長、勲四等旭日小綬章を受章する<br>**6月3日**<br>両替業務取扱、大蔵大臣の認可を受ける<br>**6月3日**<br>創立70周年記念定期積金「ステップ」を発売<br>**6月12日**<br>キャラクター「ラン」を制定<br>**7月1日**<br>両替業務取扱開始<br>**8月30日**<br>「ダイヤプラン21」第二地区会議、室蘭信金で開催<br>**9月21日**<br>創立70周年記念ゴルフ大会開催<br>**9月30日**<br>第70期上期決算、預金残高770億円達成<br>**10月5日**<br>創立70周年記念式典挙行<br>**11月16日**<br>創立70周年記念文化講演会開催<br>（講師：(株)オリエンタルランド常務取締役　北村和久氏） | **1月17日**<br>湾岸戦争勃発。米英を軸とする多国籍軍がイラクへの攻撃を開始<br>**3月1日**<br>浦河・様似・えりもの3農協が広域合併、ひだか東農業協同組合が発足<br>**3月2日**<br>札幌でアジア初の冬季ユニバーシアード開幕<br>**4月1日**<br>牛肉・オレンジの輸入自由化<br>**6月3日**<br>長崎県雲仙普賢岳で大規模火砕流が発生<br>**9月17日**<br>北海信用金庫と長万部信用金庫が合併<br>**9月19日**<br>国道274号（札幌ー帯広）、石勝樹海ロード全通<br>**11月5日**<br>宮澤喜一内閣発足<br>**11月5日**<br>銀行等「自由金利定期預金（スーパー定期）」を発売。300万円以上の預金の金利が完全に自由化<br>**12月25日**<br>ゴルバチョフが大統領を辞任、ソビエト連邦崩壊 |
| 1992<br>（平成4） | **3月10日**<br>第24回観光積立～沖縄・石垣島の旅～<br>**3月31日**<br>第70期決算、預金残高73,067百万円、貸出金残高42,041百万円、出資金345百万円、会員8,344名<br>**3月**<br>営業エリア7町へ地域還元寄付を実施 | **5月1日**<br>国家公務員の完全週休2日制を実施<br>**9月12日**<br>毛利衛搭乗のスペースシャトル、エンデバー打ち上げ<br>**9月17日**<br>初のPKO部隊、カンボジアへ出発<br>**11月11日**<br>松竹映画『結婚』、浦河ロケ |



| 西暦（元号） | 日高信用金庫のあゆみ | 社会・地域の動き |
|---|---|---|
| 1992<br>（平成4） | **6月22日**<br>「貯蓄預金（40万円型、20万円型）」の取扱開始<br>「市場金利連動型定期積金（スーパー定積）」の取扱開始<br>「ひだかしんきん定期性総合口座」の取扱開始<br>**7月21日**<br>本部の組織機構を2室4部制から企画情報室を新設し、3室4部制へ改編<br>**8月1日**<br>歌笛出張所、歌笛支店に昇格<br>**8月22日**<br>全道信用金庫野球大会で日高信金が準優勝 | |
| 1993<br>（平成5） | **2月1日**<br>「変動金利貸出金」の取扱開始<br>**3月9日**<br>第25回観光積立～ゆったり九州の旅～<br>**6月21日**<br>定期預金金利完全自由化される<br>**8月1日**<br>本部の組織機構を3室4部制から審査管理部を融資審査部と融資管理部へ分割し3室5部制へ改編<br>**9月10日**<br>「ひだかしんきんリフォームローン」の取扱開始<br>**10月18日**<br>「変動金利定期預金」の取扱開始<br>**10月**<br>全道信金卓球大会で日高信金が3年連続準優勝 | **1月20日**<br>クリントンが米大統領に就任<br>**5月15日**<br>プロサッカーのJリーグ開幕<br>**6月9日**<br>徳仁皇太子殿下、雅子妃殿下とご成婚<br>**6月17日**<br>様似高等学校が本店で職場体験実習<br>**7月12日**<br>北海道南西沖地震（M7.8）、奥尻町と北海道日本海側に津波被害。死者202人、行方不明29人<br>**7月14日**<br>日本中央競馬会が浦河町に東洋一の日高育成総合施設軽種馬育成調教場を開場<br>**8月9日**<br>細川護熙内閣発足<br>**11月1日**<br>欧州連合（EU）発足<br>米の作況指数74となり「平成の米騒動」と呼ばれる事態に |
| 1994<br>（平成6） | **3月14日**<br>第26回観光積立～天橋立・奈良・京都の旅～<br>**6月21日**<br>ひだかしんきん友の会10周年記念式典開催<br>**8月20日**<br>全道信用金庫野球大会で日高信金が準優勝<br>**10月17日**<br>要求性預金金利の自由化により預金金利完全自由化される | **2月4日**<br>初の純国産ロケットH2の第1号機打ち上げ成功<br>**4月28日**<br>羽田空内閣発足<br>**5月6日**<br>英仏間のユーロトンネル（全長50km）開通式<br>**6月30日**<br>村山富市内閣発足<br>**7月19日**<br>萱野茂、アイヌ民族初の参議院議員に<br>**10月13日**<br>大江健三郎、ノーベル文学賞受賞 |
| 1995<br>（平成7） | **2月1日**<br>懸賞金付定期預金2ユニット20億円発売<br>**3月1日**<br>阪神復興スーパー定期預金の取扱開始<br>**3月6日**<br>第27回観光積立～新四国紀行～<br>**7月3日**<br>本店にコスモス館増築<br>**9月**<br>日英両語で画面操作できるバイリンガル機能を搭載したATMを道内金融機関で初めて導入<br>**11月1日**<br>プレミアム金利付定期預金の取扱<br>**11月16日**<br>本店のしんきん館を改装 | **1月17日**<br>阪神淡路大震災（M7.3）、死者6,434人<br>**1月27日**<br>浦河映画サークル、道地域文化選奨特別賞を受賞<br>**3月20日**<br>地下鉄サリン事件発生、12人死亡<br>**4月9日**<br>道知事選で堀達也が初当選<br>**11月23日**<br>マイクロソフトウィンドウズ95発売 |

| 西暦（元号） | 日高信用金庫のあゆみ | 社会・地域の動き |
|---|---|---|
| 1996<br>（平成8） | **2月1日**<br>懸賞金付定期預金3ユニット30億円発売<br>**2月1日**<br>年金受給者向け優遇商品「ふれ愛定期預金」の発売<br>**2月6日**<br>浦河赤十字病院へ在宅介護巡回車および介護機器贈呈<br>**2月28日**<br>懸賞金付定期預金1ユニット10億円追加発売<br>**3月11日**<br>第28回観光積立～花の伊豆大島と伊豆湯めぐり～<br>**10月24日**<br>三石支店、店舗改修<br>**10月24日**<br>堺町支店ATMコーナー改修 | **1月11日**<br>橋本龍太郎内閣発足<br>**2月10日**<br>古平町の豊浜トンネルで岩盤崩落事故、20人死亡<br>**4月1日**<br>浦河町総合文化会館・浦河町立図書館開館<br>**10月20日**<br>初の小選挙区比例代表並立制の総選挙<br>**11月**<br>種牡馬ラムタラ号を日高軽種馬生産者が44億円のシンジケートを組んで購入。全国的な話題となる<br>**12月17日**<br>ペルー日本大使館公邸人質事件 |
| 1997<br>（平成9） | **2月1日**<br>懸賞金付定期預金4ユニット40億円発売<br>**3月3日**<br>消防関係車両寄贈（日高東部消防組合えりも支署）<br>**3月10日**<br>第29回観光積立～台湾彩菜～<br>**3月18日**<br>懸賞金付定期預金1ユニット10億円追加発売<br>**4月28日**<br>第六代理事長奥田惣兵衛、会長に就任<br>金子洋一、第七代理事長に就任<br>**6月1日**<br>えりも支店ATM新機種に入替<br>**6月9日**<br>ポスト第三次オンラインシステム新端末機設置<br>**6月30日**<br>えりも支店、店舗改修<br>**7月22日**<br>各カード会社との現金自動預入支払機等による<br>キャッシングサービス取扱開始<br>**11月4日**<br>国道236号開通記念ネーミング定期積金<br>「天馬街道」募集 | **1月2日**<br>ロシア船籍ナホトカ号重油流出事故<br>**3月11日**<br>東海村の核燃料再処理工場内で爆発事故<br>**4月1日**<br>消費税5%に引き上げ<br>**5月8日**<br>「アイヌ新法」成立（7月1日施行）<br>**6月1日**<br>襟裳岬に「風の館」オープン<br>**7月1日**<br>香港、中国に返還<br>**9月25日**<br>日高と十勝を結ぶ国道236号「天馬街道」開通<br>**10月13日**<br>北海信金と岩内信金が合併<br>**11月17日**<br>北海道拓殖銀行が経営破綻<br>**11月24日**<br>山一證券が経営破綻、自主廃業<br>**12月11日**<br>気候変動枠組条約締約国会議で京都議定書を採択<br>**12月17日**<br>「介護保険法」公布 |
| 1998<br>（平成10） | **1月16日**<br>消防関係車両寄贈（南十勝消防事務組合広尾消防署）<br>**2月2日**<br>懸賞金付定期預金5ユニット50億円発売<br>**3月14日**<br>第30回観光積立～デラックスハワイ6日間～<br>**3月24日**<br>日赤病院内ATMコーナー改装及び新機種に入替、<br>稼働時間午後6時迄延長<br>**7月28日**<br>消防関係車両寄贈（日高中部消防組合静内消防署）<br>**8月24日**<br>堺町支店、店舗改修<br>**12月8日**<br>静内支店ATM硬貨入出金機能付新機種に入替 | **2月7日**<br>冬季オリンピック長野大会開幕<br>**4月25日**<br>うらかわ優駿ビレッジAERU、グランドオープン<br>**6月16日**<br>浦河町非核・平和の町宣言<br>**6月22日**<br>大蔵省の民間金融機関等の検査監督業務を分離し、<br>金融監督庁が発足<br>**7月30日**<br>小渕恵三内閣発足<br>**10月12日**<br>「金融再生関連法」成立<br>**10月23日**<br>日本長期信用銀行を国有化<br>**11月16日**<br>北海道拓殖銀行の道内の営業が北洋銀行に譲渡される<br>**12月2日**<br>新冠温泉レ・コードの湯オープン<br>**12月13日**<br>日本債券信用銀行を国有化<br>**12月20日**<br>北海道国際航空（エア・ドゥ）が新千歳～羽田線に就航 |



| 西暦（元号） | 日高信用金庫のあゆみ | 社会・地域の動き |
|---|---|---|
| 1999<br>（平成11） | **1月25日**<br>(株)ヒダカファイナンスへATM開放開始<br>**2月8日**<br>西暦2000年問題対策委員会発足<br>**2月22日**<br>ファームバンキングサービスの取扱時間延長と<br>休日稼働を開始<br>**3月14日**<br>第31回観光積立～よくばり「南九州」の旅～<br>**4月3日**<br>ATM土曜日稼働時間を午後5時迄延長<br>**4月4日**<br>ATM日・祝日稼働開始（本店営業部、静内支店）<br>**7月19日**<br>「日高しんきん地域活性化ふれ愛融資」取扱開始<br>**8月21日**<br>全道信用金庫野球大会で日高信金が準優勝<br>**9月13日**<br>様似支店、店舗新築<br>**10月6日**<br>消防関係車両寄贈（日高中部消防組合三石支署）<br>**11月8日**<br>為替集中システム運用開始<br>**12月31日**<br>コンピュータの誤作動を警戒し27人が宿直<br>元旦早朝から作動テスト | **1月1日**<br>欧州単一通貨ユーロ、11カ国で導入<br>**2月12日**<br>日本銀行、ゼロ金利政策の導入を決定<br>**3月12日**<br>大手15行に総額7兆円超の公的資金を注入<br>**6月23日**<br>「男女共同参画社会基本法」施行<br>**8月13日**<br>「国旗国歌法」施行<br>**9月30日**<br>東海村JCOで国内初の臨界事故<br>**10月12日**<br>世界人口60億を突破<br>**12月31日**<br>コンピュータの西暦2000年問題 |
| 2000<br>（平成12） | **2月1日**<br>懸賞金付定期預金5ユニット50億円発売<br>**3月6日**<br>デビットカードサービス取扱開始<br>**3月21日**<br>第32回観光積立～国際花と緑の博覧会見学と<br>明石海峡大橋・しまなみ街道の旅6日間～<br>**4月3日**<br>テレホンバンキングサービス開始<br>**4月28日**<br>道内信用金庫ATM顧客手数料の無料化実施に参加<br>**5月15日**<br>郵貯ATMとの相互接続開始<br>**7月12日・13日**<br>全道信用金庫理事長会議を浦河町にて開催<br>**7月24日**<br>納税準備預金「納太郎（おさめたろう）」の取扱開始<br>**12月4日**<br>全国信用金庫ATM顧客手数料の無料化実施に参加<br>**12月20日**<br>消防関係車両寄贈（日高中部消防組合新冠支署） | **1月15日**<br>うらかわ温泉あえるの湯オープン<br>**2月27日**<br>浦河町民ミュージカル「ルピナスの丘」公演<br>**3月31日**<br>有珠山、23年ぶりに噴火<br>**4月1日**<br>公的介護保険制度スタート<br>**4月5日**<br>森喜朗内閣発足<br>**7月1日**<br>金融監督庁と大蔵省金融企画局を統合し、金融庁発足<br>**7月19日**<br>九州・沖縄サミットを記念して、日銀が二千円札を発行<br>（首里城の守礼門）<br>**9月11日**<br>沖合底引網漁船「第五龍寶丸」浦河沖で沈没<br>**10月1日**<br>全信連、「信金中央金庫」に名称変更<br>**10月10日**<br>白川英樹、ノーベル化学賞受賞<br>**12月1日**<br>BSデジタル本放送開始<br>**12月9日**<br>日高定置漁業者組合が日高産サケ統一ブランド名<br>「銀聖」のキャラクターデザイン決定 |
| 2001<br>（平成13） | **3月5日**<br>スポーツ振興くじ（サッカーくじ）の払い戻し業務開始<br>**3月13日**<br>第33回観光積立～シンガポール・香港6日間～<br>**4月10日**<br>本部の組織機構を3室5部制から1室4部制へ改編<br>**4月13日**<br>創立80周年記念日<br>**4月16日**<br>モバイルバンキングサービス取扱開始 | **1月6日**<br>1府12省庁の中央省庁体制がスタート<br>**1月20日**<br>ジョージ・W・ブッシュが米大統領に就任<br>**3月19日**<br>根室信金と厚岸信金が合併、大地みらい信金が誕生<br>**3月**<br>NHK「プロジェクトX」でえりも岬緑化が放映される<br>**4月1日**<br>ペイオフの一部開始 |

| 西暦（元号） | 日高信用金庫のあゆみ | 社会・地域の動き |
|---|---|---|
| 2001<br>（平成13） | **6月1日**<br>創立80周年記念「懸賞金付定期預金〈わくわく〉」「グルメ付定期積金〈お楽しみ味〉」発売<br>**6月16日**<br>塩出諭、第八代理事長に就任<br>**7月7日**<br>創立80周年しんきん講演会開催（講師：フリーアナウンサー橋本登代子氏）<br>**8月21日**<br>損害保険窓販業務取扱開始<br>**9月3日**<br>苫小牧日商連クレジットへATM開放開始<br>**9月16日**<br>創立80周年記念ゴルフ大会開催<br>**9月19日**<br>創立80周年記念パークゴルフ大会開催<br>**9月21日**<br>創立80周年記念ゲートボール大会開催<br>**9月28日**<br>預金残高1,000億円達成<br>**10月2日**<br>消防関係車両寄贈（日高東部消防組合浦河消防署）<br>**11月10日**<br>創立80周年記念式典挙行 | **4月26日**<br>小泉純一郎内閣発足<br>**9月11日**<br>米ニューヨークなどでアメリカ同時多発テロ事件<br>**10月1日**<br>静内町営乗馬施設「ライディングヒルズ静内」開設<br>**10月9日**<br>北海信金が道央信金、夕張信金と合併<br>**10月10日**<br>野依良治、ノーベル化学賞受賞<br>**11月20日**<br>米大リーグ、イチロー外野手がMVP獲得<br>**11月21日**<br>北海道でBSE（牛海綿状脳症）の牛を確認 |
| 2002<br>（平成14） | **2月9日**<br>懸賞金付定期預金5ユニット50億円発売<br>**3月31日**<br>第80期決算、預金残高94,386百万円、貸出金残高41,027百万円、出資金351百万円、会員8,662名<br>**5月19日**<br>第34回観光積立<br>～「中国」北京・西安・桂林・上海8日間の旅～<br>**9月2日**<br>コンピュータシステムを汎用機からPCサーバーへ入替<br>**10月1日**<br>生命保険（変額）窓販業務取扱開始<br>**10月8日**<br>消防関係車両寄贈（日高東部消防組合様似支署）<br>**12月20日**<br>パセオ堺町店内に店舗外ATM設置 | **1月1日**<br>欧州単一通貨ユーロの流通開始<br>**1月4日**<br>旭川信金と富良野信金が合併<br>**4月1日**<br>ペイオフ解禁<br>**5月31日**<br>FIFAサッカーW杯日韓共同開催<br>**6月23日**<br>YOSAKOIソーラン祭りで「三石なるこ会」が大賞を受賞<br>**9月7日**<br>ミュージカル映画『走れ！ケッタマシン～ウェディング狂騒曲～』を浦河町総合文化会館で上映。小中学生を招待<br>**10月8日**<br>小柴昌俊がノーベル物理学賞受賞<br>**10月9日**<br>田中耕一がノーベル化学賞受賞<br>**10月15日**<br>北朝鮮による拉致被害者5人が24年ぶりで帰国 |
| 2003<br>（平成15） | **3月5日**<br>第35回観光積立～日本最南端波照間島と沖縄8島めぐり～<br>**3月10日**<br>本部の組織機構を1室4部制から調査法務部を新設し、1室5部制へ改編<br>**3月18日**<br>当金庫ホームページを公開<br>**7月10日**<br>マックスバリュ静内店内に店舗外ATM設置<br>**8月1日**<br>ひだかカードローン「しんきん・きゃっする」取扱開始<br>**8月9日**<br>奥田惣兵衛会長が死去<br>**8月28日**<br>「リレーションシップバンキングの機能強化計画」を策定<br>**9月1日**<br>事業者向け融資「コレ、つかって」取扱開始<br>**10月4日**<br>三石支店移転オープン | **1月1日**<br>札幌信金と石狩中央信金が合併<br>**2月1日**<br>スペースシャトルコロンビア空中分解、乗組員7人死亡<br>**3月20日**<br>イラク戦争勃発<br>**4月1日**<br>日本郵政公社が発足<br>**4月13日**<br>道知事選で高橋はるみが初当選<br>**4月28日**<br>日経平均株価がバブル後最安値を更新（7,607円88銭）<br>**5月23日**<br>「個人情報保護法」成立<br>**6月19日**<br>JR日高線開業90周年企画で静内一様似間にお座敷列車走る<br>**9月26日**<br>十勝沖地震（M8.0）。日高・十勝を中心に停電<br>**12月1日**<br>地上デジタルテレビ放送開始 |



| 西暦（元号） | 日高信用金庫のあゆみ | 社会・地域の動き |
|---|---|---|
| 2004<br>（平成16） | **3月1日**<br>「ひだかしんきんアパートローン」取扱開始<br>**3月13日**<br>第36回観光積立～ユニバーサルスタジオ（大阪）と京都・北陸の旅～<br>**4月**<br>国民生活金融公庫、中小企業金融公庫と業務提携<br>**6月**<br>2004年版カレンダーが全信懇信用金庫PRコンクールで優秀賞を受賞<br>**6月14日**<br>アイワイバンク銀行（現セブン銀行）とATM提携<br>**7月1日**<br>「しんきんビジネス・マッチングサービス」取扱開始<br>**7月26日**<br>日高しんきん事業資金融資「サポート2004」取扱開始<br>**10月1日**<br>全国銀行個人信用情報センターへ加盟<br>**10月19日**<br>日高しんきん友の会創立20周年記念祝賀会を様似町中央公民館で開催。会員352名が出席した。金庫職員が演じた「オレオレ詐欺」の寸劇が好評を受け、STVニュースに取り上げられた。<br>**11月1日**<br>決済用普通預金取扱開始 | **4月2日**<br>日本ハムファイターズが北海道に本拠地を移転し、札幌ドームで初の公式戦<br>**6月8日**<br>映画『北の零年』で吉永小百合らが静内ロケ<br>**8月22日**<br>夏の甲子園で駒大苫小牧高校が優勝<br>北海道・東北勢では史上初<br>**11月2日**<br>東北楽天ゴールデンイーグルス誕生<br>**11月12日**<br>静内二十間道路の桜並木が「北海道遺産」に認定<br>**12月26日**<br>スマトラ島沖地震（M9.1）、巨大津波により死者・行方不明者は22万人以上 |
| 2005<br>（平成17） | **3月22日**<br>第37回観光積立～ハワイ島とホノルルの旅～<br>**4月1日**<br>日高しんきん事業資金融資「サポート融資」取扱開始<br>**6月14日**<br>「日高しんきん未来塾」開講<br>**6月23日**<br>澤谷英勝専務理事、全信協が主催する信用金庫社会貢献賞の個人賞を受賞<br>**7月1日**<br>本部の組織機構を1室5部制から1室2部制（営業推進本部、経営統括本部）へ改編<br>**7月11日**<br>日高しんきん商工会議所・商工会メンバーズ「VIPローン」取扱開始<br>**10月3日**<br>印鑑照合システム導入<br>**10月31日**<br>（社）中小企業診断協会北海道支部と業務提携契約締結 | **2月14日**<br>北海信金と古平信金が合併<br>**4月1日**<br>ペイオフ全面解禁<br>**4月1日**<br>門別町・新冠・静内・三石の4漁協が合併し「ひだか漁業協同組合」が発足<br>**4月1日**<br>全国唯一の有人灯台だった襟裳岬灯台が無人化<br>**4月25日**<br>兵庫県のJR西日本・福知山線で脱線事故。死者107人<br>**7月17日**<br>知床、世界自然遺産に登録<br>**11月17日**<br>耐震強度偽装問題発覚<br>**11月27日**<br>横綱・朝青龍が史上初7連覇。年間6場所完全制覇<br>**12月15日**<br>ダイエー静内店が閉店 |
| 2006<br>（平成18） | **2月10日**<br>WEBバンキングサービス取扱開始<br>**3月14日**<br>第38回観光積立～ローマ・パリ満喫の旅～（旅行中止）<br>**4月3日**<br>様似支店のサテライト化実施<br>**7月1日**<br>（株）北海道しんきん情報サービス為替発信業務委託<br>**8月28日**<br>札幌事務所オープン<br>**9月1日**<br>「オリコ・マイカーローン」取扱開始 | **2月6日**<br>忠類村が幕別町に編入<br>**3月20日**<br>第1回ワールドベースボールクラシックで日本代表が優勝<br>**3月31日**<br>静内町、三石町が合併し「新ひだか町」が誕生<br>町名は一般からの公募で決定<br>**9月26日**<br>安倍晋三内閣発足<br>**10月26日**<br>北海道日本ハムファイターズ、44年ぶりの日本一に |
| 2007<br>（平成19） | **3月14日**<br>第39回観光積立～山陰・山陽の6日間～<br>**4月2日**<br>「ひだかしんきん固定金利特約型ハウスローン」取扱開始<br>**7月6日**<br>歌笛支店営業終了、歌笛出張所ATM稼働開始 | **7月10日**<br>大リーグオールスター戦、イチロー選手が日本人初MVP獲得<br>**9月26日**<br>福田康夫内閣発足<br>**10月1日**<br>郵政民営化により「ゆうちょ銀行」が発足 |

| 西暦（元号） | 日高信用金庫のあゆみ | 社会・地域の動き |
|---|---|---|
| 2007<br>（平成19） | **9月10日**<br>札幌支店オープン<br>**9月10日**<br>札幌支店オープン記念キャンペーン定期預金を発売 | **10月9日**<br>名寄信金と士別信金が合併し「北星信金」に |
| 2008<br>（平成20） | **3月3日**<br>消費者ローン「ひだかしんきんリピートプラン」取扱開始<br>**3月14日**<br>第40回観光積立～中九州6日間の旅～<br>**4月1日**<br>札幌支店プレミアム定期預金を発売<br>**6月17日**<br>第八代理事長塩出諭、相談役に就任<br>髙田豊則、第九代理事長に就任<br>**9月1日**<br>札幌支店開設1周年記念キャンペーン定期預金を発売<br>**11月1日**<br>第三分野保険商品（がん・医療保険）取扱開始<br>**12月24日**<br>信金キャピタル（株）、（株）日本M&Aセンター、<br>（株）さくら総合M&Aセンター3社と<br>M&A仲介業務提携締結 | **1月21日**<br>伊達信金と室蘭商工信組が合併<br>**7月7日**<br>北海道洞爺湖サミット開催<br>**9月15日**<br>米の投資銀行経営破綻によるリーマン・ショック発生<br>**9月24日**<br>麻生太郎内閣発足<br>**10月7日**<br>南部陽一郎、小林誠、益川敏英、ノーベル物理学賞受賞<br>**10月8日**<br>下村脩、ノーベル化学賞受賞<br>**10月14日**<br>北洋銀行と札幌銀行が合併<br>**12月8日**<br>アポイ岳が日本ジオパークに認定<br>**12月26日**<br>堺町支店信金同友会が堺町小学校に図書費を寄贈 |
| 2009<br>（平成21） | **2月2日**<br>「しんきん携帯電子マネーチャージサービス」および<br>「ネット口座振替受付サービス」取扱開始<br>**2月2日**<br>投資信託業務取扱開始<br>（本店営業部、静内支店、札幌支店）<br>**3月14日**<br>第41回観光積立～香港・マカオ満喫の旅～<br>**6月1日**<br>投資信託業務全店取扱開始<br>**7月8日**<br>北海道日高支庁（現北海道日高振興局）との<br>包括連携協定締結<br>**7月13日**<br>為替集中システムスキャナー移行<br>**9月1日**<br>共通印鑑制度導入<br>**9月1日**<br>標準傷害保険「しんきんの傷害保険」発売開始<br>**11月3日**<br>塩出諭前理事長、旭日双光章受章 | **1月20日**<br>バラク・オバマが米大統領に就任<br>**3月10日**<br>日経平均株価がバブル崩壊後最安値を更新<br>（7,054円98銭）<br>**5月21日**<br>裁判員制度がスタート<br>**9月1日**<br>消費者庁発足<br>**11月24日**<br>北見信金と紋別信金が合併 |
| 2010<br>（平成22） | **3月9日**<br>第42回観光積立～オーストラリア「ケインズの休日6日間」～<br>**5月1日**<br>預金口座振替依頼書イメージ登録システム導入<br>**8月6日**<br>新ひだか町静内地区および様似地区の店舗統合を実施、<br>山手支店および大通支店営業終了<br>**8月9日**<br>本部の組織機構を1室2部制から6部制へ改編<br>**9月10日**<br>「日高信金プレ90周年記念定期預金」発売<br>**10月1日**<br>「創立プレ90周年記念教育ローン」発売<br>**11月25日**<br>障がい者に対する窓口扱い振込手数料引き下げ実施 | **4月1日**<br>北海道14支庁が9総合振興局、5振興局に再編<br>**6月8日**<br>菅直人内閣発足<br>**6月13日**<br>小惑星探査機はやぶさ、地球に帰還<br>**10月5日**<br>日本銀行、実質的ゼロ金利政策導入発表<br>**10月6日**<br>根岸英一、鈴木章、ノーベル化学賞受賞 |



| 西暦（元号） | 日高信用金庫のあゆみ | 社会・地域の動き |
|---|---|---|
| 2011<br>（平成23） | **1月17日**<br>日高信用金庫ホームページリニューアル<br>**3月14日**<br>「東北地方太平洋沖地震災害復興特別融資」を創設<br>**3月15日**<br>全国保証（株）住宅ローン保証制度の取扱開始<br>**3月18日**<br>日高信用金庫学生モニター制度創設<br>**3月22日**<br>視覚障がい者対応ハンドセット付ATM導入<br>**4月1日**<br>融資統合システム本稼働<br>**4月1日**<br>創立90周年記念カーライフキャンペーン実施<br>**4月1日**<br>創立90周年記念住宅ローン特別増強運動実施<br>**4月1日**<br>日高しんきん創立90周年記念定期預金発売<br>**4月12日**<br>第43回観光積立～「桜紀行 佐渡・北陸満喫の旅」～<br>**4月13日**<br>創立記念日、各店来店者へ記念品配布<br>**4月**<br>各町に植樹と特別養護老人ホームへ車いす寄贈（4/27 ～6/5）<br>**5月4日**<br>新ひだか町にて、静内ロータリークラブ共催「静内ロータリークラブ・日高しんきん杯桜舞サッカーフェスティバル」開催<br>**6月15日**<br>日高しんきん創立90周年記念　傷害保険付定期積金（フラット型）発売<br>**7月1日**<br>創立90周年記念懸賞金付定期預金「NEW！スーパーチャンス」発売<br>**8月1日**<br>創立90周年記念教育ローン特別増強キャンペーン実施<br>**9月1日**<br>日高しんきん創立90周年記念定期預金（第2弾）発売<br>**9月2日**<br>浦河町にて「創立90周年記念ゲートボール大会」開催<br>**9月3日・4日**<br>浦河町にて「日高しんきん杯少年軟式野球大会」開催<br>（途中雨天中止）<br>**9月9日**<br>浦河町にて「創立90周年記念パークゴルフ大会」開催<br>**10月1日**<br>新ひだか町三石にて「創立90周年記念チャリティーゴルフ大会」開催<br>**10月22日**<br>日高信用金庫創立90周年記念式典・講演会開催<br>（講師：アグネス・チャン氏）<br>**11月25日**<br>ひだかしんきん創立90周年記念旅行～思い出作りの旅～を実施<br>**11月25日**<br>第46回観光積立<br>**12月9日**<br>創立90周年記念懸賞金付定期預金<br>「NEW！スーパーチャンス」発売 | **3月11日**<br>東日本大震災（M9.0）が発生<br>東電福島第一原子力発電所でメルトダウン事故<br>**5月27日**<br>JR北海道、石勝線トンネル内で脱線炎上事故<br>**6月24日**<br>小笠原諸島、世界遺産登録決定<br>**6月26日**<br>平泉、世界遺産登録決定<br>**7月17日**<br>FIFA女子W杯、なでしこジャパンが優勝<br>**9月2日**<br>野田佳彦内閣発足<br>**9月21日**<br>日高産品取引商談会「2011ビジネスマッチングin日高」開催 |
| 2012<br>（平成24） | **3月31日**<br>第90期決算、預金残高105,433百万円、貸出金残高44,653百万円、出資金346百万円、会員8,421名<br>**3月31日**<br>歌笛出張所ATM稼働終了<br>**4月4日**<br>第45回観光積立～「桜紀行 南紀・白浜満喫の旅」～ | **3月31日**<br>地上アナログ放送が終了、完全デジタル化<br>**5月22日**<br>東京スカイツリー開業（高さ634m）<br>**10月8日**<br>山中伸弥、ノーベル生理学・医学賞受賞 |

| 西暦（元号） | 日高信用金庫のあゆみ | 社会・地域の動き |
|---|---|---|
| 2012<br>（平成24） | **6月**<br>2012年版カレンダーが全信懇信用金庫PRコンクールで優秀賞を受賞<br>**11月1日**<br>ICキャッシュカード取扱開始<br>**12月21日**<br>「経営革新等支援機関」として認定を受ける | **12月26日**<br>第2次安倍晋三内閣発足 |
| 2013<br>（平成25） | **2月4日**<br>しんきん電子記録債権サービス取扱開始<br>**4月17日**<br>第46回観光積立～旧中山道・中部地方満喫の旅～<br>**5月**<br>「ひだかしんきん地域支援ネットワーク」設立<br>**6月18日**<br>岡本豊、第十代理事長に就任<br>**10月7日**<br>WEBバンキングのスマホ専用画面の取扱開始 | **6月26日**<br>富士山、世界遺産に登録<br>**12月13日**<br>「特定秘密保護法」公布 |
| 2014<br>（平成26） | **8月1日**<br>ひだかしんきん健康サポート預金発売<br>**10月22**<br>「日高しんきん年金友の会創立30周年記念式典」および「伍代夏子歌謡ショー」を実施<br>**11月17日**<br>WEBバンキング専用セキュリティソフトを提供 | **2月7日**<br>ソチオリンピック開幕。浦河町初のオリンピック選手、ウイリアムソン師円選手が出場<br>**4月1日**<br>消費税8%に引き上げ<br>**10月7日**<br>中村修二、赤崎勇、天野浩がノーベル物理学賞受賞 |
| 2015<br>（平成27） | **3月15日**<br>全ATMに視覚障がい者対応ハンドセットを導入<br>**4月1日**<br>地方創生サポート室設置<br>**8月3日**<br>空き家サポートローンの取扱開始 | **1月8日**<br>高波による土砂流出で鵡川一様似間のJRが不通に<br>**9月19日**<br>アポイ岳が世界ジオパークに認定<br>**9月30日**<br>集団的自衛権の行使を可能にする「安全保障関連法」公布<br>**10月5日**<br>大村智、ノーベル生理学・医学賞受賞<br>**10月6日**<br>梶田隆章、ノーベル物理学賞受賞<br>**11月13日**<br>パリ同時多発テロ事件 |
| 2016<br>（平成28） | **4月1日**<br>梶川仁、第十一代理事長に就任<br>**6月21日**<br>大沼孝司、第十二代理事長に就任<br>**7月19日**<br>様似町と包括連携協定の締結<br>**8月1日**<br>「アポイ岳ユネスコ世界ジオパーク応援定期預金」発売<br>**11月7日**<br>広尾支店、店舗新築オープン<br>**11月10日**<br>広尾町へ災害救援資材を寄贈<br>**12月1日**<br>ひだかしんきんカードローン「Newきゃっする500」取扱開始<br>**12月6日**<br>アポイ岳ユネスコ世界ジオパーク応援定期預金に係る寄付金を様似町に寄贈 | **1月**<br>日本銀行、マイナス金利の導入を決定<br>**3月26日**<br>北海道新幹線（新青森ー新函館北斗）開業<br>**4月1日**<br>電力の小売り全面自由化<br>**6月19日**<br>民法一部改正により選挙権年齢18歳に引き下げ<br>**8月**<br>観測史上初めて、北海道に1年で三つの台風が上陸<br>**10月3日**<br>大隅良典、ノーベル生理学・医学賞受賞 |
| 2017<br>（平成29） | **2月1日**<br>ひだかしんきんフリーローン「アクア」取扱開始<br>**5月30日**<br>営業店・本部の若手職員11名による創立100周年事業プロジェクトチームが発足<br>**6月1日**<br>インターネットによるローン申込受付開始 | **1月20日**<br>ドナルド・トランプが米大統領に就任<br>**1月23日**<br>江差信金と函館信金が合併し「道南うみ街信金」に<br>**10月5日**<br>カズオ・イシグロ、ノーベル文学賞受賞 |



| 西暦（元号） | 日高信用金庫のあゆみ | 社会・地域の動き |
|---|---|---|
| 2017<br>（平成29） | **7月10日**<br>ひだかしんきん職域サポートローン取扱開始<br>**8月10日**<br>札幌支店オープン10周年記念定期預金発売<br>**11月10日**<br>北海道家庭教育サポート企業等制度の協定締結 | |
| 2018<br>（平成30） | **4月1日**<br>農業分野の専門家と顧問契約の締結<br>**5月16日**<br>創立100周年記念事業実行委員会が発足。委員会は総務部門14名・業務部門14名の役職員全28名により構成された。<br>**8月20日**<br>相続支援システム運用開始<br>**9月28日**<br>浦河町と包括連携協定の締結<br>**9月29日**<br>ミュージカル「松浦武四郎～カイ・大地との約束～」浦河公演に協賛。小中高校生を招待<br>**10月1日**<br>営業支援システム導入 | **1月1日**<br>札幌信金、北海信金、小樽信金が合併し「北海道信金」が誕生<br>**2月9日**<br>平昌オリンピック開幕。浦河町出身のウイリアムソン師円選手と小田卓朗選手が出場<br>**5月19日**<br>カンヌ国際映画祭で是枝裕和『万引き家族』が最高賞のパルム・ドール受賞<br>**9月1日**<br>道内最古の映画館・大黒座が創業100周年<br>**9月6日**<br>胆振東部地震（M6.7）発生、全道ブラックアウト<br>**9月9日**<br>大坂なおみ、全米オープンテニス優勝<br>**10月1日**<br>本庶佑、ノーベル生理学・医学賞受賞 |
| 2019<br>（平成31／令和元） | **2月1日**<br>創立100周年記念誌編集委員会が発足。委員は100周年記念実行委員会総務部門委員を中心とした18名により構成された<br>**3月8日**<br>浦河町でキャッシュレスセミナーを開催<br>**4月1日**<br>岡三証券（株）との顧客紹介に関する業務提携<br>**4月1日**<br>退職金専用定期預金「YOU悠セカンドライフ」発売<br>**4月1日**<br>幸せ春定期発売<br>**6月3日**<br>敷地内全面禁煙を実施<br>**9月25日**<br>「後見制度支援預金」の取扱開始<br>**11月1日**<br>ひだかしんきん通帳アプリ取扱開始<br>**12月2日**<br>創立100周年カウントダウンキャンペーン第1弾「第30回懸賞金付定期預金」を発売。Wチャンスとしてグルメギフトを進呈 | **4月1日**<br>「働き方改革関連法」施行<br>**4月7日**<br>道知事選で鈴木直道が初当選<br>**4月30日**<br>明仁天皇が生前退位<br>**5月1日**<br>徳仁天皇即位。「平成」から「令和」へ改元<br>**8月4日**<br>渋野日向子が全英女子ゴルフ優勝<br>**9月20日**<br>ラグビーW杯、アジアで初めて日本で開催<br>**10月1日**<br>消費税10%に引き上げ<br>**10月9日**<br>吉野彰、ノーベル化学賞受賞 |
| 2020<br>（令和2） | **1月10日**<br>「預金規定」の電子化<br>**3月2日**<br>新型コロナウイルスに関する相談窓口を設置<br>**4月30日**<br>広尾町と包括連携協定の締結<br>**5月12日**<br>新保雄司常務理事が信用金庫社会貢献賞の個人賞を受賞<br>**6月2日**<br>えりも町と包括連携協定の締結<br>**7月1日**<br>創立100周年カウントダウンキャンペーン第2弾「第31回懸賞金付定期預金」発売。コロナ対策として抽選で1,000名の方に当金庫が独自に発行する「ひだかしんきんなないろグルメチケット」を進呈する企画を実施<br>**9月30日**<br>日本銀行国債代理店を廃止 | **1月16日**<br>国内で初めて新型コロナウイルスの患者を確認<br>**1月31日**<br>英国がEU離脱<br>**3月30日**<br>東京オリンピックの1年延期が決定<br>**4月16日**<br>全国に緊急事態宣言<br>**7月15日**<br>浦河町出身の作家・馳星周が「少年と犬」で第163回直木賞を受賞<br>**9月**<br>日高・十勝、道東を中心に国内初確認の植物プランクトンを主な原因とした赤潮により、ウニやサケが死滅する漁業被害が拡大。道の被害額はおよそ90億円以上に上るとした調査結果が報告された |

| 西暦（元号） | 日高信用金庫のあゆみ | 社会・地域の動き |
|---|---|---|
| 2020<br>（令和2） | **12月1日**<br>創立100周年カウントダウンキャンペーン第3弾「第32回懸賞金付定期預金」発売。海・山・大地をキーワードとした地元グルメ「サンキューギフトセット」を抽選で進呈<br>**12月7日**<br>広尾町「あしながサンタメール」に協賛 | **9月16日**<br>菅義偉内閣発足<br>**10月23日**<br>JR北海道と沿線7町が鵡川ー様似間の廃止に合意 |
| 2021<br>（令和3） | **1月27日**<br>新ひだか町と包括連携協定の締結<br>**2月19日**<br>新冠町と包括連携協定の締結<br>**3月26日**<br>預金残高1,500億円達成<br>**4月10日**<br>全店一斉で清掃活動「クリーンアップデー」を実施<br>**4月13日**<br>創立100周年。全店一斉で「お客さま感謝デー」を実施（記念式典は新型コロナウイルス感染症拡大防止から中止）<br>**5月**<br>創立100周年記念事業「ひだかしんきん文庫」を各町で実施<br>**6月1日**<br>ひだかしんきん創立100周年記念旅行預金発売<br>**6月15日**<br>全国統一「信用金庫の日」に来店者に記念品配布<br>**7月1日**<br>創立100周年キャンペーン第1弾「第33回懸賞金付定期預金」発売。抽選で「ひだかしんきんなないろチケット」を進呈する地域応援企画を実施<br>**7月9日**<br>創立100周年記念「記念植樹・桜」をうらかわ優駿ビレッジAERU中庭で実施<br>**7月15日**<br>夏いちごを利用した新商品開発に係るサポート事業を実施<br>**8月11・12日**<br>職員の家族を対象に「お父さんお母さん参観日」を実施<br>**10月1日**<br>ひだかしんきん職域フリーローン取扱開始<br>**10月**<br>札幌支店リニューアルオープン<br>創立100周年記念事業「新規創業者向け助成金」20件に交付<br>創立100周年記念フォトコンテストを実施<br>入賞作品でカレンダーを制作<br>創立100周年記念事業「特別奨学金《カムバック・JIMOTO》」16件に交付<br>**11月**<br>青少年育成事業「お金の授業」を様似小学校、えりも小学校で実施<br>**12月1日**<br>創立100周年キャンペーン第2弾「第34回懸賞金付定期預金」発売。地域応援企画第2弾として抽選で「ひだかしんきんなないろチケット」を進呈<br>**12月14日**<br>広尾町「ひろおサンタカード」へ協賛 | **1月16日**<br>大学入学共通テストがスタート<br>**1月20日**<br>バイデンが米大統領に就任<br>**2月1日**<br>ミャンマーでクーデター<br>**4月1日**<br>JR日高本線の鵡川ー様似間が廃止<br>**7月3日**<br>熱海で大規模な土石流災害<br>**7月23日**<br>東京オリンピックを無観客で開催<br>**9月**<br>太平洋沿岸で赤潮被害<br>**9月12日**<br>初の女子プロサッカーWEリーグ開幕<br>**10月4日**<br>岸田文雄内閣発足<br>**10月5日**<br>真鍋淑郎、ノーベル物理学賞受賞 |
| 2022<br>（令和4） | **1月11～14日**<br>創立100周年記念事業「ひだかしんきん金融学校」小学3～6年生を対象に実施<br>**1月30日**<br>創立100周年記念コンサート「北海道農民管弦楽団浦河公演」を開催<br>**2月25日**<br>札幌方面浦河警察署と包括連携協定の締結 | **2月24日**<br>ロシア軍、ウクライナ侵攻<br>**3月27日**<br>映画『ドライブ・マイ・カー』が米アカデミー賞 国際長編映画賞受賞<br>**4月1日**<br>成年年齢を20歳から18歳に引き下げ |



| 西暦（元号） | 日高信用金庫のあゆみ | 社会・地域の動き |
|---|---|---|
| 2022<br>（令和4） | **3月1日**<br>日本政策金融公庫とのCDSに関する基本契約を締結<br>**3月2日**<br>堺町支店で特殊詐欺を未然に防ぎ、浦河警察署より感謝状<br>**3月31日**<br>第100期決算、預金残高153,131百万円、貸出金残高88,861百万円、出資金360百万円、会員9,944名<br>**3月**<br>創立100周年記念事業「地域還元寄付」実施（新冠町、新ひだか町、浦河町、様似町、えりも町、広尾町の6町へ各1,000万円、総額6,000万円の寄付）<br>**4月1日**<br>広尾支店で昼休み休業を導入<br>**4月1日**<br>ひだかしんきん農業支援ローン「ファームアシスト」取扱開始<br>**4月11日**<br>ひだかしんきん農業支援ローン「ファームサポート」取扱開始<br>**4月15日**<br>インターネットバンキング専用サポート窓口「しんきんEBサポートデスク」のご案内<br>**5月13日**<br>ひだかしんきん農業者支援ローン発売<br>**5月25日**<br>釧路方面広尾警察署と地域の安全・安心に関する協定を締結<br>**7月1日**<br>日高徳洲会病院内でATMの営業開始<br>**7月26日**<br>新冠町収納代理金融機関の指定受く<br>**7月27日**<br>札幌方面静内警察署と地域の安全・安心に関する協定を締結<br>**10月1日**<br>新ひだか町静内庁舎内に派出所を設置<br>**12月**<br>青少年育成事業で静内高校書道部・美術部とコラボによるカレンダーを制作 | **4月23日**<br>知床半島沖で観光船が沈没<br>**4月28日**<br>円が急落、20年ぶり一時131円台に<br>**7月8日**<br>安倍元総理、選挙応援演説中に撃たれ死亡<br>**9月27日**<br>安倍晋三国葬儀<br>**10月29日**<br>韓国梨泰院で雑踏事故 |

# 編 集 後 記

この度、創立100周年の節目にあたり、各種記念事業の一環として『日高信用金庫創立100周年記念誌』を刊行する運びとなり、度重なるコロナ感染拡大の影響により各種周年事業の中止並びに延期を余儀なくされたなか、およそ2年の制作期間を経て、こうして皆さまのお手元にお届けすることができました。

顧みますと、創立から今日までの100年間は常に、私どもを取り巻く経営環境が日々変化する激動の連続でありました。その幾多の困難を乗り越えることができたのは、数多くの先輩諸氏のご尽力とそれを力強く支えていただいた地域の皆さまのご支援のたまものであり、その永く尊い歴史を後世に書き残し、新しい時代の礎としたいとの思いで本誌編纂を進めてまいりました。

内容につきましては、言葉足らずや至らなき点も多々あろうかと思いますが、編纂の意をお汲み取りいただき、ご容赦願いたく存じます。

最後となりますが、本誌編纂にあたり、未曾有のコロナ禍で取材や撮影にご協力くださいました関係各位、お取引さまほか、先輩諸氏と、制作全般に亘りご尽力くださった大日本印刷株式会社グループのスタッフの皆さまに、この場をお借りし、心より感謝申し上げます。

令和5年8月

日高信用金庫 創立100周年記念誌 編集委員会

こちらの100周年事業サイトにアクセスしますと、
100周年記念映像をご覧になれます。

これまでも これからも このまちで

2023（令和5）年8月30日発行

発　行　日高信用金庫
北海道浦河郡浦河町大通2丁目31番地の2

編　集　日高信用金庫 創立100周年記念誌 編集委員会

印　刷　大日本印刷株式会社